

「戸田市における高齢者の生活と意識」調査 共同研究報告書

2013年3月

目白大学社会学部地域社会学科／戸田市政策研究所

目 次

序章 調査の概要	3
0 調査対象者の属性	5
0-1 性別と年齢	5
0-2 婚姻状態	6
0-3 世帯員数	7
0-4 同居人と世帯構造	7
0-3 収入の種類	10
0-4 年収	12
0-5 就業状況	13
0-6 最長職	17
0-7 最終学歴	19
0-7 居住地	20
0-8 居住経験	22
0-9 居住年数	23
0-5 世帯年収	23
0-5 夫婦（あなた）の貯蓄総額	27
0-6 住宅の所有形態	29
0-7 健康状態	29
1 住宅のバリアフリーの状況	33
1-1 現在の住宅におけるバリアフリーの状況	33
1-2 今後の自宅のバリアフリー化についての考え	37
2 住まいと居住地についての意識	41
2-2 住宅満足度	41
2-3 住宅に対する不満内容	42
2-4 現在の住宅に住み続ける意志	44
2-5 身体の具合が悪くなった際に望む暮らし	45
2-6 地域について日頃感じていること	46
3 外出やつきあいの状況	49
3-1 外出の頻度	49
3-2 外出の手段	50
3-3 居住地域で不便に思ったり、気になること	53
3-4 家族・友人・知人への連絡の際の IT 機器の利用	54
3-5 同居していない親族と会ったり、連絡をとる頻度	54
3-6 近所の人との付き合いの頻度	55
3-7 困ったことや悩みごとがあったときに、相談できる人数	55
3-8 困ったことや悩みごとがあったときに、相談できる人	57
3-9 病気などで寝込んだときに、世話を頼める人数	58
3-10 病気などで寝込んだときに、世話を頼める人	59
4 生活満足度などの意識	61
4-1 生活満足度などの意識	61
4-2 QOL（生活の質）得点と QOL カテゴリー	67
4-3 心配や悩みごと	70

5	自主活動	73
5-1	この1年間の自主活動への参加状況	73
5-2	最も力を入れた自主活動	76
5-3	活動に参加して良かったこと	77
5-4	自主活動への参加とQOL	78
5-4	今後の自主活動への参加希望	80
6	戸田市において実施されているサービスの利用・認知状況	83
7	困りごと、心配ごと、意見（自由記述）	87
7-1	下戸田地区	87
7-2	笹目地区	91
7-3	上戸田地区	93
7-4	新曽地区	96
7-5	美女木地区	98
7-6	居住地区不明	99
	調査票	101

序章 調査の概要

本報告書は、戸田市の市政運営について調査研究を行うことを目的に設置されている戸田市政策研究所が主体となり、目白大学社会学部地域社会学科と共同して実施した「戸田市における高齢者の生活と意識」調査の結果をまとめたものである。本調査は、65～74歳の戸田市住民の住まいや生活に係わる実態と意識を正確に把握し、今後の戸田市における高齢者施策、住宅施策に生かすことを目的に実施された。

2012年1月1日現在の戸田市の住民数は126,114人であり、そのうち、本調査の対象となる範囲(母集団)は、65～74歳の戸田市住民は10,592人(男性5,199人、女性5,393人)である。本調査ではサンプル数を1,500人とし、住民基本台帳から無作為抽出した。

調査は郵送法(郵送配布・郵送回収)で実施した。回答は無記名である。返送先は戸田市政策研究所とした。調査票は2012年9月24日に発送し、2週間後の10月8日までの返送を依頼した。返送期限の10月8日に、対象者全員に調査への協力に対する礼状を兼ねた督促ハガキを発送した。回収は10月23日で締め切った。

回収された調査票は785票で、発送した1500票に対する回収率は52.3%である。調査対象者以外が回答している票や白票などの無効票が21票あったため、有効票は764票であり、有効回収率は50.9%である。

0 調査対象者の属性

0-1 性別と年齢

調査対象者 764 人の性別は、男性 343 人 (44.9%)、女性 413 人 (54.1%)、無回答・不明 8 人 (1.0%) である (表 0-1)。無回答を除く

表 0-1 性別

	人数	%	有効%
男性	343	44.9%	45.4%
女性	413	54.1%	54.6%
有効回答者数	756	99.0%	100.0%
無回答・不明	8	1.0%	
合計	764	100.0%	

表 0-1 は調査対象者の年齢を表している。図 0-1 は年齢分布を実数で、図 0-2 は年齢分布を比率で図として表したものである。

表 0-2 年齢

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
60 歳代後半	360	47.1%	47.9%	159	46.8%	201	49.0%
65 歳	47	6.2%	6.3%	23	6.8%	24	5.9%
66 歳	67	8.8%	8.9%	30	8.8%	37	9.0%
67 歳	75	9.8%	10.0%	31	9.1%	44	10.7%
68 歳	88	11.5%	11.7%	39	11.5%	49	12.0%
69 歳	83	10.9%	11.0%	36	10.6%	47	11.5%
70 歳代前半	392	51.3%	52.1%	181	53.2%	209	51.0%
70 歳	106	13.9%	14.1%	44	12.9%	62	15.1%
71 歳	80	10.5%	10.6%	38	11.2%	42	10.2%
72 歳	82	10.7%	10.9%	39	11.5%	42	10.2%
73 歳	83	10.9%	11.0%	39	11.5%	43	10.5%
74 歳	41	5.4%	5.5%	21	6.2%	20	4.9%
有効回答者数	752	98.4%	100.0%	340	100.0%	410	100.0%
無回答・不明	12	1.6%		3		3	
合計	764	100.0%		343		413	

65～74 歳の各年齢の人数を見ると、多くの年齢で 80 人前ずつおり、それぞれ 1 割程度を占めている。最も人数が多かったのは 70 歳の 106 人であり、無回答を除く有効%で 14.1%を占めている。一方、本調査対象者の中で相対的に若い、65 歳は 47 人、66 歳は 67 人とややその人数が少なく、最も年齢が高い 74 歳も 41 人と、他の年齢層に比べると少なくなっている。

平均年齢は、男性 69.6 歳、女性 69.5 歳とほぼ同じである。より詳細に見ると (図 0-1)、66～70 歳では男性より女性が 7～18 人多くなっているが、71 歳以上では女性が 3～4 人多い程度である。そのため、71 歳以上の割合を見ると、男性 40.3%に対して女性では 35.9%と、4 ポイント程度低くなっている。男性に比べて女性では、相対的に若い年齢層がやや厚みをもっていると言える。

図 0-1 年齢構成 (人)

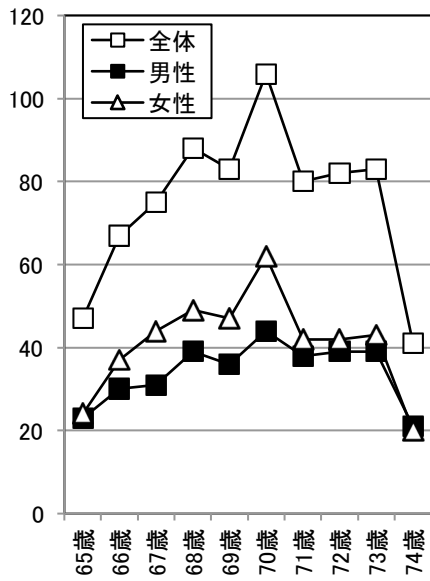
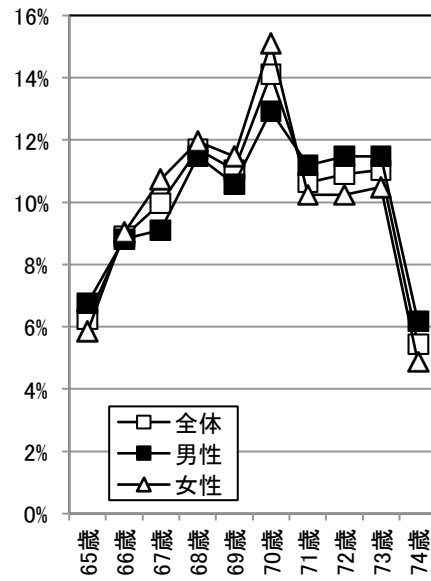


図 0-2 年齢構成 (%)



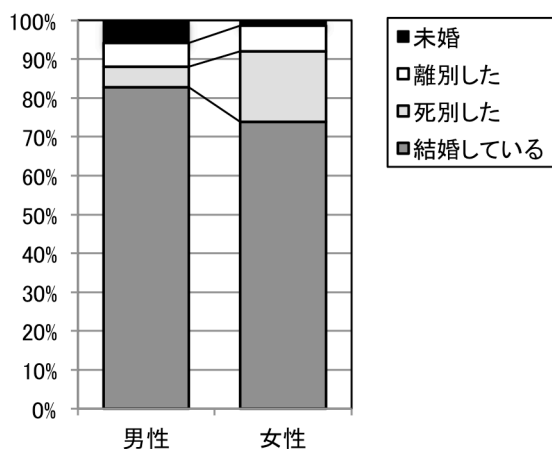
0-2 婚姻状態

表 0-3、図 0-3 は、調査対象者 764 人の婚姻状態を表している。

表 0-3 婚姻状態

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
結婚している	587	76.8%	77.6%	282	82.7%	304	73.8%
死別した	94	12.3%	12.4%	18	5.3%	75	18.2%
離別した	48	6.3%	6.3%	21	6.2%	27	6.6%
未婚	27	3.5%	3.6%	20	5.9%	6	1.5%
有効回答者数	756	99.0%	100.0%	341	100.0%	412	100.0%
無回答・不明	8	1.0%		2		1	
合計	764	100.0%		343		413	

図 0-3 婚姻状態



男性では、「結婚している」が82.7%、「死別した」5.3%、「離別した」6.2%、「未婚」5.9%となっている。女性では、「結婚している」が73.8%、「死別した」18.2%、「離別した」6.6%、「未婚」1.5%となっている。

男女別に見ると、「結婚している」割合は女性に比べて男性で9ポイント程度高くなっている。「未婚」割合も男性が4ポイント程度、4倍程度高くなっている。一方、「死別した」割合は、男性に比べ女性で13ポイント、3.5倍程度高くなっている。

0-3 世帯員数

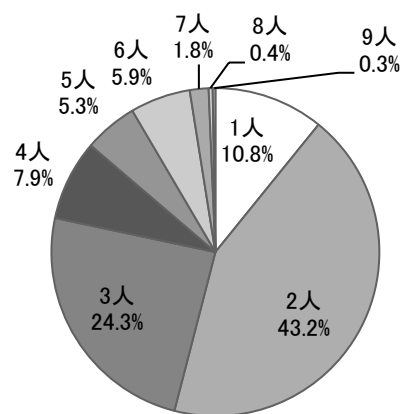
表0-4は、調査対象者764人に、対象者自身も含めて同居している家族の人数を尋ねた結果を表している。

全体について見ると、世帯員数1人が10.8%であり、2人42.8%、3人24.3%などとなっている。平均世帯人員は2.82人、男性対象者では2.77人、女性対象者では2.87人だった。

表0-4 同居している家族の人数

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
1人	82	10.7%	10.8%	40	11.7%	41	10.0%
2人	327	42.8%	43.2%	143	41.8%	182	44.3%
3人	184	24.1%	24.3%	93	27.2%	91	22.1%
4人	60	7.9%	7.9%	25	7.3%	35	8.5%
5人	40	5.2%	5.3%	13	3.8%	26	6.3%
6人	45	5.9%	5.9%	20	5.8%	25	6.1%
7人	14	1.8%	1.8%	6	1.8%	8	1.9%
8人	3	0.4%	0.4%	1	0.3%	2	0.5%
9人	2	0.3%	0.3%	1	0.3%	1	0.2%
有効回答者数	757	99.1%	100.0%	342	100.0%	411	100.0%
無回答・不明	7	0.9%		1		2	
合計	764	100.0%		343		413	

図0-4 同居している家族の人数



0-4 同居人と世帯構造

表0-5は、調査対象者764人に、一緒に住んでいる人（いわゆる二世帯住宅や同じ敷地内で別の棟に住んでいる場合を含む）を複数選択で尋ねた結果を表している。

「配偶者」と住んでいる割合が73.2%と突出して高く、以下、「息子」28.5%、「娘」23.5%、「孫」14.8%、「子どもの配偶者」12.1%と続く。「ひとり暮らし」は10.7%と1割程度であった。

表0-5 同居人

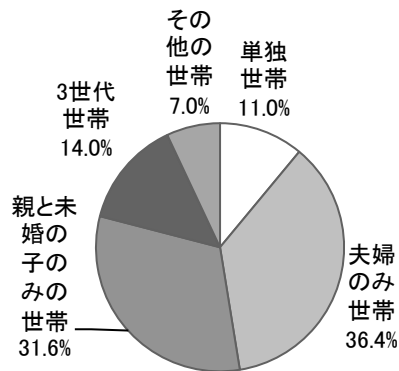
	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
ひとり暮らし	82	10.7%	11.0%	40	11.9%	41	10.2%
配偶者(夫または妻)	559	73.2%	75.1%	272	80.7%	286	71.0%
あなたの親、または配偶者の親	26	3.4%	3.5%	18	5.3%	8	2.0%
息子	212	27.7%	28.5%	85	25.2%	127	31.5%
娘	175	22.9%	23.5%	75	22.3%	99	24.6%
子どもの配偶者	90	11.8%	12.1%	37	11.0%	52	12.9%
孫	110	14.4%	14.8%	39	11.6%	70	17.4%
あなたの兄弟姉妹	7	0.9%	0.9%	4	1.2%	3	0.7%
その他の親族	6	0.8%	0.8%	2	0.6%	3	0.7%
親族以外の者	6	0.8%	0.8%	5	1.5%	1	0.2%
有効回答者数	744	97.4%	100.0%	337	100.0%	403	100.0%
無回答・不明	20	2.6%		6		10	
合計	764	100.0%		343		413	

表0-6は、表0-5の同居人の組み合わせから世帯構造を見たものである。

表 0-6 世帯構造

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
単独世帯	82	10.7%	11.0%	40	11.9%	41	10.2%
夫婦のみ世帯	271	35.5%	36.4%	128	38.0%	142	35.2%
親と子のみの世帯	235	30.8%	31.6%	98	29.1%	137	34.0%
3世代世帯	104	13.6%	14.0%	37	11.0%	66	16.4%
その他の世帯	52	6.8%	7.0%	34	10.1%	17	4.2%
有効回答者数	744	97.4%	100.0%	337	100.0%	403	100.0%
無回答・不明	20	2.6%		6		10	
合計	764	100.0%		343		413	

図 0-5 世帯構造



「単独世帯」が 11.0%、「夫婦のみ世帯」が 36.4% を占める。夫婦またはそのいずれかと子だけからなる「親と子のみの世帯」は 31.6%、調査対象者が子・孫と同居している「3世代世帯」は 14.0% であった¹。「その他の世帯」は 7.4% であった。

¹ ここでの「3世代世帯」は、調査対象者がその子、孫という三つ以上の世代が同居している世帯をいい、それ以外の世帯員がいるか否かは問わないこととした。そのため、調査対象者がその親と子と同居しているが、孫とは同居していない7人については「その他の世帯」とし、「3世代世帯」には含めていない。

調査対象者の年齢階層別に世帯構造を見ると、表 0-7 のようになる。

表 0-7 年齢階層別、世帯構造

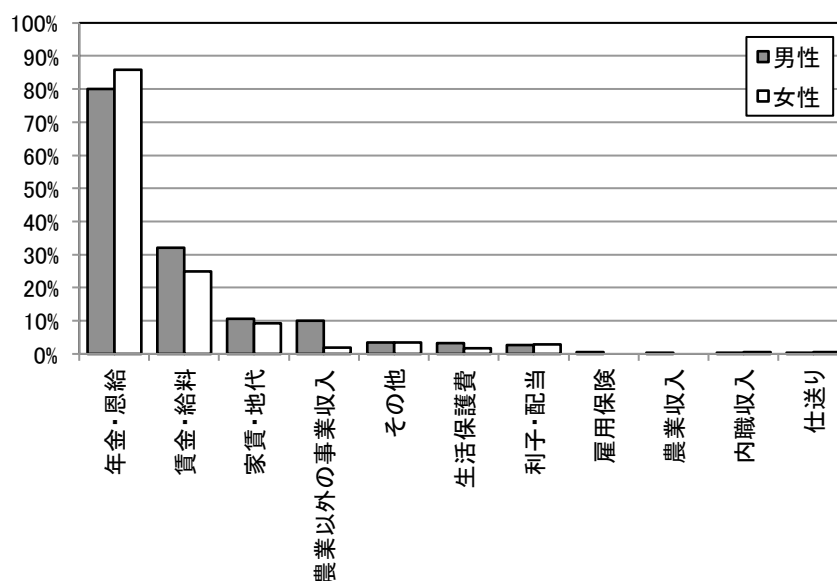
		単 独 世 帯	夫 婦 の み 世 帯	親 と 子 の み の 世 帯	3 世 代 世 帯	そ の 他 の 世 帯	合 計
男性	65・66 歳	6 11.5%	22 42.3%	13 25.0%	4 7.7%	7 13.5%	52 100.0%
	67・68 歳	9 13.2%	30 44.1%	14 20.6%	7 10.3%	8 11.8%	68 100.0%
	69・70 歳	11 13.9%	24 30.4%	26 32.9%	10 12.7%	8 10.1%	79 100.0%
	71・72 歳	11 14.7%	27 36.0%	23 30.7%	8 10.7%	6 8.0%	75 100.0%
	73・74 歳	3 5.0%	24 40.0%	20 33.3%	8 13.3%	5 8.3%	60 100.0%
	合計	40 12.0%	127 38.0%	96 28.7%	37 11.1%	34 10.2%	334 100.0%
女性	65・66 歳	4 6.8%	19 32.2%	22 37.3%	9 15.3%	5 8.5%	59 100.0%
	67・68 歳	7 7.7%	34 37.4%	35 38.5%	13 14.3%	2 2.2%	91 100.0%
	69・70 歳	9 8.6%	40 38.1%	34 32.4%	18 17.1%	4 3.8%	105 100.0%
	71・72 歳	9 11.0%	30 36.6%	25 30.5%	14 17.1%	4 4.9%	82 100.0%
	73・74 歳	12 19.0%	18 28.6%	21 33.3%	10 15.9%	2 3.2%	63 100.0%
	合計	41 10.3%	141 35.3%	137 34.3%	64 16.0%	17 4.3%	400 100.0%
合計	65・66 歳	10 9.0%	41 36.9%	35 31.5%	13 11.7%	12 10.8%	111 100.0%
	67・68 歳	16 10.1%	64 40.3%	49 30.8%	20 12.6%	10 6.3%	159 100.0%
	69・70 歳	20 10.9%	64 34.8%	60 32.6%	28 15.2%	12 6.5%	184 100.0%
	71・72 歳	20 12.7%	57 36.3%	48 30.6%	22 14.0%	10 6.4%	157 100.0%
	73・74 歳	15 12.2%	42 34.1%	41 33.3%	18 14.6%	7 5.7%	123 100.0%
	合計	81 11.0%	268 36.5%	233 31.7%	101 13.8%	51 6.9%	734 100.0%

0-3 収入の種類

表 0-8 は、調査対象者 764 人に、「現在のあなたの収入源は何ですか？」と収入の種類について複数選択で尋ねた結果を表している。図 0-6 は、男女別に収入の種類を表したものである。

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
年金・恩給	627	82.1%	83.0%	274	80.1%	350	85.8%
賃金・給料	214	28.0%	28.3%	110	32.2%	102	25.0%
家賃・地代	74	9.7%	9.8%	36	10.5%	38	9.3%
農業以外の事業収入	42	5.5%	5.6%	34	9.9%	8	2.0%
利子・配当	21	2.7%	2.8%	9	2.6%	12	2.9%
生活保護費	19	2.5%	2.5%	11	3.2%	7	1.7%
内職収入	3	0.4%	0.4%	1	0.3%	2	0.5%
仕送り	3	0.4%	0.4%	1	0.3%	2	0.5%
雇用保険	2	0.3%	0.3%	2	0.6%	0	0.0%
農業収入	1	0.1%	0.1%	1	0.3%	0	0.0%
その他	26	3.4%	3.4%	12	3.5%	14	3.4%
有効回答者数	755	98.8%	100.0%	342	100.0%	408	100.0%
無回答・不明	9	1.2%		1		5	
合計	764	100.0%		343		413	

図 0-6 男女別、収入の種類



全体では、「年金・恩給」83.0%と8割を超えており、突出して高い割合となっている。以下、「賃金・給料」28.3%が3割程度、「家賃・地代」9.8%、「農業以外の事業収入」5.6%、「利子・配当」2.8%、「生活保護費」2.5%、「内職収入」0.4%、「仕送り」0.4%、「雇用保険」0.3%、「農業収入」0.1%と続く。「その他」も3.4%いた。

男女別に見ると、「農業以外の事業収入」の割合は女性2.0%に対して男性では9.9%と8ポイント程度高く、「賃金・給料」の割合も女性25.0%に対して男性では32.2%と7ポイント程度高くなっている。一方、「年金・恩給」の割合は男性80.1%に対して、女性では85.8%と、女性が6ポイント程度高くなっている。

表 0-9 は、年齢階層別に収入の種類を表したものである。

表 0-9 年齢階層別、収入の種類

		年金・恩給	賃金・給料	農業以外の 事業収入	家賃・地代	利子・ 配当	生活保護費	内職収入	仕送り	雇用保険	農業収入	その他	合計
男性	65・66 歳	44 83.0%	25 47.2%	3 5.7%	4 7.5%	4 7.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.9%	53 100.0%
	67・68 歳	54 77.1%	34 48.6%	6 8.6%	11 15.7%	2 2.9%	2 2.9%	1 1.4%	0 0.0%	1 1.4%	0 0.0%	2 2.9%	70 100.0%
	69・70 歳	65 81.3%	22 27.5%	12 15.0%	8 10.0%	1 1.3%	3 3.8%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 5.0%	80 100.0%
	71・72 歳	61 79.2%	16 20.8%	8 10.4%	8 10.4%	2 2.6%	4 5.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.6%	77 100.0%
	73・74 歳	47 79.7%	13 22.0%	5 8.5%	5 8.5%	0 0.0%	2 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.7%	1 1.7%	3 5.1%	59 100.0%
	合計	271 79.9%	110 32.4%	34 10.0%	36 10.6%	9 2.7%	11 3.2%	1 0.3%	1 0.3%	2 0.6%	1 0.3%	12 3.5%	339 100.0%
女性	65・66 歳	51 85.0%	23 38.3%	0 0.0%	4 6.7%	1 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.0%	60 100.0%
	67・68 歳	73 80.2%	30 33.0%	3 3.3%	11 12.1%	2 2.2%	1 1.1%	1 1.1%	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	91 100.0%
	69・70 歳	94 87.9%	22 20.6%	2 1.9%	10 9.3%	1 0.9%	3 2.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 3.7%	107 100.0%
	71・72 歳	74 88.1%	15 17.9%	3 3.6%	7 8.3%	5 6.0%	1 1.2%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 4.8%	84 100.0%
	73・74 歳	55 87.3%	12 19.0%	0 0.0%	6 9.5%	3 4.8%	2 3.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.2%	63 100.0%
	合計	347 85.7%	102 25.2%	8 2.0%	38 9.4%	12 3.0%	7 1.7%	2 0.5%	2 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	14 3.5%	405 100.0%
合計	65・66 歳	95 84.1%	48 42.5%	3 2.7%	8 7.1%	5 4.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	4 3.5%	113 100.0%
	67・68 歳	127 78.9%	64 39.8%	9 5.6%	22 13.7%	4 2.5%	3 1.9%	2 1.2%	1 0.6%	1 0.6%	0 0.0%	3 1.9%	161 100.0%
	69・70 歳	159 85.0%	44 23.5%	14 7.5%	18 9.6%	2 1.1%	6 3.2%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	8 4.3%	187 100.0%
	71・72 歳	135 83.9%	31 19.3%	11 6.8%	15 9.3%	7 4.3%	5 3.1%	1 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 3.7%	161 100.0%
	73・74 歳	102 83.6%	25 20.5%	5 4.1%	11 9.0%	3 2.5%	4 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	1 0.8%	5 4.1%	122 100.0%
	合計	618 83.1%	212 28.5%	42 5.6%	74 9.9%	21 2.8%	18 2.4%	3 0.4%	3 0.4%	2 0.3%	1 0.1%	26 3.5%	744 100.0%

男性について見ると、「賃金・給料」の割合は年齢による違いが大きく、65・66 歳では 47.2%、67・68 歳 48.6% と、68 歳以下の年齢階層では 5 割近いが、年齢が上がり 69・70 歳になると 27.5% と大きく下がり、71・72 歳では 20.8%、73・74 歳 22.0% と、70 歳を超えると 2 割程度となる。女性についても同様の傾向が見られ、「賃金・給料」の割合は、65・66 歳 38.3%、67・68 歳 33.0%、69・70 歳 20.6%、71・72 歳 17.9%、73・74 歳 19.0% と、年齢が高くなると低くなっている。

0-4 年収

表 0-10、0-11 は、調査対象者 764 人に「あなたの過去 1 年間の収入の合計はどれくらいですか？ 税込みでお答えください」と尋ねた結果を表している。図 0-7、0-8 は表 0-10 の無回答を除く有効回答者についての結果を図として表したものである。

表 0-10 年収

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
50 万円未満	57	7.5%	8.0%	3	0.9%	54	14.3%
50-100 万円未満	173	22.6%	24.4%	26	8.0%	144	38.2%
100-150 万円未満	99	13.0%	14.0%	29	8.9%	69	18.3%
150-200 万円未満	91	11.9%	12.8%	52	15.9%	39	10.3%
200-250 万円未満	78	10.2%	11.0%	55	16.8%	23	6.1%
250-300 万円未満	54	7.1%	7.6%	43	13.1%	11	2.9%
300-400 万円未満	73	9.6%	10.3%	54	16.5%	18	4.8%
400-500 万円未満	30	3.9%	4.2%	20	6.1%	10	2.7%
500-700 万円未満	27	3.5%	3.8%	20	6.1%	7	1.9%
700-1,000 万円未満	14	1.8%	2.0%	13	4.0%	1	0.3%
1,000-1,500 万円未満	7	0.9%	1.0%	6	1.8%	1	0.3%
1,500 万円以上	6	0.8%	0.8%	6	1.8%	0	0.0%
有効回答者数	709	92.8%	100.0%	327	100.0%	377	100.0%
無回答・不明	55	7.2%		16		36	
合計	764	100.0%		343		413	

表 0-11 年収 (万円) ²

	平均値	中央値	人数
男性	325.4	225.0	327
女性	140.3	75.0	377
合計(全体)	225.7	175.0	709

図 0-7 年収

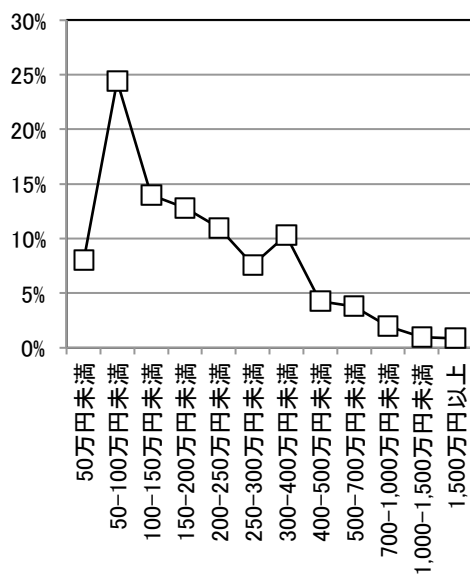
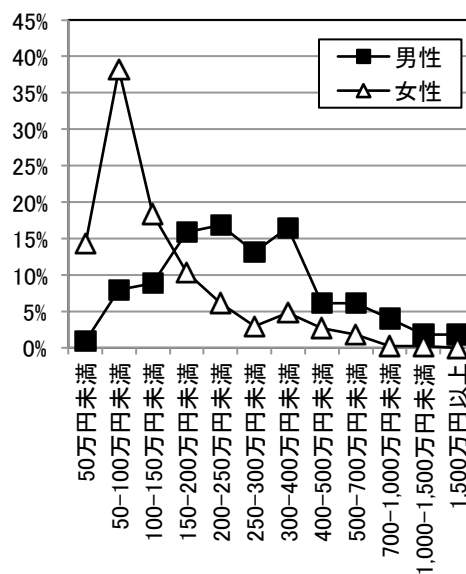


図 0-8 性別、年収



² 平均年収は、回答の各カテゴリーの中央の値を与え（「50万円未満」＝「25」「50～100万円未満」＝「75」、「100～150万円未満」＝「125」など）、「1500万円以上」には「1500」の値を与えることで算出した。

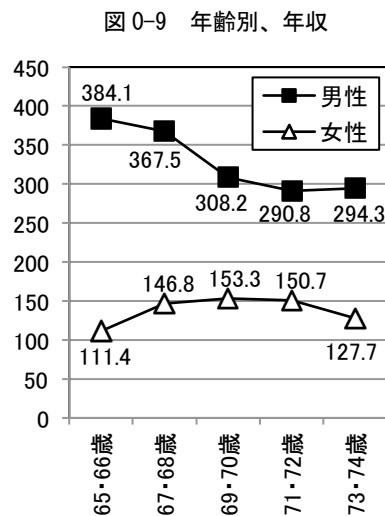
回答者全体の年収分布を見ると（図0-7）、「50～100万円未満」24.4%をピークとする低収入側に偏った分布となっている。回答者全体の平均年収は225.7万円であった。また、中央値は175.0万円であり、回答者の半数は年収が175万円以下であることが分かる。

男女別に見ると（図0-8）、女性では「50～100万円未満」が38.2%をピークとする低収入側に偏った分布となっているが、男性では「150～200万円未満」15.9%、「200～250万円未満」16.8%、「250～300万円未満」13.1%、「300～400万円未満」16.5%がそれぞれ13～17%程度を占め、台形状のピークを構成する分布となっている。男性の平均年収は225.0万円であり、女性の平均年収140.3万円に比べて185万円ほど低く、4割程度の額となっている。中央値を見ると、男性の225.0万円に対して、女性では75.0万円と150万円低く、3分の1程度の額となっている。

表0-12、図0-9は、男女別・年齢別に平均年収を表したものである。図0-9は、年齢が1歳刻みであると、ばらつきが大きくなるため、2歳刻みに集計し直して図として表している。

表0-12 年齢別、年収

	男性		女性	
	平均値	人数	平均値	人数
65歳	439.8	22	113.0	23
66歳	343.3	30	110.4	36
67歳	383.1	31	145.2	42
68歳	355.1	39	148.3	44
69歳	368.0	32	140.1	43
70歳	261.6	41	163.4	56
71歳	344.6	37	143.9	37
72歳	235.4	36	157.4	37
73歳	323.7	39	116.4	38
74歳	230.6	18	151.4	18
合計	326.8	325	140.8	374



男性の平均年収は、65・66歳384.1万円、67・68歳367.5万円、69・70歳308.2万円、71・72歳290.8万円、73・74歳294.3万円と年齢が高くなるに従って低くなっており、70歳を超えたあたりで横ばいとなっている。一方、女性の平均年収は、65・66歳111.4万円、67・68歳146.8万円、69・70歳153.3万円、71・72歳150.7万円、73・74歳127.7万円と69・70歳をピークとする緩やかな山型となっている。

0-5 就業状況

表0-13は、調査対象者764人に「収入のある仕事」の状況について尋ねた結果を表している。

表0-13 就業状況

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
仕事をしている	291	38.1%	39.7%	160	48.3%	129	32.6%
企業・団体の経営者・役員	29	3.8%	4.0%	20	6.0%	9	2.3%
正社員・正規職員	17	2.2%	2.3%	12	3.6%	5	1.3%
契約・嘱託の社員・職員	21	2.7%	2.9%	19	5.7%	2	0.5%
パート、アルバイト、派遣	112	14.7%	15.3%	44	13.3%	67	16.9%
自営業主	59	7.7%	8.0%	47	14.2%	12	3.0%
自営業の家族従業者	32	4.2%	4.4%	4	1.2%	28	7.1%
その他の仕事	21	2.7%	2.9%	14	4.2%	6	1.5%
専業主婦・主夫	114	14.9%	15.6%	6	1.8%	108	27.3%
仕事はしていない	328	42.9%	44.7%	165	49.8%	159	40.2%
有効回答者数	733	95.9%	100.0%	331	100.0%	396	100.0%
無回答・不明	31	4.1%		12		17	
合計	764	100.0%		343		413	

男性について見ると、「仕事をしている」割合は男性では48.3%と5割近くに達している。「専業主夫」は1.8%、「仕事はしていない」は49.8%であり、合わせると51.7%となる。仕事をしている人について、より詳しく仕事のタイプ別に見ると、「自営業主」14.2%、「パート、アルバイト、派遣」13.3%が1割を超えており、以下、「企業・団体の経営者・役員」6.0%、「契約・嘱託の社員・職員」5.7%、「正社員・正規職員」3.6%、「自営業の家族従業者」1.2%と続く。また、上記に含まれない「その他の仕事」が4.2%いた。

女性では32.6%、3分の1程度が仕事をしている。「専業主婦」は27.3%、「仕事はしていない」は40.1%であり、合わせると67.4%となる。仕事をしている人について、仕事のタイプ別に見ると、「パート、アルバイト、派遣」が16.9%と最も高い割合を占め、以下、「自営業の家族従業者」7.1%、「自営業主」3.0%、「企業・団体の経営者・役員」2.3%、「正社員・正規職員」1.3%、「契約・嘱託の社員・職員」0.5%と続いている。「その他の仕事」も1.5%いた。

表 0-14 は、年齢階層別に就業状況を表したものである。

表 0-14 年齢別、就業状況

		仕事をしている								専業主婦・主夫	仕事はしていない	合計
		企業・団体の経営者・役員	正社員・正規職員	契約・嘱託の社員・職員	パート、アルバイト、派遣	自営業主	自営業の家族従業者	その他の仕事				
男性	65・66 歳	31 58.5%	2 3.8%	2 3.8%	6 11.3%	13 24.5%	5 9.4%	1 1.9%	2 3.8%	0 0.0%	22 41.5%	53 100.0%
	67・68 歳	41 60.3%	6 8.8%	4 5.9%	6 8.8%	11 16.2%	9 13.2%	1 1.5%	4 5.9%	1 1.5%	26 38.2%	68 100.0%
	69・70 歳	39 50.6%	5 6.5%	1 1.3%	2 2.6%	9 11.7%	18 23.4%	2 2.6%	2 2.6%	2 2.6%	36 46.8%	77 100.0%
	71・72 歳	27 37.5%	6 8.3%	3 4.2%	3 4.2%	6 8.3%	7 9.7%	0 0.0%	2 2.8%	1 1.4%	44 61.1%	72 100.0%
	73・74 歳	22 37.9%	1 1.7%	2 3.4%	2 3.4%	5 8.6%	8 13.8%	0 0.0%	4 6.9%	2 3.4%	34 58.6%	58 100.0%
	合計	160 48.8%	20 6.1%	12 3.7%	19 5.8%	44 13.4%	47 14.3%	4 1.2%	14 4.3%	6 1.8%	162 49.4%	328 100.0%
女性	65・66 歳	25 42.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19 32.2%	2 3.4%	4 6.8%	0 0.0%	12 20.3%	22 37.3%	59 100.0%
	67・68 歳	39 42.9%	4 4.4%	2 2.2%	1 1.1%	20 22.0%	3 3.3%	9 9.9%	0 0.0%	16 17.6%	36 39.6%	91 100.0%
	69・70 歳	30 29.4%	2 2.0%	2 2.0%	1 1.0%	14 13.7%	4 3.9%	5 4.9%	2 2.0%	35 34.3%	37 36.3%	102 100.0%
	71・72 歳	22 27.5%	1 1.3%	1 1.3%	0 0.0%	9 11.3%	2 2.5%	6 7.5%	3 3.8%	24 30.0%	34 42.5%	80 100.0%
	73・74 歳	13 21.3%	2 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	5 8.2%	1 1.6%	4 6.6%	1 1.6%	21 34.4%	27 44.3%	61 100.0%
	合計	129 32.8%	9 2.3%	5 1.3%	2 0.5%	67 17.0%	12 3.1%	28 7.1%	6 1.5%	108 27.5%	156 39.7%	393 100.0%
合計	65・66 歳	56 50.0%	2 1.8%	2 1.8%	6 5.4%	32 28.6%	7 6.3%	5 4.5%	2 1.8%	12 10.7%	44 39.3%	112 100.0%
	67・68 歳	80 50.3%	10 6.3%	6 3.8%	7 4.4%	31 19.5%	12 7.5%	10 6.3%	4 2.5%	17 10.7%	62 39.0%	159 100.0%
	69・70 歳	69 38.5%	7 3.9%	3 1.7%	3 1.7%	23 12.8%	22 12.3%	7 3.9%	4 2.2%	37 20.7%	73 40.8%	179 100.0%
	71・72 歳	49 32.2%	7 4.6%	4 2.6%	3 2.0%	15 9.9%	9 5.9%	6 3.9%	5 3.3%	25 16.4%	78 51.3%	152 100.0%
	73・74 歳	35 29.4%	3 2.5%	2 1.7%	2 1.7%	10 8.4%	9 7.6%	4 3.4%	5 4.2%	23 19.3%	61 51.3%	119 100.0%
	合計	289 40.1%	29 4.0%	17 2.4%	21 2.9%	111 15.4%	59 8.2%	32 4.4%	20 2.8%	114 15.8%	318 44.1%	721 100.0%

男性について見ると、「仕事をしている」割合は、65・66歳 58.5%、67・68歳 60.3%と、68歳以下では6割程度であるが、69・70歳になると50.6%と5割程度になり、71・72歳 37.5%、73・74歳 37.9%と71歳以上では4割弱まで下がる。仕事のタイプ別に見ると、「パート、アルバイト、派遣」では年齢による違いが大きく、65・66歳では24.5%を占めるが、67・68歳 16.2%、69・70歳 11.7%、71・72歳 8.3%、73・74歳 8.6%と、高齢になるほどその割合は低くなっている。また、「自営業主」の割合は、65・66歳 9.4%、67・68歳 13.2%、69・70歳 23.4%、71・72歳 9.7%、73・74歳 13.8%となっており、69・70歳の高さが目立つ。これら以外のタイプの仕事では、65～74歳という本調査対象者の年齢の範囲では、年齢によるはっきりとした違いは見られない。一方、「専業主夫」「仕事はしていない」を合わせた割合は、65・66歳 41.5%、67・68歳 39.7%の4割程度から、69・70歳には49.4%と5割程度、71・72歳 62.5%、73・74歳 62.0%と年齢の上昇に伴って割合が高くなっている。

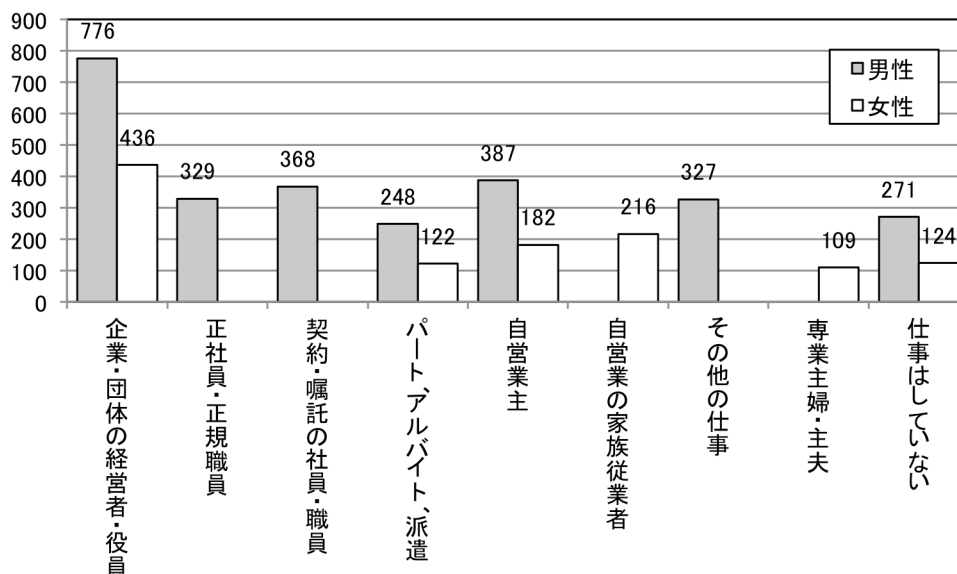
女性について見ると、「仕事をしている」割合は、65・66歳42.4%、67・68歳42.9%と、68歳以下では4割程度であるが、69・70歳では29.4%、71・72歳27.5%、73・74歳21.3%と、高齢になるほど低くなっている。仕事のタイプ別では、男性同様、「パート、アルバイト、派遣」で年齢による違いが大きく、65・66歳では32.2%と3割を超えていたが、67・68歳では22.0%、69・70歳13.7%、71・72歳11.3%、73・74歳8.2%と、高齢になるほど低くなっている。その他の仕事では、年齢による違いははっきりとは見られない。一方、「専業主婦」の割合は、65・66歳20.3%、67・68歳17.6%と、68歳以下では2割程度であるが、69・70歳34.3%、71・72歳30.0%、73・74歳34.4%と68歳以上では3割を超えている。「仕事はしていない」の割合は、65・66歳37.3%、67・68歳39.6%、69・70歳36.3%、71・72歳42.5%、73・74歳44.3%と、高齢になるとやや高くなる傾向が見られる。「専業主婦」「仕事はしていない」の合計を見ると、65・66歳57.6%、67・68歳57.2%と68歳以下では6割弱であるが、69・70歳70.6%、71・72歳72.5%、73・74歳78.7%と、高齢になるほどその割合は高くなっている。

表0-15は、就業状況別に平均年収を求めたものである。ただし、この平均年収は就業によって得られた額だけでなく、年金収入も含まれているといった場合もあるので、注意が必要である。また、図0-10には人数が10人未満の項目は略している。

表0-15 就業状況と平均年収

	男性			女性		
	平均値 (万円)	中央値 (万円)	人数	平均値 (万円)	中央値 (万円)	人数
企業・団体の経営者・役員	776.3	600.0	20	436.1	410.0	9
正社員・正規職員	329.2	293.8	12	415.0	350.0	5
契約・嘱託の社員・職員	368.1	331.3	18	175.0	175.0	2
パート、アルバイト、派遣	248.3	243.4	44	121.6	114.5	66
自営業主	387.0	310.3	46	181.8	150.0	11
自営業の家族従業者	231.3	225.0	4	216.0	116.7	25
その他の仕事	326.8	318.8	14	145.8	112.5	6
専業主婦・主夫	141.7	125.0	6	109.3	85.3	99
仕事はしていない	270.8	217.6	154	123.6	96.8	145
合計	323.5	250.3	318	139.7	103.7	368

図0-10 就業状況と平均年収



男性について平均年収をみると、「企業・団体の経営者・役員」が776.3万円と飛び抜けて高くなっている。以下、「自営業主」387.0万円、「契約・嘱託の社員・職員」368.1万円、「正社員・正規職員」は329.2万円、「パート、アルバイト、派遣」248.3万円と続いている。「その他の仕事」は326.8万円だった。また、「仕事はしていない」は270.8万円だった。

女性について平均年収を見ると、「企業・団体の経営者・役員」が436.1万円で最も高く、以下、「パート、アルバイト、派遣」121.6万円、「自営業主」181.8万円、「自営業の家族従業者」216.0万円となっている。また、「専業主婦・主夫」109.3万円、「仕事はしていない」は123.6万円だった。

0-6 最長職

表 0-16 は、調査対象者 764 人に「これまでで一番長く従事した仕事」について尋ねた結果を表している。

表 0-16 最長職

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
仕事をしていた	632	82.7%	85.4%	330	99.7%	298	73.8%
企業・団体の経営者・役員	37	4.8%	5.0%	29	8.8%	8	2.0%
正社員・正規職員	279	36.5%	37.7%	203	61.3%	74	18.3%
契約・嘱託の社員・職員	8	1.0%	1.1%	5	1.5%	3	0.7%
パート、アルバイト、派遣	121	15.8%	16.4%	8	2.4%	111	27.5%
自営業主	97	12.7%	13.1%	68	20.5%	29	7.2%
自営業の家族従業者	79	10.3%	10.7%	9	2.7%	70	17.3%
その他の仕事	11	1.4%	1.5%	8	2.4%	3	0.7%
専業主婦・主夫	93	12.2%	12.6%	0	0.0%	92	22.8%
仕事はしていない	15	2.0%	2.0%	1	0.3%	14	3.5%
有効回答者数	740	96.9%	100.0%	331	100.0%	404	100.0%
無回答・不明	24	3.1%		12		9	
合計	764	100.0%		343		413	

男性では、「仕事をしていた」が99.7%を占め、「仕事をしていなかった」は1人0.3%、「専業主婦」はいなかった。仕事の中身を見ると、一番長く従事した仕事が「正社員・正規職員」である割合が61.3%と突出して高く、「自営業主」も20.5%と2割程度いた。以下、「企業・団体の経営者・役員」8.8%、「自営業の家族従業者」2.7%、「パート、アルバイト、派遣」2.4%、「契約・嘱託の社員・職員」1.5%と続く。「その他の仕事」も2.4%いた。

女性では、「仕事をしていた」が73.8%であり、「専業主婦」は22.8%、「仕事はしていない」は0.7%であった。仕事の中身を見ると、一番長く従事した仕事が「パート、アルバイト、派遣」である割合が27.5%と最も高く、以下、「正社員・正規職員」18.3%、「自営業の家族従業者」17.3%、「自営業主」7.2%、「企業・団体の経営者・役員」2.0%、「契約・嘱託の社員・職員」0.7%と続いている。「その他の仕事」も0.7%いた。

表 0-17 は、年齢階層別に最長職を表したものである。

表 0-17 年齢階層別、最長職

		仕事をしてきた								専業主婦・主夫	仕事はしていない	合計
		企業・団体の経営者・役員	正社員・正規職員	契約・嘱託の社員・職員	パート、アルバイト、派遣	自営業主	自営業の家族従業員	その他の仕事				
男性	65・66 歳	52 100.0%	3 5.8%	38 73.1%	1 1.9%	2 3.8%	6 11.5%	0 0.0%	2 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	52 100.0%
	67・68 歳	67 100.0%	6 9.0%	39 58.2%	1 1.5%	1 1.5%	17 25.4%	3 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	67 100.0%
	69・70 歳	76 98.7%	8 10.4%	40 51.9%	1 1.3%	2 2.6%	20 26.0%	4 5.2%	1 1.3%	0 0.0%	1 1.3%	77 100.0%
	71・72 歳	75 100.0%	9 12.0%	50 66.7%	0 0.0%	1 1.3%	11 14.7%	1 1.3%	3 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	75 100.0%
	73・74 歳	57 100.0%	3 5.3%	34 59.6%	2 3.5%	1 1.8%	14 24.6%	1 1.8%	2 3.5%	0 0.0%	0 0.0%	57 100.0%
	合計	327 99.7%	29 8.8%	201 61.3%	5 1.5%	7 2.1%	68 20.7%	9 2.7%	8 2.4%	0 0.0%	1 0.3%	328 100.0%
女性	65・66 歳	46 78.0%	1 1.7%	13 22.0%	2 3.4%	19 32.2%	5 8.5%	6 10.2%	0 0.0%	13 22.0%	0 0.0%	59 100.0%
	67・68 歳	70 77.8%	4 4.4%	12 13.3%	1 1.1%	27 30.0%	7 7.8%	18 20.0%	1 1.1%	17 18.9%	3 3.3%	90 100.0%
	69・70 歳	75 70.1%	1 0.9%	23 21.5%	0 0.0%	27 25.2%	7 6.5%	17 15.9%	0 0.0%	28 26.2%	4 3.7%	107 100.0%
	71・72 歳	64 77.1%	0 0.0%	17 20.5%	0 0.0%	20 24.1%	5 6.0%	21 25.3%	1 1.2%	15 18.1%	4 4.8%	83 100.0%
	73・74 歳	40 64.5%	2 3.2%	9 14.5%	0 0.0%	15 24.2%	5 8.1%	8 12.9%	1 1.6%	19 30.6%	3 4.8%	62 100.0%
	合計	295 73.6%	8 2.0%	74 18.5%	3 0.7%	108 26.9%	29 7.2%	70 17.5%	3 0.7%	92 22.9%	14 3.5%	401 100.0%
合計	65・66 歳	98 88.3%	4 3.6%	51 45.9%	3 2.7%	21 18.9%	11 9.9%	6 5.4%	2 1.8%	13 11.7%	0 0.0%	111 100.0%
	67・68 歳	137 87.3%	10 6.4%	51 32.5%	2 1.3%	28 17.8%	24 15.3%	21 13.4%	1 0.6%	17 10.8%	3 1.9%	157 100.0%
	69・70 歳	151 82.1%	9 4.9%	63 34.2%	1 0.5%	29 15.8%	27 14.7%	21 11.4%	1 0.5%	28 15.2%	5 2.7%	184 100.0%
	71・72 歳	139 88.0%	9 5.7%	67 42.4%	0 0.0%	21 13.3%	16 10.1%	22 13.9%	4 2.5%	15 9.5%	4 2.5%	158 100.0%
	73・74 歳	97 81.5%	5 4.2%	43 36.1%	2 1.7%	16 13.4%	19 16.0%	9 7.6%	3 2.5%	19 16.0%	3 2.5%	119 100.0%
	合計	622 85.3%	37 5.1%	275 37.7%	8 1.1%	115 15.8%	97 13.3%	79 10.8%	11 1.5%	92 12.6%	15 2.1%	729 100.0%

男性について見ると、いずれの年齢でも「仕事をしてきた」がほぼ 100%を占めるが、最長職が「正社員・正規職員」である割合は、65・66 歳 73.1%、67・68 歳 58.2%、69・70 歳 51.9%、71・72 歳 66.7%、73・74 歳 59.6%と、一貫した傾向ではないが、65・66 歳、71・72 歳で 7 割前後、67・68 歳、73・74 歳で 6 割程度、69・70 歳で 5 割程度と差が見られる。一方、最長職が「自営業主」である割合は、65・66 歳 11.5%、67・68 歳 25.4%、69・70 歳 26.0%、71・72 歳 14.7%、73・74 歳 24.6%となっており、67・68 歳、69・70 歳 26.0%、73・74 歳で 25%前後を占めているが、65・66 歳、71・72 歳では 1 割を超える程度と他の年齢階層に比べると低くなっている。

女性について見ると、「仕事をしてきた」割合は、65・66 歳 78.0%、67・68 歳 77.8%、69・70 歳 70.1%、71・72 歳 77.1%、73・74 歳 64.5%と、65・66 歳、67・68 歳、71・72 歳の各年齢層では 8 割近いが、69・70 歳では 7 割、73・74 歳では 6 割強と、一貫した傾向ではないものの差が見られる。

表 0-18 最長職と平均貯蓄額

	男性			女性		
	平均値 (万円)	中央値 (万円)	人数	平均値 (万円)	中央値 (万円)	人数
企業・団体の経営者・役員	2257	1407	29	1725	1750	8
正社員・正規職員	1371	796	199	1157	538	67
契約・嘱託の社員・職員	190	117	4	1667	1667	3
パート、アルバイト、派遣	275	125	7	804	420	93
自営業主	1236	683	65	1402	650	26
自営業の家族従業者	694	338	8	1363	788	62
その他の仕事	386	317	8	1500	1500	3
専業主婦・主夫	-	-	-	1922	1469	74
仕事はしていない	850	850	1	154	125	12
合計	1334	729	321	1266	670	348

0-7 最終学歴

表 0-19 は、調査対象者 764 人に最終学歴について尋ねた結果を表している。

表 0-19 最終学歴

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
小学校(旧制小学校を含む)	3	0.4%	0.4%	1	0.3%	2	0.5%
中学校(旧制高等小学校・公立夜間中学校を含む)	278	36.4%	37.1%	136	40.0%	139	34.4%
高等学校(旧制中等学校を含む)	336	44.0%	44.8%	137	40.3%	197	48.8%
短大・高等専門学校(旧制高校・専門学校を含む)	75	9.8%	10.0%	20	5.9%	54	13.4%
大学・大学院	58	7.6%	7.7%	46	13.5%	12	3.0%
有効回答者数	750	98.2%	100.0%	340	100.0%	404	100.0%
無回答・不明	14	1.8%		3		9	
合計	764	100.0%		343		413	

全体では、最終学歴が小学校卒である割合は 0.4%、中学校卒 37.1%、高等学校卒 44.8%、短大・高等専門学校卒 10.0%、大学・大学院卒 7.7%となっている。

男女別に見ると、男性の最終学歴は、小学校 0.3%、中学校 40.0%、高等学校 40.3%、短大・高等専門学校 5.9%、大学・大学院 13.5%、女性の最終学歴は、小学校 0.5%、中学校 34.4%、高等学校 48.8%、短大・高等専門学校 13.4%、大学・大学院 3.0%となっている。

年齢階層別に最終学歴を見ると、表 0-20 のようになる。

表 0-20 最終学歴

		小学校卒	中学校卒	高等学校卒	専門学校卒 短大・高等	大学院卒 大学・	合計
男性	65・66 歳	0 0.0%	17 32.1%	19 35.8%	3 5.7%	14 26.4%	53 100.0%
	67・68 歳	0 0.0%	27 38.6%	33 47.1%	4 5.7%	6 8.6%	70 100.0%
	69・70 歳	0 0.0%	36 46.2%	27 34.6%	8 10.3%	7 9.0%	78 100.0%
	71・72 歳	1 1.3%	31 40.8%	30 39.5%	3 3.9%	11 14.5%	76 100.0%
	73・74 歳	0 0.0%	23 38.3%	27 45.0%	2 3.3%	8 13.3%	60 100.0%
	合計	1 0.3%	134 39.8%	136 40.4%	20 5.9%	46 13.6%	337 100.0%
	65・66 歳	0 0.0%	16 26.7%	32 53.3%	9 15.0%	3 5.0%	60 100.0%
女性	67・68 歳	1 1.1%	31 34.4%	42 46.7%	13 14.4%	3 3.3%	90 100.0%
	69・70 歳	1 0.9%	34 31.2%	53 48.6%	16 14.7%	5 4.6%	109 100.0%
	71・72 歳	0 0.0%	34 42.0%	37 45.7%	9 11.1%	1 1.2%	81 100.0%
	73・74 歳	0 0.0%	22 35.5%	33 53.2%	7 11.3%	0 0.0%	62 100.0%
	合計	2 0.5%	137 34.1%	197 49.0%	54 13.4%	12 3.0%	402 100.0%

男性について見ると、大学・大学院卒の割合は65・66歳で26.4%と他の年齢階層に比べて高くなっているが、67・68歳8.6%、69・70歳9.0%、71・72歳14.5%、73・74歳13.3%と、相対的に若い年齢階層ほどその割合が高くなっているわけではない。短大・高等専門学校卒を含めた高等教育卒業生の割合を見ても、65・66歳が32.1%と高くなっているが、67・68歳14.3%、69・70歳19.3%、71・72歳18.4%、73・74歳16.6%と、年齢との間に一貫した傾向は見られない。

女性について見ると、65・66歳20.0%、67・68歳17.7%、69・70歳19.3%と、70歳以下では2割程度を占めているのに対して、71・72歳12.3%、73・74歳11.3%と71歳以上では1割程度と低くなっている。

0-7 居住地

表 0-21 は、調査対象者 764 人に居住地について尋ねた結果を表している。居住地は、下戸田地区 31.7%、上戸田地区 21.2%、新曽地区 15.9%、笹目地区 19.7%、美女木地区 11.5%となっている。

表 0-21 居住地

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
下戸田地区	240	31.4%	31.7%	106	31.3%	133	32.4%
上戸田地区	160	20.9%	21.2%	70	20.6%	90	21.9%
新曽地区	120	15.7%	15.9%	55	16.2%	62	15.1%
笹目地区	149	19.5%	19.7%	71	20.9%	76	18.5%
美女木地区	87	11.4%	11.5%	37	10.9%	50	12.2%
有効回答者数	756	99.0%	100.0%	339	100.0%	411	100.0%
無回答・不明	8	1.0%		4		2	
合計	764	100.0%		343		413	

表 0-22、図 0-11 は、居住地と年齢との関係を表している。繁雑さを避けるために、ここでは 60 代後半と 70 代前半の 2 階層で見ている。それほど顕著な差があるわけではないが、70 代後半の割合は上戸田 59.1%、新曾 52.5%、下戸田 50.8%、笹目 49.0%、美女木 46.5%となっている。平均年齢を見ると（表 0-22）、差は見られない。

表 0-22 居住地と年齢

	65-69 歳	70-74 歳	合計	平均年齢
下戸田地区	49.2%	50.8%	236	69.5 歳
上戸田地区	40.9%	59.1%	159	69.9 歳
新曾地区	47.5%	52.5%	118	69.5 歳
笹目地区	51.0%	49.0%	147	69.5 歳
美女木地区	53.5%	46.5%	86	69.4 歳
合計	48.0%	52.0%	746	69.6 歳

表 0-11 居住地と年齢

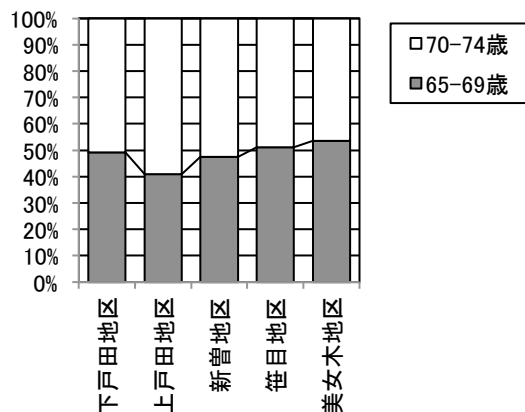
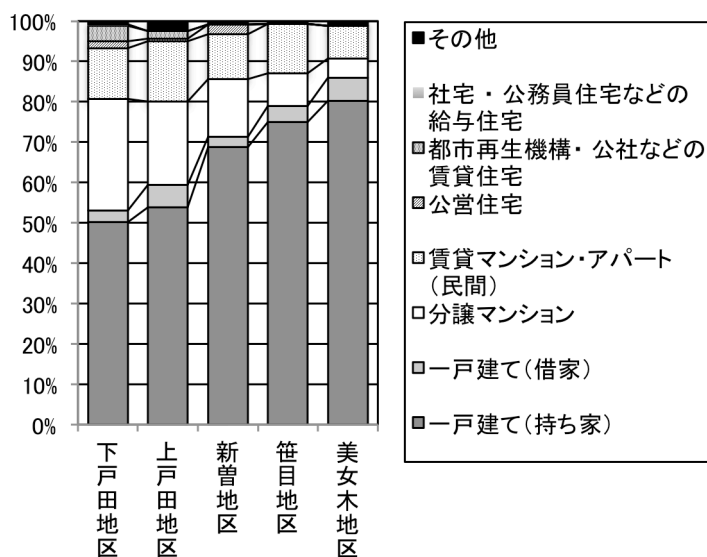


表 0-23、図 0-12 は、居住地と住宅の所有形態との関係を表している。

表 0-23 居住地と住宅の所有形態

	一戸建て (持ち家)	一戸建て (借家)	分譲マンション	賃貸マンション・ アパート (民間)	賃貸マンション	公営住宅	都市再生機 構・公社など の賃貸住宅	社員・公務 員住宅などの 給与住宅	その他	合計
下戸田地区	50.2%	2.9%	27.6%	12.6%	1.7%	3.8%	0.4%	0.8%	239	
上戸田地区	53.8%	5.6%	20.6%	15.0%	0.6%	1.9%	0.0%	2.5%	160	
新曾地区	68.6%	2.5%	14.4%	11.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.8%	118	
笹目地区	75.0%	4.1%	8.1%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	148	
美女木地区	80.2%	5.8%	4.7%	8.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	86	
合計	62.2%	4.0%	17.6%	12.3%	1.1%	1.6%	0.1%	1.2%	751	

図 0-12 居住地と住宅の所有形態



「一戸建て（持ち家）」と「分譲マンション」の割合は居住地による違いが大きい。「一戸建て（持ち家）」の割合は、「美女木地区」80.2%が最も高く、以下、「笹目地区」75.0%、「新曾地区」68.6%、「上戸田地区」53.8%、「下戸田地区」50.2%となっている。「分譲マンション」の割合は、「下戸田地区」27.6%と最も高く、以下、「上戸田地区」20.6%、「新曾地区」14.4%、「笹目地区」8.1%、「美女木地区」4.7%となっている。

いずれの地区も「一戸建て（持ち家）」割合が5割を超えているが、「美女木地区」「笹目地区」は「一戸建て（持ち家）」割合の高さ、「下戸田地区」「上戸田地区」は「分譲マンション」割合の高さが特徴的である。

表 0-24 は、居住地と世帯構造の関係を表している。

表 0-24 居住地と世帯構造

	単独世帯	夫婦のみ 世帯	親と子のみ の世帯	3 世代世帯	その他の 世帯	合計
下戸田地区	29 12.3%	89 37.7%	71 30.1%	29 12.3%	18 7.6%	236 100.0%
上戸田地区	21 13.5%	56 35.9%	47 30.1%	21 13.5%	11 7.1%	156 100.0%
新曽地区	12 10.3%	42 36.2%	39 33.6%	14 12.1%	9 7.8%	116 100.0%
笹目地区	10 6.9%	59 40.7%	43 29.7%	24 16.6%	9 6.2%	145 100.0%
美女木地区	10 11.8%	21 24.7%	33 38.8%	16 18.8%	5 5.9%	85 100.0%
合計	82 11.1%	267 36.2%	233 31.6%	104 14.1%	52 7.0%	738 100.0%

0-8 居住経験

表 0-25 は、調査対象者 764 人に戸田市での居住経験について尋ねた結果を表している。

表 0-25 居住経験

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
生まれてからずっと戸田市に住んでいる	73	9.6%	9.7%	36	10.7%	37	9.1%
戸田市生まれだが、戸田市以外で暮らしたことがある	25	3.3%	3.3%	12	3.6%	12	2.9%
戸田市以外で生まれて、戸田市にやってきた	652	85.3%	86.9%	289	85.8%	358	88.0%
有効回答者数	750	98.2%	100.0%	337	100.0%	407	100.0%
無回答・不明	14	1.8%		6		6	
合計	764	100.0%		343		413	

全体について見ると、「戸田市以外で生まれて、戸田市にやってきた」という割合が 86.9%を占めている。「生まれてからずっと戸田市に住んでいる」は 9.7%、「戸田市生まれだが、戸田市以外で暮らしたことがある」は 3.3%であり、戸田市生まれは 13.1%だった。

男女別に見ると、男性では「戸田市以外で生まれて、戸田市にやってきた」が 85.8%、「生まれてからずっと戸田市に住んでいる」10.7%、「戸田市生まれだが、戸田市以外で暮らしたことがある」3.6%、女性では「戸田市以外で生まれて、戸田市にやってきた」88.0%、「生まれてからずっと戸田市に住んでいる」9.1%、「戸田市生まれだが、戸田市以外で暮らしたことがある」2.9%となっており、性別による大きな違いは見られなかった。

表 0-25-1 居住地区と居住経験

	生まれてからずっと 戸田市に住んで いる	戸田市生まれだ が、戸田市以外で 暮らしたことがある	戸田市以外で生ま れて、戸田市にや って来た	合計
下戸田地区	7.6%	1.7%	90.7%	236
上戸田地区	10.7%	1.9%	87.4%	159
新曽地区	12.8%	6.0%	81.2%	117
笹目地区	8.7%	5.4%	85.9%	149
美女木地区	11.6%	3.5%	84.9%	86
合計	9.8%	3.3%	86.9%	747

居住地区と居住経験との関係を見ると、表 0-25-1 のようになる。

0-9 居住年数

表 0-26 は、調査対象者 764 人に戸田市での居住年数（通算居住年数）について尋ねた結果を表している。

全体について見ると、居住年数 40 年以上が 52.3%と過半数を占め、30 年以上までとすると 78.5%、8 割近くになる。男女別に見ても、居住年数 40 年以上の割合は、男性 51.0%、女性 53.7%、30 年以上の割合は、男性 79.9%、女性 77.5%と大きな違いは見られない。

表 0-26 居住年数

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
1 年未満	5	0.7%	0.7%	2	0.6%	3	0.7%
1-3 年未満	6	0.8%	0.8%	1	0.3%	5	1.2%
3-5 年未満	9	1.2%	1.2%	2	0.6%	7	1.7%
5-10 年未満	28	3.7%	3.7%	10	2.9%	17	4.2%
10-20 年未満	65	8.5%	8.6%	29	8.5%	36	8.8%
20-30 年未満	50	6.5%	6.6%	25	7.3%	24	5.9%
30-40 年未満	198	25.9%	26.2%	99	28.9%	97	23.8%
40-50 年未満	246	32.2%	32.5%	98	28.6%	146	35.8%
50-60 年未満	47	6.2%	6.2%	23	6.7%	24	5.9%
60 年以上	103	13.5%	13.6%	54	15.7%	49	12.0%
有効回答者数	757	99.1%	100.0%	343	100.0%	408	100.0%
無回答・不明	7	0.9%		0		5	
合計	764	100.0%		343		413	

0-5 世帯年収

表 0-27、図 0-13、0-14 は、調査対象者 764 人に、同居している家族全員の過去 1 年間の収入の合計（世帯年収）について尋ねた結果を表している。

100 万円未満である割合が 3.9%、100 万円台 16.9%、200 万円台 20.5%、300 万円台 18.4%、400 万円台 13.3% となっている。ここからはカテゴリーの幅が異なるが、500～700 万円未満が 11.7%、700～1,000 万円未満が 8.4%、1,000～1,500 万円未満 4.8%、1,500 万円以上が 2.1%いた。また、平均世帯年収は、438.5 万円だった³。

表 0-27 世帯年収

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
50 万円未満	3	0.4%	0.5%	0	0.0%	3	0.9%
50-100 万円未満	23	3.0%	3.5%	8	2.5%	15	4.3%
100-150 万円未満	46	6.0%	6.9%	18	5.7%	28	8.1%
150-200 万円未満	66	8.6%	9.9%	29	9.2%	36	10.4%
200-250 万円未満	71	9.3%	10.7%	34	10.8%	37	10.7%
250-300 万円未満	65	8.5%	9.8%	32	10.2%	32	9.2%
300-400 万円未満	122	16.0%	18.4%	55	17.5%	66	19.0%
400-500 万円未満	88	11.5%	13.3%	39	12.4%	49	14.1%
500-700 万円未満	78	10.2%	11.7%	45	14.3%	33	9.5%
700-1,000 万円未満	56	7.3%	8.4%	28	8.9%	28	8.1%
1,000-1,500 万円未満	32	4.2%	4.8%	17	5.4%	15	4.3%
1,500 万円以上	14	1.8%	2.1%	9	2.9%	5	1.4%
有効回答者数	664	86.9%	100.0%	314	100.0%	347	100.0%
無回答・不明	100	13.1%		29		66	
合計	764	100.0%		343		413	

³ 平均世帯年収は、回答の各カテゴリーの中央の値を与え（「50 万円未満」＝「25」「50～100 万円未満」＝「75」、「100～150 万円未満」＝「125」など）、「1500 万円以上」には「1500」の値を与えることで算出した。

図 0-13 世帯年収

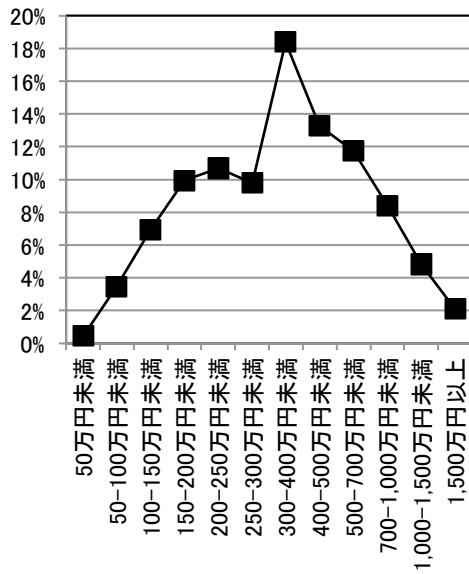


図 0-14 男女別、世帯年収

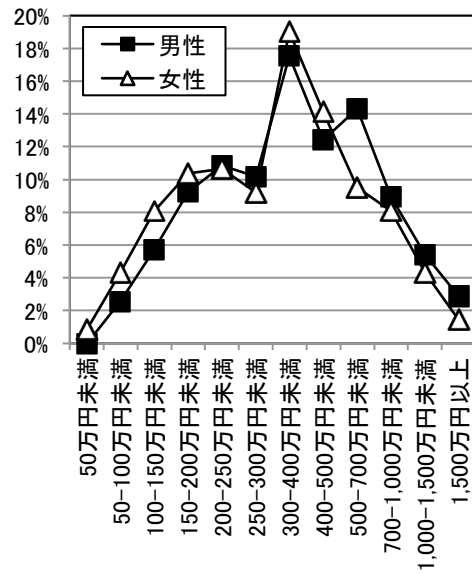


表 0-28 は、世帯構造別と世帯年収の関係について表している。

世帯年収が 200 万円未満の割合は、「単独世帯」では 56.7%と 6 割近いが、「夫婦のみ世帯」では 24.5%、「親と子のみの世帯」では 12.5%、「3 世代世帯」では 5.1%となっている。「その他の世帯」では 13.3%であった。一方、世帯年収 700 万円以上の割合は、「単独世帯」3.0%<「夫婦のみ世帯」9.1%<「親と子のみの世帯」17.2%<「3 世代世帯」35.5%となっている。「その他の世帯」では 24.5%であった。

平均世帯年収を見ると、「単独世帯」234 万円<「夫婦のみ世帯」366 万円<「親と子のみの世帯」488 万円<「3 世代世帯」633 万円となっている。「その他の世帯」では 558 万円であった。

表 0-28 世帯構造別、世帯年収

	100 万円未満	100-150 万円未満	150-200 万円未満	200-250 万円未満	250-300 万円未満	300-400 万円未満	400-500 万円未満	500-700 万円未満	700-1,000 万円未満	1,000 万円以上	合計
単独世帯	15 22.4%	15 22.4%	8 11.9%	8 11.9%	6 9.0%	8 11.9%	2 3.0%	3 4.5%	1 1.5%	1 1.5%	67 100.0%
夫婦のみ世帯	6 2.4%	19 7.5%	37 14.6%	35 13.8%	34 13.4%	55 21.7%	29 11.5%	15 5.9%	12 4.7%	11 4.4%	253 100.0%
親と子のみの世帯	2 1.0%	10 4.8%	14 6.7%	20 9.6%	15 7.2%	38 18.2%	38 18.2%	36 17.2%	21 10.0%	15 7.2%	209 100.0%
3 世代世帯	1 1.3%	1 1.3%	2 2.5%	2 2.5%	5 6.3%	14 17.7%	13 16.5%	13 16.5%	16 20.3%	12 15.2%	79 100.0%
その他の世帯	2 4.4%	0 0.0%	4 8.9%	6 13.3%	4 8.9%	4 8.9%	6 13.3%	8 17.8%	4 8.9%	7 15.6%	45 100.0%
合計	26 4.0%	45 6.9%	65 10.0%	71 10.9%	64 9.8%	119 18.2%	88 13.5%	75 11.5%	54 8.3%	46 7.0%	653 100.0%

こうした世帯構造による世帯年収の違いは、言うまでもないが、世帯員数の違いによるところが大きい。世帯人員との関係を見ると、1人世帯 234 万円、2人世帯 365 万円、3人世帯 519 万円、4人世帯 525 万円、5人世帯 592 万円、6人世帯 653 万円、7人以上の世帯 771 万円と、世帯員数が多いほど、世帯収入は高くなっている。

ある。そこで、世帯員数の違いによる影響を統制して各個人の経済状況を把握するために、世帯年収をカテゴリの中央値とした上で、世帯員数の平方根で割った「等価年収」を求めることにする。その結果を100万円刻みで表したものが表0-29、図0-15である。また、「等価年収」の平均は、267.8万円であった。

表0-29 「等価年収」

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
100万円未満	64	8.4%	9.7%	22	7.0%	42	12.1%
100万円台	224	29.3%	33.8%	101	32.3%	120	34.7%
200万円台	164	21.5%	24.8%	82	26.2%	82	23.7%
300万円台	102	13.4%	15.4%	46	14.7%	56	16.2%
400万円台	50	6.5%	7.6%	27	8.6%	23	6.6%
500万円台	6	0.8%	0.9%	3	1.0%	3	0.9%
600万円台	24	3.1%	3.6%	14	4.5%	10	2.9%
700万円台	6	0.8%	0.9%	4	1.3%	2	0.6%
800万円台	17	2.2%	2.6%	10	3.2%	7	2.0%
900万円台	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
1000万円以上	5	0.7%	0.8%	4	1.3%	1	0.3%
有効回答者数	662	86.6%	100.0%	313	100.0%	346	100.0%
無回答・不明	102	13.4%		30		67	
合計	764	100.0%		343		413	

この「等価収入」の高い人から順番に並べて、3等分に近くなるようにカテゴリー化した変数も作成しておく(表0-30)。区切りとなる「等価収入」は、159.1万円、268.3万円である。すなわち、「下位」は「等価収入」が159.1万円以下であり、「中位」は159.1万円より多く268.3万円以下、「上位」は268.3万円より多い層である。

図0-15 「等価年収」

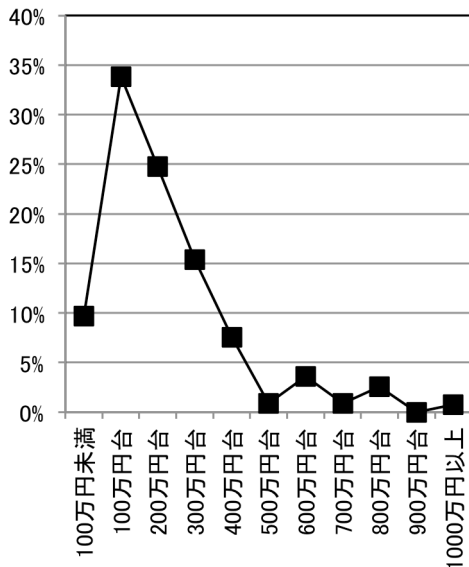


表0-30 「等価年収」

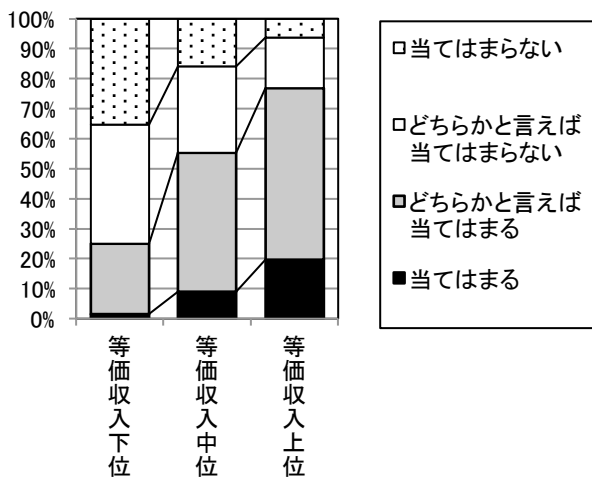
	人数	%	有効%
下位	226	29.6%	34.1%
中位	219	28.7%	33.1%
上位	217	28.4%	32.8%
有効回答者数	662	86.6%	100.0%
無回答・不明	102	13.4%	
合計	764	100.0%	

表0-31、図0-16は、等価年収と「家計にゆとりがある」という記述について「当てはまる」から「当てはまらない」までの4件法で尋ねた結果を表している。

表 0-31 等価年収と「家計にゆとりがある」

	どちらかと言え ば当てはまる		どちらかと言え ば当てはまらない		合計
	当てはまる	どちらかと言え ば当てはまる	当てはまらない	どちらかと言え ば当てはまらない	
等価収入下位	3 1.6%	44 23.3%	75 39.7%	67 35.4%	189 100.0%
等価収入中位	18 9.0%	93 46.3%	58 28.9%	32 15.9%	201 100.0%
等価収入上位	40 19.6%	117 57.4%	34 16.7%	13 6.4%	204 100.0%
合計	61 10.3%	254 42.8%	167 28.1%	112 18.9%	594 100.0%

図 0-16 等価年収と「家計にゆとりがある」



「当てはまる」、すなわち「家計にゆとりがある」という割合は「等価収入下位」1.6% < 「等価収入中位」9.0% < 「等価収入上位」19.6%、これに「どちらかといえば当てはまる」を合計した割合を見ると、「等価収入下位」24.9% < 「等価収入中位」55.3% < 「等価収入上位」77.0%と等価収入の高い層ほど顕著に高くなっている。一方で、「当てはまらない」の割合は、「等価収入下位」35.4% > 「等価収入中位」15.9% > 「等価収入上位」6.4%、これに「どちらかといえば当てはまらない」を合計した割合を見ると、「等価収入下位」75.1% > 「等価収入中位」44.8% > 「等価収入上位」23.1%と、等価収入の低い層ほど顕著に高くなっている。

等価収入は「家計のゆとり」と強く結びついていることが分かる。

表 0-32、図 0-18、0-19 は、最終学歴と「等価年収」の関係について表している。

表 0-32 最終学歴と「等価年収」

		下位	中位	上位	合計
男性	中学卒以下	37.8%	37.8%	24.4%	119
	高等学校	28.9%	35.2%	35.9%	128
	短大・高等専門学校	26.3%	26.3%	47.4%	19
	大学・大学院	11.1%	26.7%	62.2%	45
	合計	29.6%	34.4%	36.0%	311
女性	中学卒以下	45.5%	30.0%	24.5%	110
	高等学校	34.9%	34.3%	30.8%	172
	短大・高等専門学校	20.0%	37.8%	42.2%	45
	大学・大学院	41.7%	16.7%	41.7%	12
	合計	36.6%	32.7%	30.7%	339
合計	中学卒以下	41.5%	34.1%	24.5%	229
	高等学校	32.3%	34.7%	33.0%	300
	短大・高等専門学校	21.9%	34.4%	43.8%	64
	大学・大学院	17.5%	24.6%	57.9%	57
	合計	33.2%	33.5%	33.2%	650

男性について見ると(図 0-18)、等価収入「下位」の割合は、最終学歴「中学卒以下」37.8% > 「高等学校」28.9%・「短大・高等専門学校」26.3% > 「大学・大学院」11.1%と、学歴が低いほどその割合が高くなっている。一方で、等価収入「上位」の割合は、「中学卒以下」24.4% < 「高等学校」35.9% < 「短大・高等専門学校」47.4% < 「大学・大学院」62.2%と、学歴が高いほどその割合も高くなっている。女性でも、男性ほどではないが、同様の傾向が見られる(図 0-19)。

なお、等価収入の平均を求めると、男性では、「中学卒以下」238.4万円 < 「高等学校」303.1万円・「短大・高等専門学校」288.0万円 < 「大学・大学院」394.0万円、女性では、「中学卒以下」216.6万円 < 「高等学校」252.9万円 < 「短大・高等専門学校」303.0万円 < 「大学・大学院」335.3万円となっている。

図 0-17 最終学歴と「等価年収」(男性)

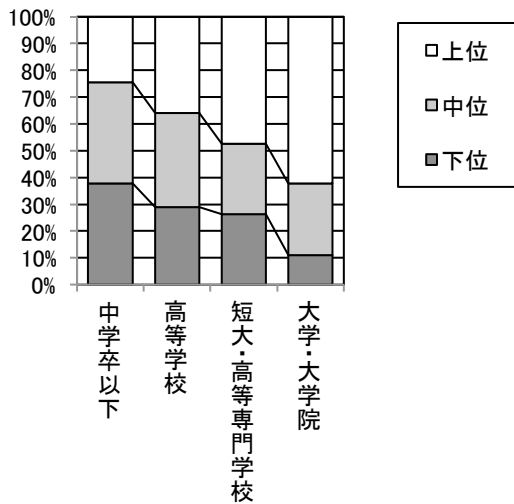
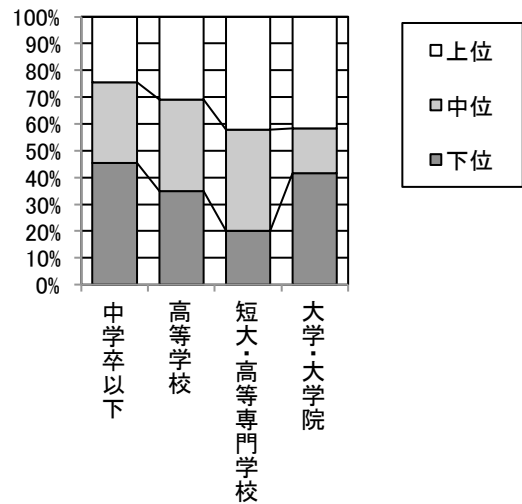


図 0-18 最終学歴と「等価年収」(女性)



なお、居住地と等価年収、「家計にゆとりがある」とする割合に、有意な差は見られなかった。

0-5 夫婦(あなた)の貯蓄総額

表 0-33、図 0-19、0-20 は、調査対象者 764 人に、夫婦(あなた)の貯蓄(預貯金、信託、債権、株式、保険など)の総額について尋ねた結果を表している。選択肢には「100 万円未満」とは別に「貯蓄はない」を含めている。

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
貯蓄はない(0円)	71	9.3%	10.5%	32	10.0%	37	10.5%
100 万円未満	79	10.3%	11.7%	44	13.7%	35	10.0%
100-200 万円未満	43	5.6%	6.4%	20	6.2%	22	6.3%
200-300 万円未満	43	5.6%	6.4%	21	6.5%	22	6.3%
300-500 万円未満	56	7.3%	8.3%	22	6.9%	33	9.4%
500-700 万円未満	50	6.5%	7.4%	17	5.3%	33	9.4%
700-1,000 万円未満	78	10.2%	11.5%	43	13.4%	35	10.0%
1,000-2,000 万円未満	90	11.8%	13.3%	43	13.4%	46	13.1%
2,000-3,000 万円未満	77	10.1%	11.4%	34	10.6%	43	12.3%
3,000-5,000 万円未満	49	6.4%	7.2%	18	5.6%	31	8.8%
5,000 万円以上	41	5.4%	6.1%	27	8.4%	14	4.0%
有効回答者数	677	88.6%	100.0%	321	100.0%	351	100.0%
無回答・不明	87	11.4%		22		62	
合計	764	100.0%		343		413	

図0-19 夫婦（あなた）の貯金総額

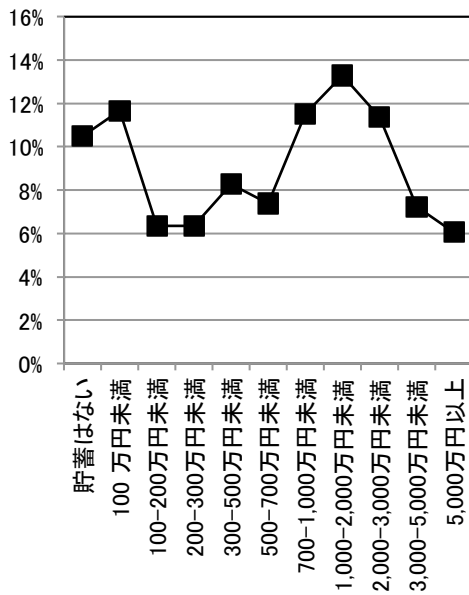
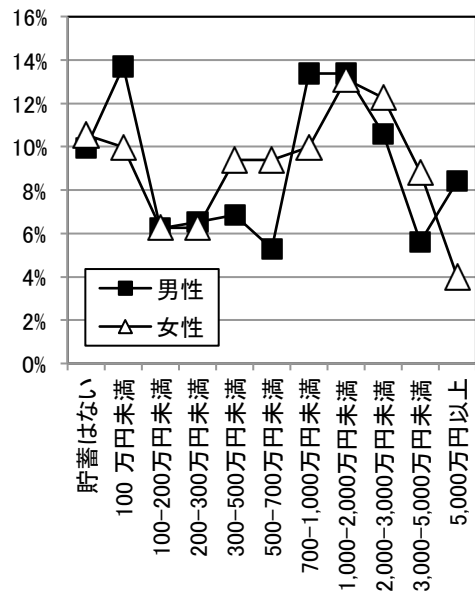


図0-20 男女別、夫婦（あなた）の貯金総額



全体について見ると、「貯蓄はない」が10.5%、「100万円未満」が11.7%と、合わせると貯蓄総額が100万円に満たない層が2割を超える。一方で、貯蓄総額が1,000万円を超える層が4割近くおり、それぞれ「1,000～2,000万円未満」13.3%、「2,000～3,000万円未満」11.4%、「3,000～5,000万円未満」7.2%、「5,000万円以上」6.1%いた。

表0-34は、等価年収3カテゴリーと貯蓄総額との関係を表している。

表0-34 等価年収と貯蓄総額

	貯蓄はない	100万円未満	100-200万円未満	200-300万円未満	300-500万円未満	500-700万円未満	700-1,000万円未満	1,000-2,000万円未満	2,000-3,000万円未満	3,000-5,000万円未満	5,000万円以上	合計
等価年収下位	34 16.2%	44 21.0%	16 7.6%	21 10.0%	21 10.0%	13 6.2%	21 10.0%	20 9.5%	10 4.8%	6 2.9%	4 1.9%	210 100.0%
等価年収中位	14 6.7%	22 10.5%	19 9.1%	14 6.7%	16 7.7%	18 8.6%	26 12.4%	32 15.3%	23 11.0%	12 5.7%	13 6.2%	209 100.0%
等価年収上位	7 3.4%	11 5.4%	6 2.9%	7 3.4%	15 7.4%	18 8.8%	25 12.3%	26 12.7%	41 20.1%	25 12.3%	23 11.3%	204 100.0%
合計	55 8.8%	77 12.4%	41 6.6%	42 6.7%	52 8.3%	49 7.9%	72 11.6%	78 12.5%	74 11.9%	43 6.9%	40 6.4%	623 100.0%

「貯蓄はない」という割合は、「等価年収下位」16.2%>「等価年収中位」6.7%>「等価年収上位」3.4%、「100万円未満」を合わせると、「等価年収下位」37.2%>「等価年収中位」17.2%>「等価年収上位」8.8%となっており、等価年収が低いほど貯蓄総額も低い傾向が顕著である。一方、貯蓄総額「5000万円以上」の割合は、「等価年収下位」1.9%<「等価年収中位」6.2%<「等価年収上位」11.3%、2000万円以上にまで上げると、「等価年収下位」9.6%<「等価年収中位」22.9%<「等価年収上位」43.7%と、等価年収が高いほど貯蓄総額も高い傾向が顕著である。

平均貯蓄金額を求めると、「等価所得下位」680.5万円<「等価所得中位」1269.1万円<「等価所得上位」1949.8万円となっている。貯蓄総額の中央値を求めると、「等価所得下位」250万円<「等価所得中位」850万円<「等価所得上位」1500万円となっている。

0-6 住宅の所有形態

表 0-35 は、調査対象者 764 人に、現在の住宅の所有形態について尋ねた結果を表している。

「一戸建て(持ち家)」が 61.9%と飛び抜けて高く、「分譲マンション」17.8%と合わせると、およそ 8 割が住居を自己所有している。「賃貸マンション・アパート(民間)」は 12.4%、「一戸建て(借家)」4.0%、「都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅」1.6%、「公営住宅」1.1%、「社宅・公務員住宅などの給与住宅」0.1%と続く。「その他」も 1.2%いた。

表 0-35 住居の所有形態

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
一戸建て(持ち家)	470	61.5%	61.9%	208	61.0%	259	63.2%
一戸建て(借家)	30	3.9%	4.0%	13	3.8%	17	4.1%
分譲マンション	135	17.7%	17.8%	65	19.1%	70	17.1%
賃貸マンション・アパート(民間)	94	12.3%	12.4%	48	14.1%	41	10.0%
公営住宅	8	1.0%	1.1%	2	0.6%	6	1.5%
都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅	12	1.6%	1.6%	3	0.9%	9	2.2%
社宅・公務員住宅などの給与住宅	1	0.1%	0.1%	1	0.3%	0	0.0%
その他	9	1.2%	1.2%	1	0.3%	8	2.0%
有効回答者数	759	99.3%	100.0%	341	100.0%	410	100.0%
無回答・不明	5	0.7%		2		3	
合計	764	100.0%		343		413	

表 0-36 は、住宅の所有形態と等価年収の関係を表している。「公営住宅」が 7 人しかいないように、住宅の所有形態によって著しく人数が少ないものがあるが、ここでは参考としてそのまま示しておく。

表 0-36 住居の所有形態と等価年収

	下位	中位	上位	合計
一戸建て(持ち家)	32.1%	32.4%	35.5%	408
一戸建て(借家)	63.0%	18.5%	18.5%	27
分譲マンション	21.5%	42.1%	36.4%	121
賃貸マンション・アパート(民間)	44.7%	30.3%	25.0%	76
公営住宅	85.7%	14.3%	0.0%	7
都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅	54.5%	36.4%	9.1%	11
社宅・公務員住宅などの給与住宅	100.0%	0.0%	0.0%	1
その他	57.1%	14.3%	28.6%	7
合計	34.2%	33.0%	32.8%	658

0-7 健康状態

表 0-37 は、「健康状態はよい」という項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」までの 4 件法で尋ねた結果を表している。全体では、「当てはまる」が 33.8%、「どちらかといえば当てはまる」41.7%、「どちらかといえば当てはまらない」15.2%、「当てはまらない」9.4%という結果になった。

表 0-37 「健康状態はよい」の回答

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	234	30.6%	33.8%	93	30.0%	138	36.7%
どちらかと言えば 当てはまる	289	37.8%	41.7%	141	45.5%	146	38.8%
どちらかと言えば 当てはまらない	105	13.7%	15.2%	52	16.8%	51	13.6%
当てはまらない	65	8.5%	9.4%	24	7.7%	41	10.9%
有効回答者数	693	90.7%	100.0%	310	100.0%	376	100.0%
無回答・不明	71	9.3%		33		37	
合計	764	100.0%		343		413	

表 0-38、図 0-21、0-22 は、年齢階層と健康状態についての認識との関係を見たものである。年齢階層によって健康状態についての認識に大きな差は見られなかった。

表 0-38 年齢階層別、「健康状態はよい」の回答

		当てはまる	どちらか と言えば 当 てはまる	どちらかと 言えば 当 てはまらな い	当てはま らない	合計
男性	65・66 歳	28.3%	47.8%	10.9%	13.0%	46
	67・68 歳	27.3%	51.5%	15.2%	6.1%	66
	69・70 歳	28.8%	45.2%	23.3%	2.7%	73
	71・72 歳	36.6%	38.0%	16.9%	8.5%	71
	73・74 歳	28.8%	48.1%	11.5%	11.5%	52
	合計	30.2%	45.8%	16.2%	7.8%	308
女性	65・66 歳	38.6%	43.9%	10.5%	7.0%	57
	67・68 歳	37.2%	34.9%	11.6%	16.3%	86
	69・70 歳	36.3%	43.1%	14.7%	5.9%	102
	71・72 歳	35.5%	38.2%	17.1%	9.2%	76
	73・74 歳	38.5%	34.6%	11.5%	15.4%	52
	合計	37.0%	39.1%	13.4%	10.5%	373
合計	65・66 歳	34.0%	45.6%	10.7%	9.7%	103
	67・68 歳	32.9%	42.1%	13.2%	11.8%	152
	69・70 歳	33.1%	44.0%	18.3%	4.6%	175
	71・72 歳	36.1%	38.1%	17.0%	8.8%	147
	73・74 歳	33.7%	41.3%	11.5%	13.5%	104
	合計	33.9%	42.1%	14.7%	9.3%	681

図 0-21 年齢階層別、「健康状態はよい」（男性）

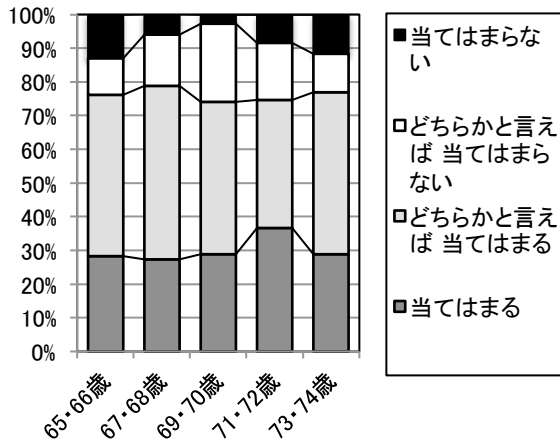


図 0-22 年齢階層別、「健康状態はよい」（女性）

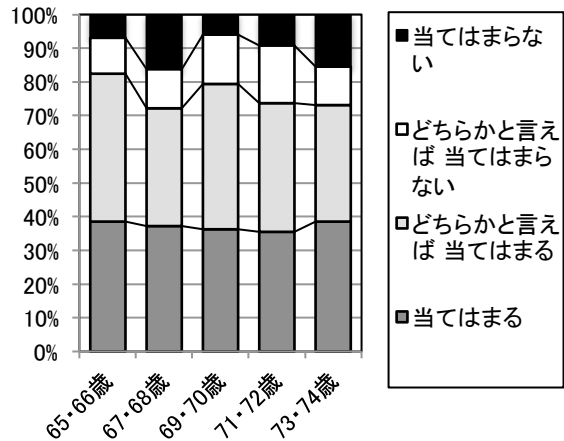
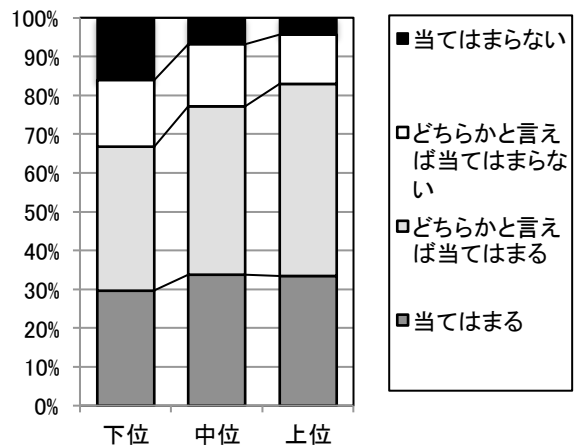


表 0-39、図 0-23 は、等価年収階層と健康状態についての認識との関係を見たものである。年齢階層によって健康状態についての認識に大きな差が見られる。

表 0-39 等価年収階層と「健康状態はよい」の回答

		当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	下位	28.8%	38.8%	17.5%	15.0%	80
	中位	28.0%	45.0%	20.0%	7.0%	100
	上位	30.2%	52.8%	14.2%	2.8%	106
	合計	29.0%	46.2%	17.1%	7.7%	286
女性	下位	30.4%	35.7%	17.0%	17.0%	112
	中位	39.0%	41.9%	12.4%	6.7%	105
	上位	37.0%	46.0%	11.0%	6.0%	100
	合計	35.3%	41.0%	13.6%	10.1%	317
合計	下位	29.7%	37.0%	17.2%	16.1%	192
	中位	33.7%	43.4%	16.1%	6.8%	205
	上位	33.5%	49.5%	12.6%	4.4%	206
	合計	32.3%	43.4%	15.3%	9.0%	603

図 0-23 等価年収階層と「健康状態はよい」の回答



「当てはまらない」の割合は、等価年収階層の「下位」16.1% > 「中位」6.8% > 「上位」4.4%となっており、「どちらかといえば当てはまらない」を足した割合、すなわち「健康状態が悪い」割合は、「下位」33.3% > 「中位」22.9% > 「上位」17.0%となっており、等価年収の低さは健康状態の悪さと——少なくとも健康状態が悪いという認識と——結びついていることが分かる。

表 0-40 は、調査対象者 764 人に、要介護認定を受けているか尋ねた結果を表している。

表 0-40 要介護認定

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
認定を申請していない	602	78.8%	94.8%	273	94.8%	328	94.8%
認定申請したが、「自立」と認定された	1	0.1%	0.2%	0	0.0%	1	0.3%
要支援・要介護	25	3.3%	3.9%	11	3.8%	14	4.0%
要支援 1	8	1.0%	1.3%	2	0.7%	6	1.7%
要支援 2	5	0.7%	0.8%	2	0.7%	3	0.9%
要介護 1	7	0.9%	1.1%	6	2.1%	1	0.3%
要介護 2	1	0.1%	0.2%	0	0.0%	1	0.3%
要介護 3	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
要介護 4	4	0.5%	0.6%	1	0.3%	3	0.9%
認定されているが、要介護度はわからない	7	0.9%	1.1%	4	1.4%	3	0.9%
有効回答者数	635	83.1%	100.0%	288	100.0%	346	100.0%
無回答・不明	129	16.9%		55		67	
合計	764	100.0%		343		413	

全体について見ると、「認定を申請していない」が 94.8%を占め、「要支援・要介護」認定を受けているのは 3.9%、「認定申請したが、「自立」と認定された」が 0.2%だった。「認定されているが、要介護度はわからない」も 1.1%いた。「要支援・要介護」認定 3.9%の内訳を見ると、「要支援 1」1.3%、「要支援 2」0.8%、「要介護 1」1.1%、「要介護 2」0.2%、「要介護 3」0.0%、「要介護 4」0.6%だった。性別による顕著な違いは見られなかった。

1 住宅のバリアフリーの状況

1-1 現在の住宅におけるバリアフリーの状況

表 1-1 は、調査対象者 764 人に、現在の住宅におけるバリアフリー対策の状況について尋ねた結果を表している。

選択肢の中で最も高い割合であったのは、「和式便器ではなく洋式便器である」の 83.9%であり、以下、「寝室とトイレの位置など間取りは使いやすい」48.1%、「台所のコンロを安全で使いやすいものである」44.4%、「浴槽は入りやすいものになっている」36.2%、「流しや洗面台を使いやすいものになっている」36.1%、「手すりを設置している」35.5%、「車椅子が通れる」19.7%、「段差がない・スロープがある」16.3%、「すべり止めを設置している」10.2%、「緊急通報システムを設置している」6.1%と続いている。また、「その他」が 1.8%あり、これら何らかのバリアフリー対策をしている割合は 89.2%であった。一方で、これらのバリアフリー対策をいずれもしていない住宅に居住している割合は 10.8%であった。

表 1-1 現在の住宅におけるバリアフリーの状況

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
何らかのバリアフリー対策をしている	654	85.6%	89.2%	287	87.2%	361	90.9%
和式便器ではなく洋式便器である	614	80.4%	83.8%	267	81.2%	341	85.9%
寝室とトイレの位置など間取りは使いやすい	352	46.1%	48.0%	147	44.7%	201	50.6%
台所のコンロを安全で使いやすいものである	325	42.5%	44.3%	132	40.1%	191	48.1%
浴槽は入りやすいものになっている	265	34.7%	36.2%	125	38.0%	138	34.8%
流しや洗面台を使いやすいものになっている	264	34.6%	36.0%	113	34.3%	148	37.3%
手すりを設置している	260	34.0%	35.5%	117	35.6%	141	35.5%
車椅子が通れる	144	18.8%	19.6%	60	18.2%	83	20.9%
段差がない・スロープがある	119	15.6%	16.2%	43	13.1%	74	18.6%
すべり止めを設置している	75	9.8%	10.2%	39	11.9%	36	9.1%
緊急通報システムを設置している	45	5.9%	6.1%	18	5.5%	26	6.5%
その他	13	1.7%	1.8%	4	1.2%	9	2.3%
バリアフリー対策はしていない	79	10.3%	10.8%	42	12.8%	36	9.1%
有効回答者数	733	95.9%	100.0%	329	100.0%	397	100.0%
無回答・不明	31	4.1%		14		16	
合計	764	100.0%		343		413	

ここで、現在の住宅においてなされているバリアフリー対策の数を合算した変数を作成する。以下、「バリアフリー得点」と呼ぶ。その結果は、表 1-2、図 1-1 の通りである。また、バリアフリー得点の平均値は 3.9 点、すなわち上記の項目のうち、平均でおおよそ 4 項目のバリアフリー対策が実施済みであった。中央値は 3 点だった。

表1-2 バリアフリー得点

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
0点	79	10.3%	10.8%	42	12.8%	36	9.1%
1点	117	15.3%	16.0%	53	16.1%	63	15.9%
2点	121	15.8%	16.5%	58	17.6%	62	15.6%
3点	89	11.6%	12.1%	33	10.0%	55	13.9%
4点	87	11.4%	11.9%	38	11.6%	48	12.1%
5点	89	11.6%	12.1%	43	13.1%	46	11.6%
6点	58	7.6%	7.9%	24	7.3%	33	8.3%
7点	54	7.1%	7.4%	23	7.0%	30	7.6%
8点	23	3.0%	3.1%	11	3.3%	12	3.0%
9点	14	1.8%	1.9%	3	0.9%	11	2.8%
10点	1	0.1%	0.1%	1	0.3%	0	0.0%
11点	1	0.1%	0.1%	0	0.0%	1	0.3%
有効回答者数	733	95.9%	100.0%	329	100.0%	397	100.0%
無回答・不明	30	3.9%		14		16	
合計	764	100.0%		343		413	

図1-1 バリアフリー得点

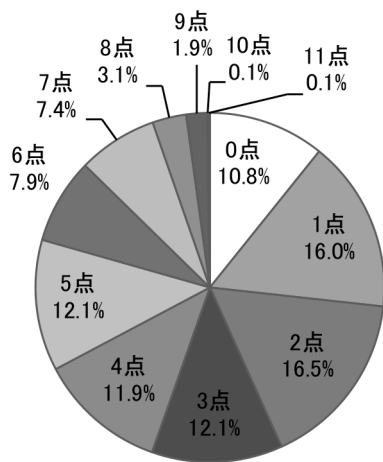


表1-3 「バリアフリー度」3カテゴリー

	人数	%
低位 (0~2点)	317	43.2%
中位 (3~4点)	176	24.0%
高位 (5~11点)	240	32.7%
合計	733	100.0%

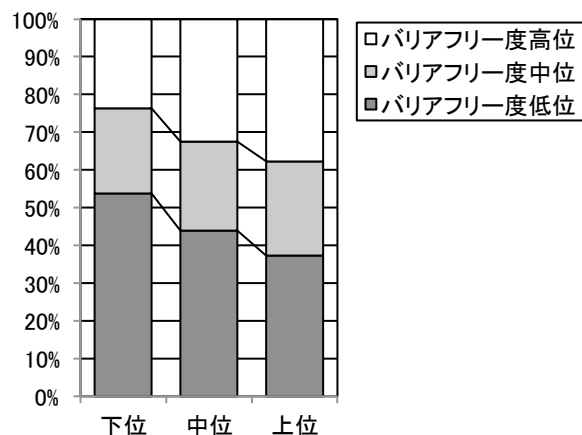
得点のままでは分析が繁雑になる場合があるので、3つのカテゴリーに分けておく(表1-3)。「バリアフリー得点」を得点が高い順に並べて三等分に近くなるように、「0~2点」「3~4点」「5~11点」の3カテゴリーに分け、それぞれバリアフリー度「低位」「中位」「高位」とする。それぞれの人数等は表1-3の通りである。

表1-4、図1-2は、等価年収とバリアフリー度との関係を表している。

表1-4 等価年収と「バリアフリー度」

		バリアフリー度			合計
		低位	中位	高位	
等価年収	下位	116 53.7%	49 22.7%	51 23.6%	216 100.0%
	中位	93 43.9%	50 23.6%	69 32.5%	212 100.0%
	上位	79 37.3%	53 25.0%	80 37.7%	212 100.0%
合計		288 45.0%	152 23.8%	200 31.3%	640 100.0%

図1-2 等価年収と「バリアフリー度」



「バリアフリー度低位」の割合は、「等価年収下位」53.7% > 「等価年収中位」43.9% > 「等価年収上位」37.3%と、等価年収が高いほどその割合は低くなっている。一方、「バリアフリー度高位」の割合は、「等価年収下位」23.6% < 「等価年収中位」32.5% < 「等価年収上位」37.7%と、等価年収が高いほどその割合は高くなっている。バリアフリー度の高さが経済状況と結びついていることが分かる。

表1-5は、住宅の所有形態と現在の住宅におけるバリアフリーの状況の関係を表している。「社宅・公務員住宅などの給与住宅」「公営住宅」に居住する回答者は少ないため、また「その他」も表に示すにとどめる。

表1-5 住宅の所有形態と現在の住宅におけるバリアフリーの状況

	何らかのバリアフリー対策をしている	手すりを設置している	すべり止めを設置している	段差がない・スロープがある	車椅子が通れる	流しや洗面台を使いやすいものになっている	浴槽は入りやすいものになっている	合計(人数)
一戸建て(持ち家)	91.8%	47.5%	14.3%	15.8%	19.9%	39.5%	41.3%	(462)
一戸建て(借家)	77.8%	37.0%	3.7%	3.7%	0.0%	18.5%	37.0%	(27)
分譲マンション	92.4%	13.0%	3.8%	23.7%	33.6%	40.5%	32.8%	(131)
賃貸マンション・アパート(民間)	73.1%	1.3%	1.3%	6.4%	2.6%	16.7%	11.5%	(78)
公営住宅	87.5%	25.0%	0.0%	25.0%	12.5%	12.5%	37.5%	(8)
都市再生機構・公社などの賃貸住宅	91.7%	41.7%	0.0%	50.0%	41.7%	41.7%	33.3%	(12)
社宅・公務員住宅などの給与住宅	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	(1)
その他	88.9%	44.4%	22.2%	11.1%	0.0%	44.4%	55.6%	(9)

	何らかのバリアフリー対策をしている					バリアフリー対策はしていない	合計(人数)
	和式便器ではなく洋式便器である	台所のコンロは安全で使いやすいものである	緊急通報システムを設置している	寝室とトイレの位置など間取りは使いやすい	その他		
一戸建て(持ち家)	86.2%	48.2%	1.7%	52.1%	2.2%	8.2%	(462)
一戸建て(借家)	66.7%	29.6%	3.7%	22.2%	0.0%	22.2%	(27)
分譲マンション	91.6%	48.9%	18.3%	51.9%	1.5%	7.6%	(131)
賃貸マンション・アパート(民間)	61.5%	24.4%	3.8%	26.9%	1.3%	26.9%	(78)
公営住宅	87.5%	37.5%	25.0%	25.0%	0.0%	12.5%	(8)
都市再生機構・公社などの賃貸住宅	91.7%	58.3%	50.0%	58.3%	0.0%	8.3%	(12)
社宅・公務員住宅などの給与住宅	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	(1)
その他	77.8%	11.1%	11.1%	55.6%	0.0%	11.1%	(9)

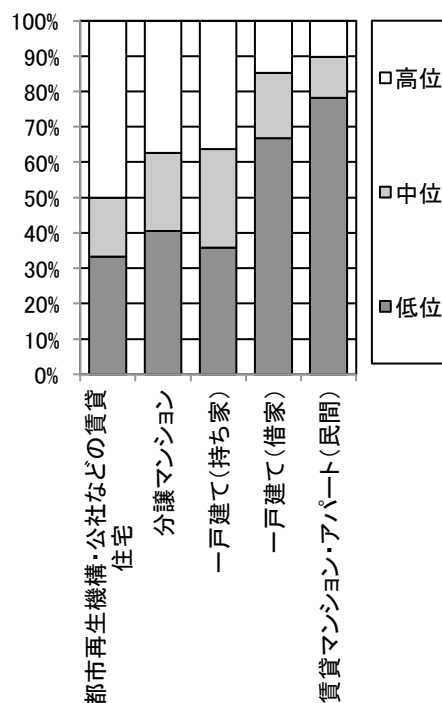
「何らかのバリアフリー対策をしている」割合は、「分譲マンション」92.4%、「一戸建て(持ち家)」91.8%、「都市再生機構・公社などの賃貸住宅」91.7%で、9割を超えている。「一戸建て(借家)」77.8%、「賃貸マンション・アパート(民間)」73.1%など民間賃貸住宅では7~8割程度とやや低くなっている。

住宅の所有形態と具体的なバリアフリー対策の状況との関係を項目毎に見ていくと繁雑になるため、まずはバリアフリー度の3カテゴリーとの関係を見ることにする（表1-6、図1-3）。人数が10人以下の「公営住宅」等は表に示すにとどめる。

表1-6 住宅の所有形態と「バリアフリー度」

	低位	中位	高位	合計
一戸建て(持ち家)	166 35.9%	129 27.9%	168 36.3%	463 100.0%
一戸建て(借家)	18 66.7%	5 18.5%	4 14.8%	27 100.0%
分譲マンション	53 40.5%	29 22.1%	49 37.4%	131 100.0%
賃貸マンション・アパート(民間)	61 78.2%	9 11.5%	8 10.3%	78 100.0%
公営住宅	6 75.0%	0 0.0%	2 25.0%	8 100.0%
都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅	4 33.3%	2 16.7%	6 50.0%	12 100.0%
社宅・公務員住宅などの給与住宅	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
その他	4 44.4%	2 22.2%	3 33.3%	9 100.0%
合計	313 42.9%	176 24.1%	240 32.9%	729 100.0%

図1-3 住宅の所有形態と「バリアフリー度」



「バリアフリー度」が「高位」の割合は、「都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅」が50.0%で最も高く、「分譲マンション」37.4%、「一戸建て（持ち家）」36.3%がほぼ同程度で続く。「一戸建て（借家）」14.8%、「賃貸マンション・アパート（民間）」10.3%ではかなり低くなっている。一方、「低位」の割合は、「賃貸マンション・アパート（民間）」が78.2%と最も高く、「一戸建て（借家）」が66.7%で続く。以下、「分譲マンション」40.5%、「一戸建て（持ち家）」35.9%、「都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅」33.3%となっている。

「バリアフリー得点」の平均値を求めると、「都市再生機構・公社などの賃貸住宅」が4.7点と最も高く、以下、「一戸建て（持ち家）」3.7点、「分譲マンション」3.6点、「一戸建て（借家）」2.2点、「賃貸マンション・アパート（民間）」1.6点と続いている。

次に、項目別にバリアフリー化の割合が高い順に1位から5位までの順位をつけてまとめた表1-7を見ていく。

表 1-7 住宅の所有形態と現在の住宅におけるバリアフリーの状況（順位）

	手すりを設置している	すべり止めを設置している	段差がない・スロープがある	車椅子が通れる	流しや洗面台を使いやすいものになっている	浴槽は入りやすいものになっている	和式便器ではなく洋式便器である	台所のコンロを安全で使いやすいものである	緊急通報システムを設置している	寝室とトイレの位置など間取りは使いやすい	バリアフリー得点
都市再生機構・ 公社などの賃貸住宅	2	5	1	1	1	3	1	1	1	1	4.7 点
一戸建て(持ち家)	1	1	3	3	3	1	3	3	5	2	3.7 点
分譲マンション	4	2	2	2	2	4	2	2	2	3	3.6 点
一戸建て(借家)	3	3	5	5	4	2	4	4	4	5	2.2 点
賃貸マンション・アパート(民間)	5	4	4	4	5	5	5	5	3	4	1.6 点

「都市再生機構・ 公社などの賃貸住宅」では、「段差がない・スロープがある」「車椅子が通れる」「流しや洗面台は使いやすいものになっている」「和式便器ではなく洋式便器である」「台所のコンロは安全で使いやすいものである」「緊急通報システムを設置している」「寝室とトイレの位置など間取りは使いやすい」の7項目でバリアフリー化されている割合が最も高かった。また、「手すりを設置している」は2位、「浴槽は入りやすいものになっている」では3位だった。

「一戸建て(持ち家)」では、「手すりを設置している」「浴槽は入りやすいものになっている」「すべり止めを設置している」の3項目でバリアフリー化されている割合が最も高かった。また、「寝室とトイレの位置など間取りは使いやすい」は2位、「段差がない・スロープがある」「車椅子が通れる」「流しや洗面台は使いやすいものになっている」「和式便器ではなく洋式便器である」「台所のコンロを安全で使いやすいものである」は3位だった。「緊急通報システムを設置している」については最も割合が低かった。

「分譲マンション」では、「すべり止めを設置している」「段差がない・スロープがある」「車椅子が通れる」「流しや洗面台は使いやすいものになっている」「和式便器ではなく洋式便器である」「台所のコンロは安全で使いやすいものである」の7項目が2位、「緊急通報システムを設置している」「寝室とトイレの位置など間取りは使いやすい」が3位だった。

一方で、「一戸建て(借家)」「賃貸マンション・アパート(民間)」は、ほとんどの項目が4位か5位と、バリアフリー化が進んでいなかった。

1-2 今後の自宅のバリアフリー化についての考え

表 1-8 は、調査対象者 764 人に、今後の自宅のバリアフリー化についての考えを尋ねた結果を表している。

表 1-8 今後の自宅のバリアフリー化についての考え

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
必要だと思い、準備をしている	47	6.2%	6.9%	25	8.0%	20	5.5%
必要だと思うが、まだ何もしていない	327	42.8%	47.7%	149	47.5%	174	47.8%
不要	84	11.0%	12.2%	36	11.5%	48	13.2%
まだ考えていない	228	29.8%	33.2%	104	33.1%	122	33.5%
有効回答者数	686	89.8%	100.0%	314	100.0%	364	100.0%
無回答・不明	78	10.2%		29		49	
合計	764	100.0%		343		413	

「必要だと思い、準備をしている」が6.9%、「必要だと思うが、まだ何もしていない」47.7%、「不要」12.2%、「まだ考えていない」33.2%となっている。「必要だと思い、準備をしている」「必要だと思うが、まだ何もしていない」を合わせると54.5%が必要だと回答しているが、そのうち既に「準備をしている」と回答する割合は1割程度（12.6%）にとどまっている。

表1-9は、年齢と今後の自宅のバリアフリー化についての考えとの関係を表している。図1-4、1-5は、それぞれ男性と女性について図として表したものである。

表1-9 年齢階層別、今後の自宅のバリアフリー化についての考え

		必要だと思い、 準備をしてい る	必要だと思っ が、まだ何もし ていない	不要	まだ考えてい ない	合計
男性	65・66歳	9.8%	29.4%	9.8%	51.0%	51
	67・68歳	11.9%	44.8%	13.4%	29.9%	67
	69・70歳	2.8%	45.8%	8.3%	43.1%	72
	71・72歳	10.3%	44.1%	17.6%	27.9%	68
	73・74歳	5.6%	72.2%	7.4%	14.8%	54
	合計	8.0%	47.1%	11.5%	33.3%	312
女性	65・66歳	9.4%	39.6%	17.0%	34.0%	53
	67・68歳	5.0%	45.0%	13.8%	36.3%	80
	69・70歳	4.2%	45.8%	14.6%	35.4%	96
	71・72歳	5.1%	53.8%	12.8%	28.2%	78
	73・74歳	3.7%	55.6%	7.4%	33.3%	54
	合計	5.3%	47.9%	13.3%	33.5%	361
合計	65・66歳	9.6%	34.6%	13.5%	42.3%	104
	67・68歳	8.2%	44.9%	13.6%	33.3%	147
	69・70歳	3.6%	45.8%	11.9%	38.7%	168
	71・72歳	7.5%	49.3%	15.1%	28.1%	146
	73・74歳	4.6%	63.9%	7.4%	24.1%	108
	合計	6.5%	47.5%	12.5%	33.4%	673

図1-4 年齢階層別、今後の自宅のバリアフリー化（男性）

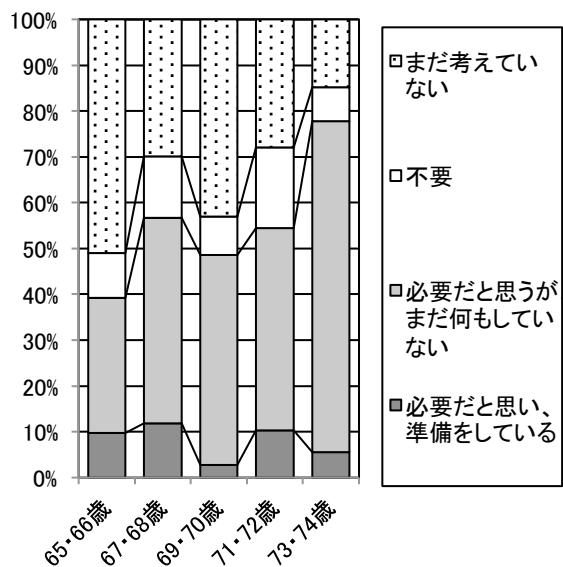
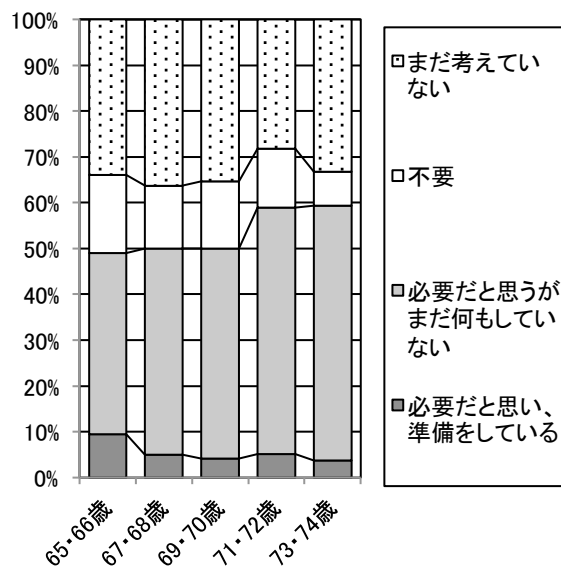


図1-5 年齢階層別、今後の自宅のバリアフリー化（女性）



男性について見ると、「必要だと思うが、まだ何もしていない」割合は、65・66歳29.4%、67・68歳44.8%、69・70歳45.8%、71・72歳44.1%、73・74歳72.2%となっており、概ね年齢が上るとその割合が高くなって

いる。一方で、「まだ考えていない」割合は、65・66歳51.0%、67・68歳29.9%、69・70歳43.1%、71・72歳27.9%、73・74歳14.8%と、相対的に年齢が低いほどその割合は高くなっている。「必要だと思ひ準備をしている」「不要」と回答する割合は、年齢との間に一貫した傾向は見られなかった。

女性について見ると、「必要だと思ひが、まだ何もしていない」割合は、男性同様、65・66歳39.6%、67・68歳45.0%、69・70歳45.8%、71・72歳53.8%、73・74歳55.6%と、概ね年齢が上がるとその割合が高くなっている。それ以外の「必要だと思ひ、準備をしている」「不要」「まだ考えていない」については、年齢との間に顕著な結びつきは見られなかった。

表1-10は、今後、自宅にバリアフリー対策が必要だと思ひっていると回答した374人に、今後どのようなバリアフリー対策が必要だと思ひているのか尋ねた結果を表している。

表1-10 今後、自宅に必要なバリアフリー対策

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
手すりの設置	164	43.9%	48.0%	81	50.3%	82	46.6%
段差をなくす・スロープにする	164	43.9%	48.0%	78	48.4%	86	48.9%
緊急通報システムの設置	136	36.4%	39.8%	71	44.1%	65	36.9%
浴槽を入りやすいものに取り替える	109	29.1%	31.9%	55	34.2%	54	30.7%
すべり止めの設置	91	24.3%	26.6%	44	27.3%	45	25.6%
車椅子が通れるようにする	72	19.3%	21.1%	33	20.5%	39	22.2%
台所のコンロを安全で使いやすいものにする	50	13.4%	14.6%	19	11.8%	31	17.6%
流しや洗面台を使いやすいものに取り替える	34	9.1%	9.9%	18	11.2%	16	9.1%
寝室とトイレの位置など間取りを変更する	30	8.0%	8.8%	15	9.3%	15	8.5%
和式便器を洋式便器に取り替える	25	6.7%	7.3%	13	8.1%	12	6.8%
その他	13	3.5%	3.8%	3	1.9%	8	4.5%
有効回答者数	342	91.4%	100.0%	161	100.0%	176	100.0%
無回答・不明	32	8.6%		13		18	
合計	374	100.0%		174		194	

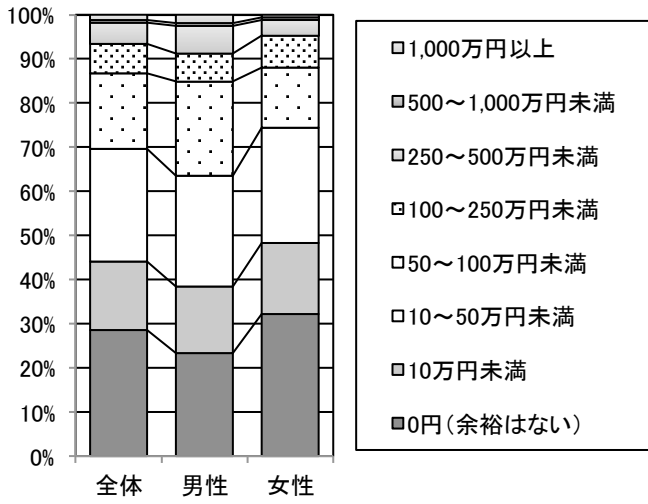
全体について見ると、「手すりの設置」「段差をなくす・スロープにする」がそれぞれ48.0%と5割近く、「緊急通報システムの設置」39.8%、「浴槽を入りやすいものに取り替える」31.9%、「すべり止めの設置」26.6%、「車椅子が通れるようにする」21.1%、「台所のコンロを安全で使いやすいものにする」14.6%、「流しや洗面台を使いやすいものに取り替える」9.9%、「寝室とトイレの位置など間取りを変更する」8.8%、「和式便器を洋式便器に取り替える」7.3%と続いている。「その他」も3.8%あった。

表1-11、図1-6は、今後、自宅にバリアフリー対策が必要だと思ひっていると回答した374人に、自宅のバリアフリー対策にかけることができる費用を尋ねた結果を表している。

表1-11 自宅のバリアフリー対策にかけることができる費用

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
0円(余裕はない)	95	25.4%	28.5%	37	23.3%	54	32.1%
10万円未満	52	13.9%	15.6%	24	15.1%	27	16.1%
10~50万円未満	85	22.7%	25.5%	40	25.2%	44	26.2%
50~100万円未満	57	15.2%	17.1%	34	21.4%	23	13.7%
100~250万円未満	22	5.9%	6.6%	10	6.3%	12	7.1%
250~500万円未満	16	4.3%	4.8%	10	6.3%	6	3.6%
500~1,000万円未満	2	0.5%	0.6%	1	0.6%	1	0.6%
1,000万円以上	4	1.1%	1.2%	3	1.9%	1	0.6%
有効回答者数	333	89.0%	100.0%	159	100.0%	168	100.0%
無回答・不明	41	11.0%		15		26	
合計	374	100.0%		174		194	

図 1-6 自宅のバリアフリー対策にかけることができる費用



全体について見ると、「0円（余裕はない）」が28.5%を占め、「10万円未満」が15.6%、「10～50万円未満」が25.5%と、50万円未満を合わせると7割に達する。「50～100万円未満」は17.1%で、かけることができる費用が100万円未満までの割合は9割近くに達する。それ以上かけることができる層は、「100～250万円未満」は6.6%、「250～500万円未満」は4.8%、「500～1,000万円未満」は0.6%、「1,000万円以上」は1.2%となっている。

2 住まいと居住地についての意識

2-2 住宅満足度

表 2-1 は、調査対象者 764 人に、現在の住宅の満足度について尋ねた結果を表している。

「満足」が 28.9%、「どちらかという満足」が 45.3%となっており、合わせると 4 人に 3 人程度の割合となる。一方、「どちらかという不満」は 19.3%、「不満」は 6.6%であり、合わせて 4 人に 1 人程度の割合である。

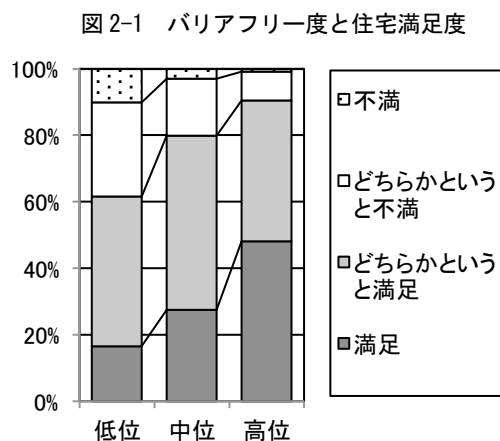
表 2-1 住宅満足度

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
満足	219	28.7%	28.9%	102	29.9%	114	27.8%
どちらかという満足	343	44.9%	45.3%	164	48.1%	176	42.9%
どちらかという不満	146	19.1%	19.3%	64	18.8%	81	19.8%
不満	50	6.5%	6.6%	11	3.2%	39	9.5%
有効回答者数	758	99.2%	100.0%	341	100.0%	410	100.0%
無回答・不明	6	0.8%		2		3	
合計	764	100.0%		343		413	

表 2-2、図 2-1 は、バリアフリー度と現在の住宅の満足度との関係を表している。

表 2-2 バリアフリー度と住宅満足度

	満足	どちらかという満足	どちらかという不満	不満	合計
	低位	52 16.6%	141 44.9%	89 28.3%	
中位	48 27.6%	91 52.3%	30 17.2%	5 2.9%	174 100.0%
高位	115 48.1%	101 42.3%	21 8.8%	2 0.8%	239 100.0%
合計	215 29.6%	333 45.8%	140 19.3%	39 5.4%	727 100.0%



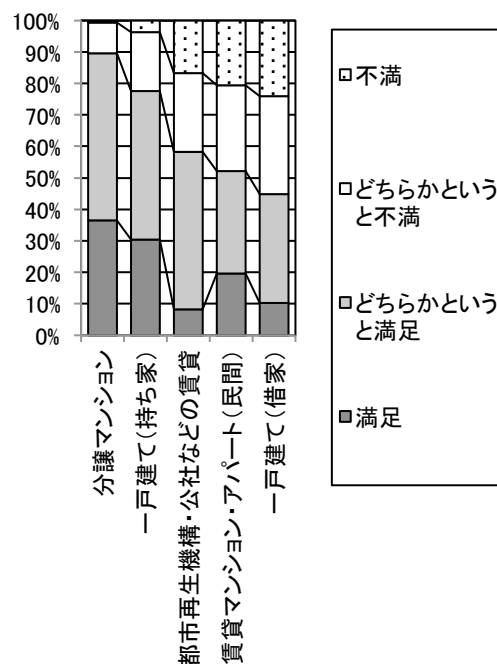
現在の住宅に「満足」と回答した割合は、バリアフリー度「低位」16.6%<「中位」27.6%<高位 48.1%と、バリアフリー度が高いほど住宅満足度も高くなっている。一方、「どちらかという不満」「不満」の割合の合計を見ると、バリアフリー度「低位」38.5%>「中位」20.1%>「高位」9.6%と、バリアフリー度が低いほどその割合が高くなっている。

表 2-3 は、住宅の所有形態と住宅の満足度との関係を表している。図 2-2 は、「満足」「どちらかという満足」の割合の合計が高い順に並べて図として示したものである。

表 2-3 住宅の所有形態と住宅満足度

	満足	どちらかという と満足	どちらか という と不満	不満	合計
一戸建て(持ち家)	142 30.3%	221 47.2%	87 18.6%	18 3.8%	468 100.0%
一戸建て(借家)	3 10.3%	10 34.5%	9 31.0%	7 24.1%	29 100.0%
分譲マンション	49 36.6%	71 53.0%	13 9.7%	1 0.7%	134 100.0%
賃貸マンション・アパート (民間)	18 19.6%	30 32.6%	25 27.2%	19 20.7%	92 100.0%
公営住宅	3 37.5%	0 0.0%	4 50.0%	1 12.5%	8 100.0%
都市再生機構(旧公団)・ 公社などの賃貸住宅	1 8.3%	6 50.0%	3 25.0%	2 16.7%	12 100.0%
社宅・公務員住宅など の給与住宅	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
その他	2 22.2%	3 33.3%	3 33.3%	1 11.1%	9 100.0%
合計	218 29.0%	341 45.3%	144 19.1%	50 6.6%	753 100.0%

図 2-2 住宅の所有形態と住宅満足度



「満足」「どちらかという満足」の割合の合計を見ると、「分譲マンション」が89.6%と最も高く、「一戸建て(持ち家)」77.5%、「都市再生機構・公社などの賃貸住宅」58.3%、「賃貸マンション・アパート(民間)」52.2%、「一戸建て(借家)」44.8%と続く。一方、「不満」「どちらかという不満」の割合の合計は、「一戸建て(借家)」55.1%、「賃貸マンション・アパート(民間)」47.9%など賃貸住宅に居住している層で高くなっている。

2-3 住宅に対する不満内容

表 2-4 は、現在の住宅に対して「不満」「どちらかという不満」と回答した 196 人に、どのような不満なのかについて複数選択で尋ねた結果を表している。

「住宅が古くなったりいたんだりしている」が 52.4%と過半数を超えており、最も高い割合となっている。以下、「住宅の構造や設備が使いにくい」34.9%、「家賃、税金、住宅維持費等の経済的負担が重い」28.6%、「住宅が狭い」25.4%、「住宅の環境が良くない(日照、騒音など)」23.3%と続く。「庭の手入れが大変」5.8%、「家族や知り合いと同居しているが、専用の部屋がない」3.7%、「住宅が広すぎて管理が大変」3.7%といった不満も、4~6%と割合は低いが挙げられた。また、「その他」が 5.3%あった。

表 2-4 住宅に対する不満内容

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
住宅が古くなったりいたんだりしている	99	50.5%	52.4%	40	55.6%	59	50.9%
住宅の構造や設備が使いにくい	66	33.7%	34.9%	20	27.8%	46	39.7%
家賃、税金、住宅維持費等の経済的負担が重い	54	27.6%	28.6%	20	27.8%	33	28.4%
住宅が狭い	48	24.5%	25.4%	15	20.8%	33	28.4%
住宅の環境が良くない(日照、騒音など)	44	22.4%	23.3%	18	25.0%	26	22.4%
庭の手入れが大変	11	5.6%	5.8%	3	4.2%	8	6.9%
家族や知り合いと同居しているが、専用の部屋がない	7	3.6%	3.7%	4	5.6%	3	2.6%
住宅が広すぎて管理が大変	7	3.6%	3.7%	2	2.8%	5	4.3%
その他	10	5.1%	5.3%	3	4.2%	7	6.0%
有効回答者数	189	96.4%	100.0%	72	100.0%	116	100.0%
無回答・不明	7	3.6%		3		4	
合計	196	100.0%		75		120	

表 2-5 は、住宅の所有形態別に住宅に対する不満内容を見たものである。

表 2-5 住宅の所有形態と住宅に対する不満内容

	住宅が狭い	専用の部屋がない	住宅が広すぎて管理が大変	家賃、税金、住宅維持費等の経済的負担が重い	住宅の構造や設備が使いにくい	住宅が古くなったりいたんだりしている	庭の手入れが大変	住宅の環境が良くない	その他	合計
一戸建て(持ち家)	23.5%	3.9%	4.9%	9.8%	46.1%	60.8%	8.8%	21.6%	5.9%	102
一戸建て(借家)	43.8%	6.3%	0.0%	37.5%	25.0%	62.5%	12.5%	18.8%	6.3%	16
分譲マンション	15.4%	0.0%	0.0%	38.5%	23.1%	30.8%	0.0%	38.5%	7.7%	13
賃貸マンション・アパート(民間)	23.3%	0.0%	0.0%	62.8%	16.3%	37.2%	0.0%	27.9%	2.3%	43
公営住宅	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5
都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5
その他	50.0%	50.0%	50.0%	25.0%	50.0%	50.0%		25.0%	25.0%	4
合計	25.5%	3.7%	3.7%	28.7%	35.1%	52.1%	5.9%	22.9%	5.3%	188

「一戸建て(持ち家)」について見ると、住宅に対する不満を抱いている 102 人の不満内容として最も高い割合であったのは、「住宅が古くなったりいたんだりしている」の 60.8%であり、以下、「住宅の構造や設備が使いにくい」46.1%、「住宅が狭い」23.5%、「住宅の環境が良くない」21.6%などと続いている。

「一戸建て(借家)」について見ると、住宅に対する不満を抱いている 16 人の不満内容として最も高い割合であったのは、「住宅が古くなったりいたんだりしている」62.5%であり、以下、「住宅が狭い」43.8%、「家賃、税金、住宅維持費等の経済的負担が重い」37.5%、「住宅の構造や設備が使いにくい」25.0%と続いている。

「分譲マンション」について見ると、住宅に対する不満を抱いている 13 人の不満内容として最も高い割合であったのは、「家賃、税金、住宅維持費等の経済的負担が重い」の 38.5%であり、以下、「住宅の環境が良くない」38.5%、「住宅が古くなったりいたんだりしている」30.8%、「住宅の構造や設備が使いにくい」23.1%、「住宅が狭い」15.4%と続いている。

「賃貸マンション・アパート(民間)」について見ると、住宅に対する不満を抱いている 43 人の不満内容として最も高い割合であったのは、「家賃、税金、住宅維持費等の経済的負担が重い」の 62.8%であり、以下、「住宅が古くなったりいたんだりしている」37.2%、「住宅の環境が良くない」27.9%、「住宅が狭い」23.3%、「住宅の構造や設備が使いにくい」16.3%と続いている。

2-4 現在の住宅に住み続ける意志

表 2-6 は、調査対象者 764 人に、現在の住宅に住み続ける意志について尋ねた結果を表している。

「ぜひいつまでも住みたい」37.0%、「なるべく住んでいたい」47.8%となっており、現在の住宅に住み続けた割合は合わせて 84.8%になる。一方で、「できれば移りたい」が 13.0%、「すぐにでも移りたい」も 2.2%いた。

表 2-6 現在の住宅に住み続ける意志

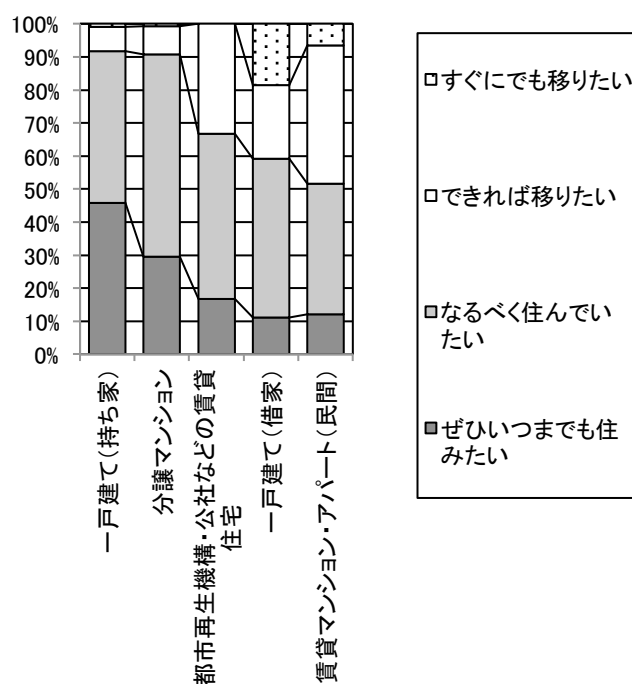
	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
ぜひいつまでも住みたい	269	35.2%	37.0%	118	35.9%	149	38.0%
なるべく住んでいたい	348	45.5%	47.8%	165	50.2%	180	45.9%
できれば移りたい	95	12.4%	13.0%	41	12.5%	52	13.3%
すぐにでも移りたい	16	2.1%	2.2%	5	1.5%	11	2.8%
有効回答者数	728	95.3%	100.0%	329	100.0%	392	100.0%
無回答・不明	36	4.7%		14		21	
合計	764	100.0%		343		413	

表 2-7、図 2-3 は、住宅の所有形態と現在の住宅に住み続ける意志との関係について表している。「公営住宅」など、極端に人数が少ないものは表として示すにとどめる。

表 2-7 住居の所有形態と現在の住宅に住み続ける意志

	ぜひいつまでも住みたい	なるべく住んでいたい	移りたい	できれば移りたい	すぐにでも移りたい	合計
一戸建て(持ち家)	205	206	33	4	4	448
	45.8%	46.0%	7.4%	0.9%	0.9%	100.0%
一戸建て(借家)	3	13	6	5	5	27
	11.1%	48.1%	22.2%	18.5%	18.5%	100.0%
分譲マンション	38	79	11	1	1	129
	29.5%	61.2%	8.5%	0.8%	0.8%	100.0%
賃貸マンション・アパート(民間)	11	36	38	6	6	91
	12.1%	39.6%	41.8%	6.6%	6.6%	100.0%
公営住宅	5	3	0	0	0	8
	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
都市再生機構・公社などの賃貸住宅	2	6	4	0	0	12
	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
その他	3	4	2	0	0	9
	33.3%	44.4%	22.2%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	267	347	94	16	16	724
	36.9%	47.9%	13.0%	2.2%	2.2%	100.0%

図 2-3 住居の所有形態と現在の住宅に住み続ける意志



「ぜひいつまでも住みたい」と回答した割合は、「一戸建て(持ち家)」の 45.8%が最も高く、以下、「分譲マンション」29.5%、「都市再生機構・公社などの賃貸住宅」16.7%、「賃貸マンション・アパート(民間)」12.1%、「一戸建て(借家)」11.1%と続く。「ぜひいつまでも住みたい」「なるべく住んでいたい」を合わせた割合を見ると、「一戸建て(持ち家)」91.8%、「分譲マンション」90.7%で9割を超えている。以下、「都市再生機構・公社などの賃貸住宅」66.7%、「賃貸マンション・アパート」59.2%、「一戸建て(借家)」51.7%などと続く。一方で、

「できれば移りたい」「すぐにでも移りたい」を合わせた割合を見ると、「賃貸マンション・アパート（民間）」が48.4%と最も高く、5割に迫っている。以下、「一戸建て（借家）」40.7%、「都市再生機構・公社などの賃貸住宅」33.3%、「分譲マンション」9.3%、「一戸建て（持ち家）」8.3%と続く。

2-5 身体の具合が悪くなった際に望む暮らし

表2-8は、調査対象者764人に、身体の具合が悪くなった際に望む暮らしについて尋ねた結果を表している。

「現在の住宅にそのまま住み続ける」が47.1%と過半数近くを占めて、飛び抜けて高い割合となっている。以下、「介護を受けられる公的な特別養護老人ホームなどの施設に入居する」17.5%、「現在の住宅を改造し住みやすくする」15.8%、「公的なケア付き住宅に入居する」8.0%、「介護を受けられる民間の有料老人ホームなどの施設に入居する」3.6%、「子どもの家以外の住みやすい家に引っ越す」3.0%、「子どもの家に移り世話をしてもらおう」1.7%、「民間のケア付き住宅に入居する」0.7%と続く。また、「その他」が2.7%あった。

表2-8 身体の具合が悪くなった際に望む暮らし

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
現在の住宅にそのまま住み続ける	331	43.3%	47.1%	146	45.3%	181	48.1%
介護を受けられる公的な特別養護老人ホームなどの施設に入居する	123	16.1%	17.5%	69	21.4%	54	14.4%
現在の住宅を改造し住みやすくする	111	14.5%	15.8%	58	18.0%	53	14.1%
公的なケア付き住宅に入居する	56	7.3%	8.0%	18	5.6%	37	9.8%
介護を受けられる民間の有料老人ホームなどの施設に入居する	25	3.3%	3.6%	7	2.2%	18	4.8%
子どもの家以外の住みやすい家に引っ越す	21	2.7%	3.0%	11	3.4%	10	2.7%
子どもの家に移り世話をしてもらおう	12	1.6%	1.7%	3	0.9%	9	2.4%
民間のケア付き住宅に入居する	5	0.7%	0.7%	1	0.3%	4	1.1%
その他	19	2.5%	2.7%	9	2.8%	10	2.7%
有効回答者数	703	92.0%	100.0%	322	100.0%	376	100.0%
無回答・不明	61	8.0%		21		37	
合計	764	100.0%		343		413	

表2-9は、住所の所有形態と身体の具合が悪くなった際に望む暮らしの関係について表している。

表2-9 住居の所有形態と身体の具合が悪くなった際に望む暮らし

	現在の住宅にそのまま住み続ける	介護を受けられる公的な特別養護老人ホームなどの施設に入居する	現在の住宅を改造し住みやすくする	公的なケア付き住宅に入居する	介護を受けられる民間の有料老人ホームなどの施設に入居する	子どもの家以外の住みやすい家に引っ越す	子どもの家に移り世話をしてもらおう	民間のケア付き住宅に入居する	その他	合計
一戸建て（持ち家）	50.4%	14.8%	21.5%	4.9%	3.4%	1.3%	0.7%	0.7%	2.2%	446
一戸建て（借家）	37.5%	12.5%	0.0%	16.7%	4.2%	12.5%	12.5%	4.2%	0.0%	24
分譲マンション	48.0%	21.6%	9.6%	10.4%	5.6%	2.4%	1.6%	0.0%	0.8%	125
賃貸マンション・アパート（民間）	29.5%	24.4%	1.3%	17.9%	2.6%	10.3%	5.1%	1.3%	7.7%	78
公営住宅	75.0%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8
都市再生機構・公社などの賃貸住宅	30.0%	30.0%	0.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10
その他	44.4%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	9
合計	47.1%	17.4%	15.7%	8.0%	3.6%	3.0%	1.7%	0.7%	2.7%	700

調査対象者全体では47.1%が望んでいる「現在の住宅にそのまま住み続ける」割合は、「一戸建て（持ち家）」50.4%、「分譲マンション」48.0%で5割前後を占めている。「一戸建て（借家）」37.5%、「都市再生機構・公社などの賃貸住宅」30.0%、「賃貸マンション・アパート（民間）」29.5%などの賃貸住宅ではその割合が持ち家に比べて低くなっている。「現在の住宅を改造し住みやすくする」割合も、「一戸建て（持ち家）」21.5%、「分譲マンション」9.6%と持ち家層で高く、賃貸住宅ではほとんどいなかった。

一方、「介護を受けられる公的な特別養護老人ホームなどの施設に入居する」と回答した割合は、「都市再生機構・公社などの賃貸住宅」30.0%、「賃貸マンション・アパート（民間）」24.4%、「分譲マンション」21.6%、「一戸建て（持ち家）」14.8%、「一戸建て（借家）」12.5%となっており、「公的なケア付き住宅に入居する」と回答した割合は、「都市再生機構・公社などの賃貸住宅」が20.0%と最も高く、以下、「賃貸マンション・アパート（民間）」17.9%、「一戸建て（借家）」16.7%、「分譲マンション」10.4%、「一戸建て（持ち家）」4.9%となっている。

2-6 地域について日頃感じていること

表2-10～2-15は、調査対象者764人に、今住んでいる地域（小学校区ぐらい）について、日頃感じていることを「当てはまる」～「当てはまらない」の4件法で尋ねた結果を表している。

表2-10 「事情が許せば、ずっとこの地域に住みたいと思う」

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	431	56.4%	63.9%	196	63.2%	232	64.4%
どちらかと言えば当てはまる	191	25.0%	28.3%	95	30.6%	96	26.7%
どちらかと言えば当てはまらない	34	4.5%	5.0%	13	4.2%	20	5.6%
当てはまらない	19	2.5%	2.8%	6	1.9%	12	3.3%
有効回答者数	675	88.4%	100.0%	310	100.0%	360	100.0%
無回答・不明	89	11.6%		33		53	
合計	764	100.0%		343		413	

「事情が許せば、ずっとこの地域に住みたいと思う」という項目について見ると、「当てはまる」と回答した割合は63.9%であり、「どちらかと言えば当てはまる」28.3%を加えると92.1%が「事情が許せば、ずっとこの地域に住みたいと思う」と回答している。「どちらかと言えば当てはまらない」は5.0%、「当てはまらない」は2.8%であった。

表2-11 「町内や校区で一緒にする行事（寄付・清掃・署名運動など）に参加する方だと思う」

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	167	21.9%	25.6%	70	23.4%	96	27.6%
どちらかと言えば当てはまる	194	25.4%	29.8%	88	29.4%	106	30.5%
どちらかと言えば当てはまらない	149	19.5%	22.9%	80	26.8%	68	19.5%
当てはまらない	142	18.6%	21.8%	61	20.4%	78	22.4%
有効回答者数	652	85.3%	100.0%	299	100.0%	348	100.0%
無回答・不明	112	14.7%		44		65	
合計	764	100.0%		343		413	

「町内や校区で一緒にする行事（寄付・清掃・署名運動など）に参加する方だと思う」という項目について見ると、「当てはまる」は25.6%、「どちらかと言えば当てはまる」29.8%と、合わせると55.4%が「町内や校区で一緒にする行事（寄付・清掃・署名運動など）に参加する方だと思う」と回答している。「どちらかと言えば当てはまらない」22.9%、「当てはまらない」21.8%となっている。

表 2-12 「この地域のリーダー（町内会やPTAの役員）はよくやっていると思う」

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	172	22.5%	27.8%	89	30.8%	82	25.2%
どちらかと言えば当てはまる	221	28.9%	35.7%	108	37.4%	112	34.5%
どちらかと言えば当てはまらない	117	15.3%	18.9%	48	16.6%	66	20.3%
当てはまらない	109	14.3%	17.6%	44	15.2%	65	20.0%
有効回答者数	619	81.0%	100.0%	289	100.0%	325	100.0%
無回答・不明	145	19.0%		54		88	
合計	764	100.0%		343		413	

「この地域のリーダー（町内会やPTAの役員）はよくやっていると思う」という項目について見ると、「当てはまる」は27.8%、「どちらかと言えば当てはまる」35.7%で、合わせると63.5%が「この地域のリーダー（町内会やPTAの役員）はよくやっていると思う」と回答している。「どちらかと言えば当てはまらない」は18.9%、「当てはまらない」は17.6%だった。

表 2-13 「この地域のたいていの人は信頼できると思う」

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	120	15.7%	20.0%	51	18.0%	68	21.9%
どちらかと言えば当てはまる	332	43.5%	55.3%	170	59.9%	158	50.8%
どちらかと言えば当てはまらない	109	14.3%	18.2%	49	17.3%	60	19.3%
当てはまらない	39	5.1%	6.5%	14	4.9%	25	8.0%
有効回答者数	600	78.5%	100.0%	284	100.0%	311	100.0%
無回答・不明	164	21.5%		59		102	
合計	764	100.0%		343		413	

「この地域のたいていの人は信頼できると思う」という項目について見ると、「当てはまる」は20.0%、「どちらかと言えば当てはまる」は55.3%で、合わせると75.3%が「この地域のたいていの人は信頼できると思う」と回答している。「どちらかと言えば当てはまらない」は18.2%、「当てはまらない」は6.5%であった。

表 2-14 「この地域のためになることをして、何か役に立ちたいと思う」

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	122	16.0%	19.9%	55	19.0%	66	20.7%
どちらかと言えば当てはまる	310	40.6%	50.6%	150	51.9%	157	49.2%
どちらかと言えば当てはまらない	134	17.5%	21.9%	64	22.1%	69	21.6%
当てはまらない	47	6.2%	7.7%	20	6.9%	27	8.5%
有効回答者数	613	80.2%	100.0%	289	100.0%	319	100.0%
無回答・不明	151	19.8%		54		94	
合計	764	100.0%		343		413	

「この地域のためになることをして、何か役に立ちたいと思う」という項目について見ると、「当てはまる」は19.9%、「どちらかと言えば当てはまる」は50.6%で、合わせると70.5%が「この地域のためになることをして、何か役に立ちたいと思う」と回答している。「どちらかと言えば当てはまらない」は21.9%、「当てはまらない」は7.7%であった。

表 2-15 「色々なことを総合して、この地域の住み心地は良い方だと思う」

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	279	36.5%	41.8%	126	40.9%	152	42.9%
どちらかと言えば当てはまる	334	43.7%	50.1%	161	52.3%	169	47.7%
どちらかと言えば当てはまらない	41	5.4%	6.1%	18	5.8%	23	6.5%
当てはまらない	13	1.7%	1.9%	3	1.0%	10	2.8%
有効回答者数	667	87.3%	100.0%	308	100.0%	354	100.0%
無回答・不明	97	12.7%		35		59	
合計	764	100.0%		343		413	

「色々なことを総合して、この地域の住み心地は良い方だと思う」という項目について見ると、「当てはまる」は41.8%、「どちらかと言えば当てはまる」は50.1%で、合わせると91.9%が「色々なことを総合して、この地域の住み心地は良い方だと思う」と回答している。「どちらかと言えば当てはまらない」は6.1%、「当てはまらない」は1.9%だった。

表 2-16 居住地域と地域について日頃感じていること

	事情が許せば、ずっとこの地域に住みたいと思う。		町内や校区で一緒にする行事(寄付・清掃・署名運動など)に参加する方だと思う。		この地域のリーダー(町内会やPTAの役員)はよくやっていると思う。		この地域のためにいての人は信頼できると思う。		この地域のためになることをして、何か役に立ちたいと思う。		色々なことを総合して、この地域の住み心地は良い方だと思う。	
	%	合計(人)	%	合計(人)	%	合計(人)	%	合計(人)	%	合計(人)	%	合計(人)
下戸田地区	94.2%	208	52.5%	198	55.9%	186	73.1%	182	68.8%	189	92.8%	209
上戸田地区	95.9%	146	53.8%	145	59.4%	138	78.2%	133	64.7%	136	95.9%	146
新曽地区	94.3%	105	53.0%	100	56.4%	94	74.4%	90	71.0%	93	92.2%	102
笹目地区	84.8%	132	55.8%	129	80.2%	121	76.3%	118	70.8%	120	86.5%	126
美女木地区	89.7%	78	69.3%	75	73.3%	75	74.6%	71	85.7%	70	89.7%	78
合計	92.2%	669	55.5%	647	63.7%	614	75.3%	594	70.6%	608	91.8%	661

表 2-16 は、居住地域と地域について日頃感じていることの関係を表している。各項目の%は、それぞれの項目について「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合の合計である。

多くの項目で居住地域による目立った差は見られなかったが、「事情が許せば、ずっとこの地域に住みたいと思う」と回答する割合は、笹目地区・美女木地区でやや低くなっている。また、「この地域のリーダー(町内会やPTAの役員)はよくやっていると思う」と回答する割合は、笹目地区・美女木地区で顕著に高くなっている。

3 外出やつきあいの状況

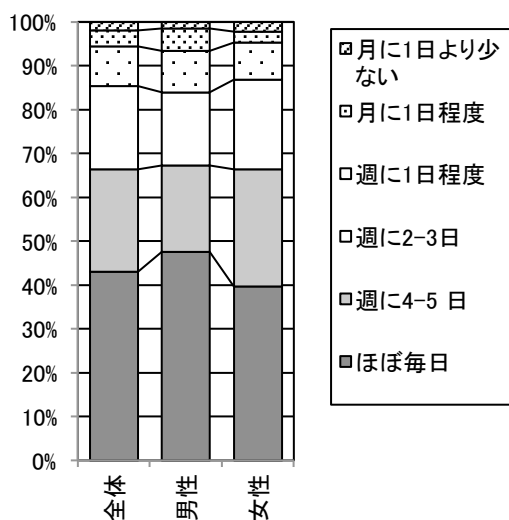
3-1 外出の頻度

表 3-1 は、調査対象者 764 人に、外出の頻度について尋ねた結果を表している。

表 3-1 外出の頻度

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
ほぼ毎日	319	41.8%	43.0%	157	47.6%	160	39.6%
週に 4-5 日	173	22.6%	23.3%	65	19.7%	108	26.7%
週に 2-3 日	140	18.3%	18.9%	55	16.7%	83	20.5%
週に 1 日程度	67	8.8%	9.0%	31	9.4%	34	8.4%
月に 1 日程度	28	3.7%	3.8%	17	5.2%	10	2.5%
月に 1 日より少ない	14	1.8%	1.9%	5	1.5%	9	2.2%
有効回答者数	741	97.0%	100.0%	330	100.0%	404	100.0%
無回答・不明	23	3.0%		13		9	
合計	764	100.0%		343		413	

図 3-1 外出の頻度



全体について見ると、「ほぼ毎日」が 43.0%、「週に 4-5 日」が 23.3% を占め、合わせると 66.4% が週に 4 日以上 の頻度で外出している。「週に 2-3 日」は 18.9%、「週に 1 日程度」は 9.0%、「月に 1 日程度」は 3.8%、「月に 1 日より少ない」は 1.9% となっている。

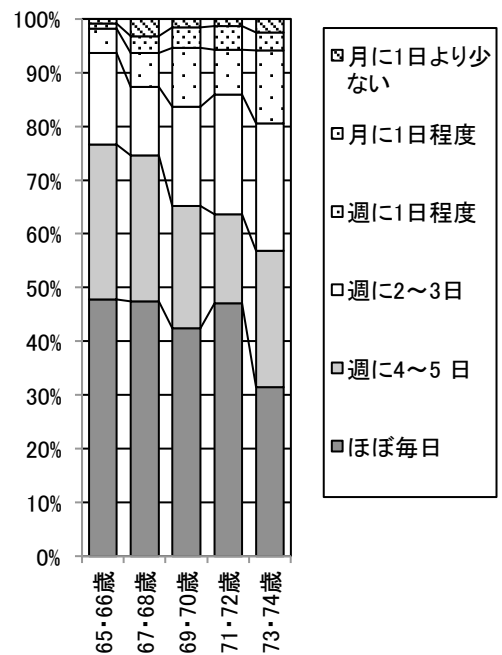
男女別に見ると、「ほぼ毎日」の割合が、男性 47.6% に対して、女性では 39.6% と、8 ポイント低くなっているが、週に 4 日以上 の頻度で外出している割合を見ると、男性 67.3%、女性 66.3% とほぼ変わらない。

表 3-2、図 3-2 は、年齢階層別に外出の頻度を見たものである。

表 3-2 年齢階層と外出の頻度

		ほぼ毎日	週に4~5日	週に2~3日	週に1日程度	月に1日程度	月に1日より少ない	合計
男性	65・66歳	56.9%	25.5%	11.8%	3.9%	2.0%	0.0%	51
	67・68歳	49.3%	23.9%	16.4%	4.5%	3.0%	3.0%	67
	69・70歳	44.2%	19.5%	13.0%	14.3%	7.8%	1.3%	77
	71・72歳	56.0%	13.3%	18.7%	8.0%	4.0%	0.0%	75
	73・74歳	33.3%	19.3%	22.8%	15.8%	5.3%	3.5%	57
	合計	48.0%	19.9%	16.5%	9.5%	4.6%	1.5%	327
女性	65・66歳	40.0%	31.7%	21.7%	5.0%	0.0%	1.7%	60
	67・68歳	46.2%	29.7%	9.9%	7.7%	3.3%	3.3%	91
	69・70歳	41.1%	25.2%	22.4%	8.4%	0.9%	1.9%	107
	71・72歳	39.0%	19.5%	25.6%	8.5%	4.9%	2.4%	82
	73・74歳	29.5%	31.1%	24.6%	11.5%	1.6%	1.6%	61
	合計	39.9%	26.9%	20.4%	8.2%	2.2%	2.2%	401
全体	65・66歳	47.7%	28.8%	17.1%	4.5%	0.9%	0.9%	111
	67・68歳	47.5%	27.2%	12.7%	6.3%	3.2%	3.2%	158
	69・70歳	42.4%	22.8%	18.5%	10.9%	3.8%	1.6%	184
	71・72歳	47.1%	16.6%	22.3%	8.3%	4.5%	1.3%	157
	73・74歳	31.4%	25.4%	23.7%	13.6%	3.4%	2.5%	118
	合計	43.5%	23.8%	18.7%	8.8%	3.3%	1.9%	728

図 3-2 年齢階層と外出の頻度



全体について見ると、週に4日以上頻度で外出している割合は、65・66歳76.5%、67・68歳74.7%、69・70歳65.2%、71・72歳63.7%、73・74歳56.8%となっており、年齢が低い層ほど割合が高くなっている。しかし、月に1日程度以下の外出頻度の割合は、最も若い65・66歳で1.8%と低いが、67~74歳の年齢階層では5~6%程度で大きな違いは見られない。

3-2 外出の手段

表 3-3 は、調査対象者 764 人に、ひとりで 1km 以内の場所に行き物などに行く際にどのような方法で行くのか、複数選択で尋ねた結果を表している。

表 3-3 近所への外出の際の手段

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
自転車	443	58.1%	59.5%	194	57.9%	246	61.0%
徒歩(杖を使わずに)	380	49.8%	51.0%	166	49.6%	212	52.6%
自家用車	277	36.3%	37.2%	160	47.8%	113	28.0%
バス	59	7.7%	7.9%	13	3.9%	46	11.4%
電動三輪車(シニアカー)	18	2.4%	2.4%	8	2.4%	9	2.2%
タクシー	14	1.8%	1.9%	5	1.5%	8	2.0%
徒歩(杖を使って)	13	1.7%	1.7%	4	1.2%	9	2.2%
手押しカート	8	1.0%	1.1%	2	0.6%	6	1.5%
車椅子	7	0.9%	0.9%	3	0.9%	4	1.0%
その他の方法	12	1.6%	1.6%	2	0.6%	10	2.5%
外出しない	3	0.4%	0.4%	1	0.3%	2	0.5%
有効回答者数	745	97.6%	100.0%	335	100.0%	403	100.0%
無回答・不明	18	2.4%		8		9	
合計	763	100.0%		343		412	

全体について見ると、「外出しない」は0.4%であり、99.6%が外出している。移動手段として最も高い割合で選択されたのは、「自転車」の59.5%であり、以下、「徒歩（杖を使わずに）」51.0%、「自家用車」37.2%と続く。それ以外では、割合は大きく下がって、「バス」7.9%、「電動三輪車（シニアカー）」2.4%、「タクシー」1.9%、「徒歩（杖を使って）」1.7%、「手押しカート」1.1%、「車椅子」0.9%となっている。「その他の方法」は1.6%であった。

男女別に見ると、「自家用車」の割合が男性の47.8%に対して、女性では28.0%と20ポイント程度低くなっている。一方、「バス」の割合が男性の3.9%に対して、女性では11.4%と8ポイント程度高くなっている。

表3-4は、年齢階層別に近所への外出の際の手段を表している。

表3-4 年齢階層別、近所への外出の際の手段

		(杖を使わずに) 徒歩	徒歩(杖を使って)	手押しカート	自転車	電動三輪車 (シニアカー)	車椅子	自家用車	タクシー	バス	その他の方法	外出しない	合計
男性	65・66歳	51.9%	0.0%	0.0%	59.6%	0.0%	1.9%	53.8%	1.9%	1.9%	0.0%	0.0%	52
	67・68歳	47.8%	1.5%	0.0%	53.7%	0.0%	0.0%	61.2%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	67
	69・70歳	49.4%	0.0%	1.3%	58.2%	0.0%	0.0%	41.8%	1.3%	5.1%	2.5%	0.0%	79
	71・72歳	47.4%	2.6%	1.3%	57.9%	0.0%	1.3%	40.8%	2.6%	5.3%	0.0%	0.0%	76
	73・74歳	55.2%	1.7%	0.0%	60.3%	0.0%	0.0%	46.6%	1.7%	3.4%	0.0%	1.7%	58
	合計	50.0%	1.2%	0.6%	57.8%	0.0%	0.6%	48.2%	1.5%	3.6%	0.6%	0.3%	332
女性	65・66歳	48.3%	1.7%	0.0%	56.7%	0.0%	1.7%	41.7%	3.3%	6.7%	1.7%	0.0%	60
	67・68歳	51.6%	0.0%	1.1%	61.5%	0.0%	0.0%	30.8%	0.0%	8.8%	1.1%	1.1%	91
	69・70歳	48.6%	1.9%	4.7%	72.0%	0.0%	0.0%	26.2%	2.8%	13.1%	0.0%	0.9%	107
	71・72歳	59.8%	2.4%	0.0%	53.7%	0.0%	2.4%	22.0%	1.2%	17.1%	3.7%	0.0%	82
	73・74歳	55.7%	6.6%	0.0%	55.7%	0.0%	1.6%	21.3%	1.6%	6.6%	8.2%	0.0%	60
	合計	52.6%	2.2%	1.5%	61.1%	0.0%	1.0%	27.9%	1.7%	11.0%	2.5%	0.5%	400
合計	65・66歳	50.0%	0.9%	0.0%	58.0%	0.0%	1.8%	47.3%	2.7%	4.5%	0.9%	0.0%	112
	67・68歳	50.0%	0.6%	0.6%	58.2%	0.0%	0.0%	43.7%	0.0%	5.7%	0.6%	0.6%	158
	69・70歳	48.9%	1.1%	3.2%	66.1%	0.0%	0.0%	32.8%	2.2%	9.7%	1.1%	0.5%	186
	71・72歳	53.8%	2.5%	0.6%	55.7%	0.0%	1.9%	31.0%	1.9%	11.4%	1.9%	0.0%	158
	73・74歳	55.5%	4.2%	0.0%	58.0%	0.0%	0.8%	33.6%	1.7%	5.0%	4.2%	0.8%	118
	合計	51.4%	1.8%	1.1%	59.6%	0.0%	0.8%	37.1%	1.6%	7.6%	1.6%	0.4%	732

男性で目立つのは「自家用車」を利用する割合の変化である。

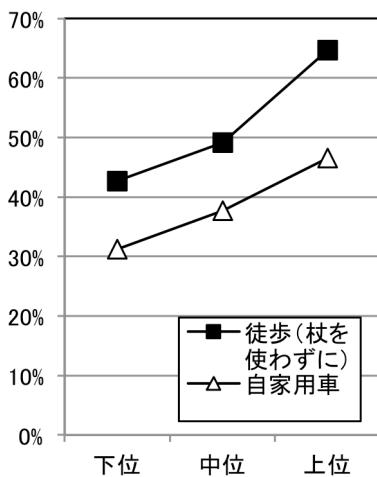
「自家用車」を利用する割合は、65・66歳では53.8%、67・68歳では61.2%と、5割強～6割程度あるが、69歳以上では、69・70歳41.8%、71・72歳40.8%、73・74歳46.6%と4割～5割弱と低くなっている。女性でも同様に、「自家用車」の割合は、65・66歳41.7%、67・68歳30.8%、69・70歳26.2%、71・72歳22.0%、73・74歳21.3%と、年齢が低いほど、その割合も低くなっている。一方で、女性では、「自転車」利用の割合が65・66歳6.7%、67・68歳8.8%、69・70歳13.1%、71・72歳17.1%、73・74歳6.6%と、71・72歳をピークに高くなっている。

表3-5は、所得階層と近所への外出の際の手段との関係を表している。

表 3-5 等価年収階層と近所への外出の際の手段

		徒歩(杖を使わずに)	徒歩(杖を使って)	手押しカート	自転車	電動三輪車(シニアカー)	車椅子	自家用車	タクシー	バス	その他の方法	外出しない	合計
男性	下位	38.9%	2.2%	0.0%	62.2%	0.0%	2.2%	40.0%	2.2%	5.6%	1.1%	1.1%	90
	中位	47.6%	1.0%	1.0%	59.0%	0.0%	1.0%	48.6%	1.9%	4.8%	0.0%	0.0%	105
	上位	62.5%	0.0%	0.0%	55.4%	0.0%	0.0%	55.4%	0.9%	2.7%	0.9%	0.0%	112
	合計	50.5%	1.0%	0.3%	58.6%	0.0%	1.0%	48.5%	1.6%	4.2%	0.7%	0.3%	307
女性	下位	45.3%	2.3%	2.3%	60.9%	0.0%	1.6%	25.0%	2.3%	12.5%	4.7%	0.0%	127
	中位	50.5%	4.7%	0.9%	63.6%	0.0%	1.9%	27.1%	0.9%	12.1%	2.8%	0.0%	107
	上位	67.0%	1.0%	0.0%	53.4%	0.0%	0.0%	36.9%	1.9%	8.7%	0.0%	1.9%	103
	合計	53.6%	2.7%	1.2%	59.5%	0.0%	1.2%	29.3%	1.8%	11.2%	2.7%	0.6%	337
全体	下位	42.7%	2.3%	1.4%	61.5%	0.0%	1.8%	31.2%	2.3%	9.6%	3.2%	0.5%	217
	中位	49.1%	2.8%	0.9%	61.3%	0.0%	1.4%	37.7%	1.4%	8.5%	1.4%	0.0%	212
	上位	64.7%	0.5%	0.0%	54.4%	0.0%	0.0%	46.5%	1.4%	5.6%	0.5%	0.9%	215
	合計	52.1%	1.9%	0.8%	59.1%	0.0%	1.1%	38.4%	1.7%	7.9%	1.7%	0.5%	644

図 3-3 等価年収階層と近所への外出の際の手段



等価年収階層によって、「自家用車」を利用する割合に顕著な差が見られる(図 3-3)。等価年収階層「下位」31.2%<「中位」37.7%<「上位」46.5%と、所得階層が高いほど、その利用割合が高くなっているのである。また、所得は直接関係しそくない「徒歩(杖を使わずに)」の割合においても、「下位」42.7%<「中位」49.1%<「上位」64.7%と、所得階層が高いほどその割合が顕著に高い傾向が見られた(図 3-3)。こうした傾向は、男女のいずれでも見られた。

3-3 居住地域で不便に思ったり、気になること

表 3-6-1 は、調査対象者 764 人に、居住地域について不便に思ったり、気になったりすることについて、複数選択で尋ねた結果を表している。

表 3-6-1 居住地域で不便に思ったり、気になること

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
不便に思ったり、気になることがある	285	37.3%	42.8%	108	35.0%	175	50.0%
医院や病院への通院に不便	88	11.5%	13.2%	31	10.0%	56	16.0%
交通機関が高齢者には使いにくい、 または整備されていない	79	10.3%	11.9%	28	9.1%	51	14.6%
日常の買い物に不便	71	9.3%	10.7%	31	10.0%	39	11.1%
図書館や集会施設などの公共施設が不足	70	9.2%	10.5%	27	8.7%	41	11.7%
集会施設、市役所、商店など公共的建物が 高齢者には使いにくい	54	7.1%	8.1%	16	5.2%	38	10.9%
近隣の道路が整備されていない	47	6.2%	7.1%	22	7.1%	25	7.1%
その他	63	64.3%	16.5%	26	12.9%	36	20.6%
不便に思ったり、気になったりすることはない	381	49.9%	57.2%	201	65.0%	175	50.0%
有効回答者数	666	87.2%	100.0%	309	100.0%	350	100.0%
無回答・不明	98	12.8%		34		63	
合計	764	100.0%		343		413	

全体について見ると、「不便に思ったり、気になることがある」割合は 57.2%、何らかの「不便に思ったり、気になることがある」割合は 42.8%であった。不便に思ったり、気になることの中身としては、「医院や病院への通院に不便」が 13.2%と最も高く、以下、「交通機関が高齢者には使いにくい、または整備されていない」11.9%、「日常の買い物に不便」10.7%、「図書館や集会施設などの公共施設が不足」10.5%、「集会施設、市役所、商店など公共的建物が高齢者には使いにくい」8.1%、「近隣の道路が整備されていない」7.1%と、それぞれ 1 割程度で選択されている。また、「その他」が 16.5%あった。

男女別に見ると、「不便に思ったり、気になることがある」割合は、男性の 35.0%に対して、女性では 50.0%と 15 ポイント高くなっている。中身についてみると、「医院や病院への通院に不便」は男性 10.0%に対して女性 16.0%、「集会施設、市役所、商店など公共的建物が高齢者には使いにくい」は男性 5.2%に対して女性 10.9%、「交通機関が高齢者には使いにくい、または整備されていない」では、男性 9.1%に対して女性 14.6%と、それぞれ 6 ポイント程度女性で高くなっているなど、ほとんどの項目で男性より女性で割合が高くなっている。

表 3-6-2 居住地域と居住地域で不便に思ったり、気になること

	日常の 買い物に 不便	医院や 病院への 通院に 不便	図書館や 集会施設 などの 公共施設 が不足	集会施設、 市役所、 商店など 公共的 建物が 高齢者 には 使い にくい	交通機関 が高齢者 には 使い にくい、 または 整備 され て い な い	近隣の 道路が 整備 され て い な い	その他	不便に 思っ たり、 気 にな った り す る こ と は な い	合計
下戸田地区	4.0%	8.0%	15.4%	9.0%	9.5%	4.0%	9.0%	62.7%	201
上戸田地区	7.1%	2.9%	9.3%	8.6%	5.7%	7.9%	7.1%	70.0%	140
新曽地区	6.6%	9.4%	0.9%	1.9%	8.5%	13.2%	10.4%	64.2%	106
笹目地区	18.5%	20.0%	8.5%	9.2%	20.8%	6.9%	10.0%	45.4%	130
美女木地区	26.8%	37.8%	15.9%	12.2%	18.3%	6.1%	12.2%	31.7%	82
合計	10.8%	13.2%	10.5%	8.2%	11.8%	7.1%	9.4%	57.2%	659

表 3-6-2 は、居住地域で不便に思ったり、気になることについて複数選択で尋ねた結果を表している。「不便に思ったり、気になったりすることはない」割合は、上戸田地区 70.0%、新曽地区 64.2%、下戸田地区 62.7%、笹目地区 45.4%、美女木地区 31.7%となっており、5 割を下回っている笹目地区、3 割程度の美女木地区でその低さが目立つ。

項目別に見ると、「日常の買い物に不便」の割合は、美女木地区で26.8%、笹目地区で18.5%と、下戸田地区4.0%、上戸田地区7.1%、新曽地区6.6%と比べて大幅に高くなっている。「医院や病院への通院に不便」（美女木地区37.8%、笹目地区20.0%）、「交通機関が高齢者には使いにくい、または整備されていない」（美女木地区18.3%、笹目地区20.8%）も、美女木地区、笹目地区で目立って高くなっている。「図書館や集会施設などの公共施設が不足」の割合は、美女木地区15.9%に加えて、下戸田地区でも15.4%でも高くなっている。「近隣の道路が整備されていない」と回答する割合は、新曽地区で13.2%と、他地区に比べて高くなっている。

3-4 家族・友人・知人への連絡の際の IT 機器の利用

表3-7は、調査対象者764人に、家族・友人・知人への連絡の際のIT機器の利用について尋ねた結果を表している。

表3-7 家族・友人・知人への連絡の際のIT機器の利用 (Q11)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
固定電話	624	81.7%	83.6%	271	80.7%	350	86.8%
携帯電話・PHS	574	75.1%	76.9%	263	78.3%	306	75.9%
ファックス	168	22.0%	22.5%	75	22.3%	92	22.8%
パソコン	74	9.7%	9.9%	41	12.2%	32	7.9%
上記はいずれも使わない	3	0.4%	0.4%	1	0.3%	2	0.5%
有効回答者数	746	97.6%	100.0%	336	100.0%	403	100.0%
無回答・不明	18	2.4%		7		10	
合計	764	100.0%		343		413	

全体について見ると、「固定電話」の利用率は83.6%、「携帯電話・PHS」の利用率は76.9%、「ファックス」22.5%、「パソコン」9.9%となっており、これら4つの機器のいずれも使わないという割合は0.4%だった。

男女別に見ると、「固定電話」については、男性80.7%と比べて女性では86.8%と利用率が6ポイント程度高くなっている。一方で「パソコン」については、女性7.9%に比べて男性では12.2%と利用率が4ポイント程度高くなっている。

3-5 同居していない親族と会ったり、連絡をとる頻度

表3-8は、調査対象者764人に、同居していない親族と、どのくらいの頻度で会ったり、電話等で連絡をとっているか尋ねた結果を表している。

表3-8 同居していない親族と会ったり、連絡をとる頻度 (Q12)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
ほとんど毎日	86	11.3%	11.8%	33	10.0%	52	13.3%
週に3-4回	56	7.3%	7.7%	18	5.5%	38	9.7%
週に1-2回	150	19.6%	20.6%	61	18.5%	87	22.2%
月に1-2回	221	28.9%	30.3%	92	27.9%	127	32.4%
年に数回	149	19.5%	20.4%	87	26.4%	62	15.8%
ほとんどない	27	3.5%	3.7%	18	5.5%	7	1.8%
同居していない親族はいない	40	5.2%	5.5%	21	6.4%	19	4.8%
有効回答者数	729	95.4%	100.0%	330	100.0%	392	100.0%
無回答・不明	35	4.6%		13		21	
合計	764	100.0%		343		413	

全体について見ると、「ほとんど毎日」は11.8%、「週に3-4回」7.7%、「週に1-2回」20.6%と、合わせて40.1%の人は、週に1回以上の頻度で同居していない家族に会ったり、連絡をとっている。「月に1-2回」30.3%を合わせると70.4%になる。「年に数回」は20.4%であり、「ほとんどない」も3.7%いた。また、そもそも「同居していない親族はいない」が5.5%いた。

男女別に見ると、

「週1回以上」の割合は、男性33.9%に対して女性では45.2%と11ポイント程度高くなっている。「月1回以上」にまで上げると、男性61.8%に対して女性では77.6%と、男性に比べて女性で16ポイント程度高くなっている。一方、「年に数回」の割合は、男性では26.4%と、女性15.8%と比べて11ポイント程度高くなっている。「ほとんどない」割合も、男性では5.5%と、女性1.8に比べて4ポイント程度高くなっている。「同居していない親族と会ったり、連絡をとる頻度」は、男性に比べて女性で高い傾向が見られる。

3-6 近所の人との付き合いの頻度

表3-9は、調査対象者764人に、近所の人と、どれくらいの頻度で一緒に出かけたり、お互いの家を訪ねたり、電話で連絡を取り合っているか尋ねた結果を表している。

表3-9 近所の人との付き合いの頻度 (Q13)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
ほとんど毎日	39	5.1%	5.3%	10	3.0%	28	7.1%
週に3-4回	65	8.5%	8.9%	16	4.9%	49	12.4%
週に1-2回	120	15.7%	16.4%	45	13.7%	74	18.7%
月に1-2回	122	16.0%	16.7%	50	15.2%	71	17.9%
年に数回	74	9.7%	10.1%	40	12.2%	34	8.6%
ほとんどない	310	40.6%	42.5%	167	50.9%	140	35.4%
有効回答者数	730	95.5%	100.0%	328	100.0%	396	100.0%
無回答・不明	34	4.5%		15		17	
合計	764	100.0%		343		413	

全体について見ると、「ほとんど毎日」5.3%、「週に3-4回」8.9%、「週に1-2回」16.4%となっており、30.7%の人が週1回以上の頻度で近所の人と一緒に出かけたり、お互いの家を訪ねたりしている。「月に1-2回」16.7%を加えると、その割合は47.4%になる。「年に数回」は10.1%であり、近所の人と何らかの付き合いがある割合は57.5%となる。「ほとんどない」は42.5%であった。

男女別に見ると、週1回以上の頻度である割合は、男性21.6%に対して女性では38.1%と17ポイント程度高い。月に1回以上の頻度である割合は、男性36.9%に対して女性では56.1%と19ポイント程度高くなっている。

年に数回を含めて、近所の人と何らかの付き合いがある割合は、男性49.1%に対して女性では64.6%と16ポイント程度高くなっている。一方、近所の人との付き合いが「ほとんどない」割合は男性では50.9%と過半数に達しており、女性35.4%と比べて16ポイント程度高くなっている。

3-7 困ったことや悩みごとがあったときに、相談できる人数

表3-10は、調査対象者764人に、困ったことや悩みごとがあったときに、相談できる人が何人ぐらいいるか尋ねた結果を表している。

表 3-10 困ったことや悩みごとがあったときに、相談できる人数 (Q14)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
0人	31	4.1%	4.2%	18	5.6%	13	3.2%
1人	62	8.1%	8.5%	33	10.2%	28	7.0%
2人	138	18.1%	18.9%	78	24.1%	60	15.0%
3人	152	19.9%	20.8%	63	19.4%	86	21.4%
4人	66	8.6%	9.0%	21	6.5%	45	11.2%
5人	144	18.8%	19.7%	54	16.7%	90	22.4%
6人	43	5.6%	5.9%	13	4.0%	29	7.2%
7人	15	2.0%	2.1%	6	1.9%	9	2.2%
8人	20	2.6%	2.7%	8	2.5%	12	3.0%
9人	2	0.3%	0.3%	0	0.0%	2	0.5%
10人	47	6.2%	6.4%	23	7.1%	23	5.7%
11人以上	11	1.4%	1.5%	7	2.2%	4	1.0%
有効回答者数	731	95.7%	100.0%	324	100.0%	401	100.0%
無回答・不明	33	4.3%		19		12	
合計	764	100.0%		343		413	

困ったことや悩みごとがあったときに、相談できる人がいない (0人) の割合は、全体で 4.2% いた。1人か2人いるが 27.4%、3~5人が 49.5%、6人以上が 18.9% いた。相談できる人数の平均は 4.1人だった。

男女別に見ると、0人は男性で 5.6%、女性では 3.2% だった。1人か2人は男性 34.3% と女性 21.9% と比べて 12ポイント程度高く、3~5人の割合は、男性 42.6% と女性 55.1% と比べて 13ポイント程度低くなっていた。6人以上の割合は、男性 17.6%、女性 19.7% となっていた。相談できる人数の平均は、男性 3.9人、女性 4.2人であった。

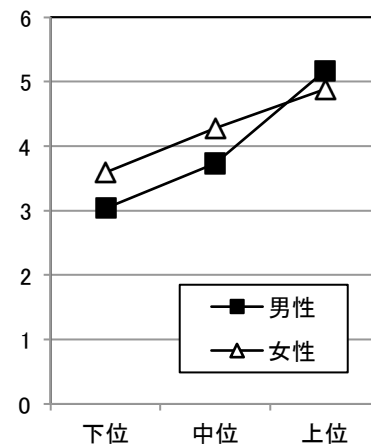
表 3-11、図 3-4 は、等価年収と相談できる人数の平均の関係を表している。

全体で見ると、等価年収「下位」3.4人 < 「中位」4.0人 < 「上位」5.0人と、等価年収が高い層ほど、相談できる人数も多くなっている。男女別に見ても同様である。

表 3-11 等価年収と相談できる人数

	全体		男性		女性	
	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数
下位	3.4	217	3.0	88	3.6	127
中位	4.0	209	3.7	101	4.3	107
上位	5.0	210	5.2	108	4.9	102
合計	4.1	636	4.1	297	4.2	336

図 3-4 等価年収と相談できる人数



3-8 困ったことや悩みごとがあったときに、相談できる人

表 3-12 は、困ったことや悩みごとがあったときに、相談できる人数が 1 人以上いる 700 人に、それがどのような人なのか尋ねた結果を表している。

表 3-12 相談できる人のカテゴリー (Q14-1)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
子ども	479	68.4%	69.5%	181	60.1%	295	77.2%
配偶者	400	57.1%	58.1%	190	63.1%	208	54.5%
きょうだい	360	51.4%	52.2%	158	52.5%	200	52.4%
地域の友人・知人	150	21.4%	21.8%	56	18.6%	94	24.6%
その他の家族・親族	145	20.7%	21.0%	54	17.9%	89	23.3%
働いていた時の友人・知人	124	17.7%	18.0%	55	18.3%	67	17.5%
趣味・同好の仲間	124	17.7%	18.0%	42	14.0%	81	21.2%
子どもの配偶者	85	12.1%	12.3%	29	9.6%	56	14.7%
学生時代の友だち	80	11.4%	11.6%	31	10.3%	48	12.6%
現在の仕事上の知り合い	57	8.1%	8.3%	36	12.0%	20	5.2%
孫	36	5.1%	5.2%	14	4.7%	22	5.8%
町内会・自治会の役員	34	4.9%	4.9%	22	7.3%	12	3.1%
親	16	2.3%	2.3%	6	2.0%	10	2.6%
ヘルパーやケアマネージャー	14	2.0%	2.0%	4	1.3%	10	2.6%
市のワーカーや相談員	3	0.4%	0.4%	2	0.7%	1	0.3%
その他	8	1.1%	1.2%	2	0.7%	6	1.6%
有効回答者数	689	98.4%	100.0%	301	100.0%	382	100.0%
無回答・不明	11	1.6%		5		6	
合計	700	100.0%		306		388	

全体について見ると、相談相手として最も高い割合で選択されたのは、「子ども」の 69.5%であり、以下、「配偶者」58.1%、「きょうだい」52.2%が続き、過半数を超えている。次いで、かなり割合は低くなるが、「地域の友人・知人」21.8%、「その他の家族・親族」21.0%、「働いていた時の友人・知人」18.0%、「趣味・同好の仲間」18.0%が 2 割前後となっている。「子どもの配偶者」12.3%、「学生時代の友だち」11.6%、「現在の仕事上の知り合い」8.3%も 1 割程度の人を選択している。「孫」5.2%、「町内会・自治会の役員」4.9%、「親」2.3%は 5%を下回っており、「ヘルパーやケアマネージャー」2.0%、「市のワーカーや相談員」0.4%はごくわずかであった。また、「その他」が 1.2%いた。

男女別に見ると、相談相手として「配偶者」を選択する割合は、男性では 63.1%と女性 54.5%に比べて 9 ポイント程度高くなっている。「現在の仕事上の知り合い」も男性 12.0%に対して女性 5.2%と、男性で 7 ポイント程度高い。「町内会・自治会の役員」も男性 7.3%に対して女性 3.1%と、男性で 4 ポイント程度高い。一方で、「子ども」の割合は男性 60.1%に対して女性 77.2%と女性で 17 ポイント程度高い。「趣味・同好の仲間」も男性 14.0%に対して女性 21.2%と女性で 7 ポイント程度高い。「地域の友人・知人」（男性 18.6%、女性 24.6%）、「その他の家族・親族」（男性 17.9%、女性 23.3%）、「子どもの配偶者」（男性 9.6%、女性 14.7%）もそれぞれ女性が 5~6 ポイント程度高くなっている。

3-9 病気などで寝込んだときに、世話を頼める人数

表 3-13 は、病気などで寝込んだときに、世話を頼める人が何人ぐらいいるか尋ねた結果を表している。

表 3-13 病気などで寝込んだときに、世話を頼める人数 (Q15)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
0 人	42	5.5%	6.0%	21	6.7%	21	5.5%
1 人	163	21.3%	23.3%	84	26.8%	79	20.7%
2 人	223	29.2%	31.9%	98	31.3%	121	31.7%
3 人	164	21.5%	23.4%	71	22.7%	92	24.1%
4 人	47	6.2%	6.7%	12	3.8%	35	9.2%
5 人	42	5.5%	6.0%	19	6.1%	23	6.0%
6 人	7	0.9%	1.0%	2	0.6%	5	1.3%
7 人	4	0.5%	0.6%	2	0.6%	2	0.5%
8 人	4	0.5%	0.6%	2	0.6%	2	0.5%
9 人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10 人	4	0.5%	0.6%	2	0.6%	2	0.5%
有効回答者数	700	91.6%	100.0%	313	100.0%	382	100.0%
無回答・不明	64	8.4%		30		31	
合計	764	100.0%		343		413	

全体で見ると、病気などで寝込んだときに、世話を頼める人がいない (0 人) は 6.0% いた。1 人は 23.3%、2 人 31.9%、3 人 23.4% と、1~3 人が 78.6% を占める。4 人は 6.7%、5 人は 6.0% で、6 人以上は合わせて 2.7% だった。世話を頼める人数は、平均 2.3 人だった。

男女別では、1 人という割合が男性では 26.8% と女性 20.7% に比べ 6 ポイント程度高く、4 人の割合が 3.8% と女性 9.2% に比べて 5 ポイント程度低いなどのいくらか差は見られるが、大きな違いとは言えない。世話を頼める人数の平均は、男性 2.2 人、女性 2.4 人だった。

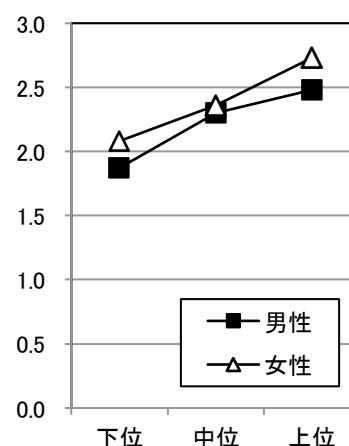
表 3-14、図 3-5 は、等価年収の 3 カテゴリー別に世話を頼める人数の平均値を求めたものである。

全体では、「等価年収下位」2.0 人 < 「等価年収中位」2.3 人 < 「等価年収上位」2.6 人と、等価年収が高いほど世話を頼める人数が多い傾向が見られる。こうした傾向は、男女別に見ても同様であった。

表 3-14 等価年収と世話を頼める人数

	全体		男性		女性	
	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数
下位	2.0	202	1.9	82	2.1	119
中位	2.3	204	2.3	98	2.4	105
上位	2.6	203	2.5	105	2.7	98
合計	2.3	609	2.2	285	2.4	322

図 3-5 等価年収と世話を頼める人数



3-10 病気などで寝込んだときに、世話を頼める人

表 3-15 は、病気などで寝込んだときに、世話を頼める人が 1 人以上いる 658 人に、それがどのような人なのか尋ねた結果を表している。

表 3-15 病気などで寝込んだときに、世話を頼める人 (Q15-1)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
子ども	464	70.5%	71.3%	184	64.3%	277	76.9%
配偶者	431	65.5%	66.2%	217	75.9%	210	58.3%
きょうだい	143	21.7%	22.0%	48	16.8%	93	25.8%
子どもの配偶者	80	12.2%	12.3%	28	9.8%	52	14.4%
その他の家族・親族	63	9.6%	9.7%	26	9.1%	36	10.0%
地域の友人・知人	43	6.5%	6.6%	10	3.5%	33	9.2%
孫	27	4.1%	4.1%	9	3.1%	18	5.0%
趣味・同好の仲間	27	4.1%	4.1%	6	2.1%	21	5.8%
働いていた時の友人・知人	19	2.9%	2.9%	7	2.4%	12	3.3%
学生時代の友だち	9	1.4%	1.4%	2	0.7%	7	1.9%
現在の仕事上の知り合い	9	1.4%	1.4%	2	0.7%	6	1.7%
ヘルパーやケアマネジャー	7	1.1%	1.1%	3	1.0%	4	1.1%
町内会・自治会の役員	5	0.8%	0.8%	3	1.0%	2	0.6%
親	4	0.6%	0.6%	2	0.7%	2	0.6%
市のワーカーや相談員	2	0.3%	0.3%	1	0.3%	1	0.3%
その他	3	0.5%	0.5%	1	0.3%	2	0.6%
有効回答者数	651	98.9%	100.0%	286	100.0%	360	100.0%
無回答・不明	7	1.1%		6		1	
合計	658	100.0%		292		361	

全体で見ると、世話を頼める人としては「子ども」71.3%、「配偶者」66.2%が7割程度と飛び抜けて高く、以下、「きょうだい」22.0%、「子どもの配偶者」12.3%、「その他の家族・親族」9.7%、「地域の友人・知人」6.6%と続いている。5%を下回って、「孫」4.1%、「趣味・同好の仲間」4.1%、「働いていた時の友人・知人」2.9%と続き、「学生時代の友だち」1.4%、「現在の仕事上の知り合い」1.4%、「ヘルパーやケアマネジャー」1.1%、「町内会・自治会の役員」0.8%、「親」0.6%、「市のワーカーや相談員」0.3%は非常に少なかった。また、「その他」が0.5%いた。

男女別に見ると、「配偶者」では違いが大きく、男性は75.9%が世話を頼めると選択しており、女性58.3%と比べて18ポイント程度高くなっている。一方で、「子ども」は男性64.3%に対して女性76.9%と女性で13ポイント程度高くなっている。「きょうだい」（男性16.8%、女性25.8%）も女性で9ポイント程度高く、「地域の友人・知人」（男性3.5%、女性9.2%）、「子どもの配偶者」（男性9.8%、女性14.4%）、「趣味・同好の仲間」（男性2.1%、女性5.8%）でも女性で4～6ポイント程度高くなっている。

4 生活満足度などの意識

4-1 生活満足度などの意識

表 4-1～4-26 は、調査対象者 764 人に、生活の満足度などについて尋ねた結果を表している。

表 4-1 自分の生活に満足している (Q16-1)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	257	33.6%	36.6%	104	32.5%	150	39.9%
どちらかと言えば 当てはまる	342	44.8%	48.7%	167	52.2%	173	46.0%
どちらかと言えば 当てはまらない	77	10.1%	11.0%	38	11.9%	38	10.1%
当てはまらない	26	3.4%	3.7%	11	3.4%	15	4.0%
有効回答者数	702	91.9%	100.0%	320	100.0%	376	100.0%
無回答・不明	62	8.1%		23		37	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-2 今、幸せだと感じる (Q16-2)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	268	35.1%	38.3%	95	30.3%	170	44.9%
どちらかと言えば 当てはまる	338	44.2%	48.3%	172	54.8%	162	42.7%
どちらかと言えば 当てはまらない	62	8.1%	8.9%	33	10.5%	29	7.7%
当てはまらない	32	4.2%	4.6%	14	4.5%	18	4.7%
有効回答者数	700	91.6%	100.0%	314	100.0%	379	100.0%
無回答・不明	64	8.4%		29		34	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-3 今の生活環境に満足している (Q16-3)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	221	28.9%	32.3%	89	29.1%	128	34.5%
どちらかと言えば 当てはまる	342	44.8%	50.0%	160	52.3%	179	48.2%
どちらかと言えば 当てはまらない	84	11.0%	12.3%	44	14.4%	40	10.8%
当てはまらない	37	4.8%	5.4%	13	4.2%	24	6.5%
有効回答者数	684	89.5%	100.0%	306	100.0%	371	100.0%
無回答・不明	80	10.5%		37		42	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-4 日ごろの生活にゆとりを感じる (Q16-4)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	174	22.8%	25.5%	64	21.0%	107	28.8%
どちらかと言えば 当てはまる	355	46.5%	52.0%	173	56.7%	178	48.0%
どちらかと言えば 当てはまらない	112	14.7%	16.4%	52	17.0%	60	16.2%
当てはまらない	42	5.5%	6.1%	16	5.2%	26	7.0%
有効回答者数	683	89.4%	100.0%	305	100.0%	371	100.0%
無回答・不明	81	10.6%		38		42	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-5 日々落ち着いた気分で過ごしている (Q16-5)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	174	22.8%	25.5%	64	21.0%	107	28.8%
どちらかと言えば 当てはまる	355	46.5%	52.0%	173	56.7%	178	48.0%
どちらかと言えば 当てはまらない	112	14.7%	16.4%	52	17.0%	60	16.2%
当てはまらない	42	5.5%	6.1%	16	5.2%	26	7.0%
有効回答者数	683	89.4%	100.0%	305	100.0%	371	100.0%
無回答・不明	81	10.6%		38		42	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-6 孤独だと感じる (Q16-6)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	33	4.3%	4.8%	15	4.9%	18	4.9%
どちらかと言えば 当てはまる	97	12.7%	14.2%	52	16.9%	45	12.3%
どちらかと言えば 当てはまらない	185	24.2%	27.2%	90	29.2%	93	25.3%
当てはまらない	366	47.9%	53.7%	151	49.0%	211	57.5%
有効回答者数	681	89.1%	100.0%	308	100.0%	367	100.0%
無回答・不明	83	10.9%		35		46	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-7 現在の経済状況に満足している (Q16-7)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	117	15.3%	17.3%	38	12.6%	78	21.3%
どちらかと言えば 当てはまる	282	36.9%	41.8%	132	43.9%	148	40.3%
どちらかと言えば 当てはまらない	162	21.2%	24.0%	81	26.9%	79	21.5%
当てはまらない	114	14.9%	16.9%	50	16.6%	62	16.9%
有効回答者数	675	88.4%	100.0%	301	100.0%	367	100.0%
無回答・不明	89	11.6%		42		46	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-8 総合的にみて人生に満足している (Q16-8)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	165	21.6%	24.2%	61	19.9%	101	27.4%
どちらかと言えば 当てはまる	366	47.9%	53.7%	174	56.7%	189	51.4%
どちらかと言えば 当てはまらない	110	14.4%	16.1%	59	19.2%	50	13.6%
当てはまらない	41	5.4%	6.0%	13	4.2%	28	7.6%
有効回答者数	682	89.3%	100.0%	307	100.0%	368	100.0%
無回答・不明	82	10.7%		36		45	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-9 生きていて良かったと思う (Q16-9)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	296	38.7%	43.3%	118	38.7%	173	46.5%
どちらかと言えば 当てはまる	308	40.3%	45.0%	149	48.9%	157	42.2%
どちらかと言えば 当てはまらない	49	6.4%	7.2%	26	8.5%	23	6.2%
当てはまらない	31	4.1%	4.5%	12	3.9%	19	5.1%
有効回答者数	684	89.5%	100.0%	305	100.0%	372	100.0%
無回答・不明	80	10.5%		38		41	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-10 将来に希望がある (Q16-10)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	91	11.9%	13.5%	33	10.9%	57	15.6%
どちらかと言えば 当てはまる	287	37.6%	42.5%	127	41.8%	157	43.0%
どちらかと言えば 当てはまらない	207	27.1%	30.6%	98	32.2%	107	29.3%
当てはまらない	91	11.9%	13.5%	46	15.1%	44	12.1%
有効回答者数	676	88.5%	100.0%	304	100.0%	365	100.0%
無回答・不明	88	11.5%		39		48	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-11 生きがいをもって生活している (Q17-1)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	202	26.4%	29.7%	70	22.3%	129	35.7%
どちらかと言えば 当てはまる	320	41.9%	47.0%	165	52.5%	152	42.1%
どちらかと言えば 当てはまらない	120	15.7%	17.6%	60	19.1%	60	16.6%
当てはまらない	39	5.1%	5.7%	19	6.1%	20	5.5%
有効回答者数	681	89.1%	100.0%	314	100.0%	361	100.0%
無回答・不明	83	10.9%		29		52	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-12 目的をもって毎日を過ごしている (Q17-2)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	178	23.3%	26.7%	67	22.1%	108	30.2%
どちらかと言えば 当てはまる	300	39.3%	45.0%	135	44.6%	162	45.3%
どちらかと言えば 当てはまらない	152	19.9%	22.8%	83	27.4%	69	19.3%
当てはまらない	37	4.8%	5.5%	18	5.9%	19	5.3%
有効回答者数	667	87.3%	100.0%	303	100.0%	358	100.0%
無回答・不明	97	12.7%		40		55	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-13 趣味などの楽しみをもっている (Q17-3)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	249	32.6%	36.7%	107	34.7%	141	38.7%
どちらかと言えば 当てはまる	267	34.9%	39.4%	128	41.6%	136	37.4%
どちらかと言えば 当てはまらない	92	12.0%	13.6%	46	14.9%	45	12.4%
当てはまらない	70	9.2%	10.3%	27	8.8%	42	11.5%
有効回答者数	678	88.7%	100.0%	308	100.0%	364	100.0%
無回答・不明	86	11.3%		35		49	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-14 家事をすることがある (Q17-4)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	418	54.7%	60.1%	99	31.1%	314	84.6%
どちらかと言えば 当てはまる	163	21.3%	23.4%	118	37.1%	43	11.6%
どちらかと言えば 当てはまらない	66	8.6%	9.5%	60	18.9%	6	1.6%
当てはまらない	49	6.4%	7.0%	41	12.9%	8	2.2%
有効回答者数	696	91.1%	100.0%	318	100.0%	371	100.0%
無回答・不明	68	8.9%		25		42	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-15 宗教活動や信仰しているものがある (Q17-5)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	58	7.6%	8.6%	16	5.2%	42	11.6%
どちらかと言えば 当てはまる	33	4.3%	4.9%	14	4.6%	18	5.0%
どちらかと言えば 当てはまらない	75	9.8%	11.1%	45	14.7%	30	8.3%
当てはまらない	509	66.6%	75.4%	231	75.5%	272	75.1%
有効回答者数	675	88.4%	100.0%	306	100.0%	362	100.0%
無回答・不明	89	11.6%		37		51	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-16 誰かの役に立っていると思う (Q17-6)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	187	24.5%	27.7%	43	14.1%	142	39.1%
どちらかと言えば 当てはまる	310	40.6%	46.0%	152	49.8%	154	42.4%
どちらかと言えば 当てはまらない	118	15.4%	17.5%	77	25.2%	41	11.3%
当てはまらない	59	7.7%	8.8%	33	10.8%	26	7.2%
有効回答者数	674	88.2%	100.0%	305	100.0%	363	100.0%
無回答・不明	90	11.8%		38		50	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-17 自分は役に立つ人間だと思う (Q17-7)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	136	17.8%	20.5%	30	10.1%	103	28.8%
どちらかと言えば 当てはまる	316	41.4%	47.7%	147	49.5%	165	46.1%
どちらかと言えば 当てはまらない	143	18.7%	21.6%	85	28.6%	58	16.2%
当てはまらない	67	8.8%	10.1%	35	11.8%	32	8.9%
有効回答者数	662	86.6%	100.0%	297	100.0%	358	100.0%
無回答・不明	102	13.4%		46		55	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-18 ボランティア活動をしている (Q17-8)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	71	9.3%	10.5%	30	9.8%	41	11.4%
どちらかと言えば 当てはまる	81	10.6%	12.0%	36	11.8%	42	11.7%
どちらかと言えば 当てはまらない	114	14.9%	16.9%	56	18.3%	57	15.8%
当てはまらない	407	53.3%	60.5%	184	60.1%	220	61.1%
有効回答者数	673	88.1%	100.0%	306	100.0%	360	100.0%
無回答・不明	91	11.9%		37		53	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-19 全体的に意欲が低下している (Q17-9)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	50	6.5%	7.5%	17	5.6%	32	9.0%
どちらかと言えば 当てはまる	212	27.7%	31.9%	100	32.9%	110	31.0%
どちらかと言えば 当てはまらない	225	29.5%	33.8%	119	39.1%	105	29.6%
当てはまらない	178	23.3%	26.8%	68	22.4%	108	30.4%
有効回答者数	665	87.0%	100.0%	304	100.0%	355	100.0%
無回答・不明	99	13.0%		39		58	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-20 隣近所との人間関係は良好である (Q17-10)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	179	23.4%	26.2%	60	19.4%	117	32.1%
どちらかと言えば 当てはまる	377	49.3%	55.3%	185	59.7%	189	51.8%
どちらかと言えば 当てはまらない	72	9.4%	10.6%	41	13.2%	31	8.5%
当てはまらない	54	7.1%	7.9%	24	7.7%	28	7.7%
有効回答者数	682	89.3%	100.0%	310	100.0%	365	100.0%
無回答・不明	82	10.7%		33		48	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-21 気軽に付き合える友人がいる (Q17-11)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	289	37.8%	42.1%	97	31.2%	189	51.2%
どちらかと言えば 当てはまる	240	31.4%	34.9%	119	38.3%	119	32.2%
どちらかと言えば 当てはまらない	85	11.1%	12.4%	56	18.0%	29	7.9%
当てはまらない	73	9.6%	10.6%	39	12.5%	32	8.7%
有効回答者数	687	89.9%	100.0%	311	100.0%	369	100.0%
無回答・不明	77	10.1%		32		44	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-22 グループ活動を楽しんでいる (Q17-12)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	159	20.8%	23.6%	54	17.5%	103	28.8%
どちらかと言えば 当てはまる	178	23.3%	26.4%	83	26.9%	94	26.3%
どちらかと言えば 当てはまらない	120	15.7%	17.8%	64	20.7%	55	15.4%
当てはまらない	216	28.3%	32.1%	108	35.0%	106	29.6%
有効回答者数	673	88.1%	100.0%	309	100.0%	358	100.0%
無回答・不明	91	11.9%		34		55	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-23 健康状態はよい (Q17-13)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	234	30.6%	33.8%	93	30.0%	138	36.7%
どちらかと言えば 当てはまる	289	37.8%	41.7%	141	45.5%	146	38.8%
どちらかと言えば 当てはまらない	105	13.7%	15.2%	52	16.8%	51	13.6%
当てはまらない	65	8.5%	9.4%	24	7.7%	41	10.9%
有効回答者数	693	90.7%	100.0%	310	100.0%	376	100.0%
無回答・不明	71	9.3%		33		37	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-24 家計にゆとりがある (Q17-14)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	74	9.7%	10.9%	22	7.2%	52	14.2%
どちらかと言えば 当てはまる	287	37.6%	42.3%	127	41.6%	157	42.8%
どちらかと言えば 当てはまらない	190	24.9%	28.0%	93	30.5%	94	25.6%
当てはまらない	128	16.8%	18.9%	63	20.7%	64	17.4%
有効回答者数	679	88.9%	100.0%	305	100.0%	367	100.0%
無回答・不明	85	11.1%		38		46	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-25 困り事があっても、ひとりで解決したい (Q17-15)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	87	11.4%	12.8%	42	13.7%	44	12.1%
どちらかと言えば 当てはまる	286	37.4%	42.1%	135	44.0%	148	40.5%
どちらかと言えば 当てはまらない	209	27.4%	30.8%	98	31.9%	111	30.4%
当てはまらない	97	12.7%	14.3%	32	10.4%	62	17.0%
有効回答者数	679	88.9%	100.0%	307	100.0%	365	100.0%
無回答・不明	85	11.1%		36		48	
合計	764	100.0%		343		413	

表 4-26 人の世話になるくらいなら、不便は我慢する (Q17-16)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
当てはまる	100	13.1%	14.7%	40	12.9%	58	15.8%
どちらかと言えば 当てはまる	311	40.7%	45.6%	145	46.9%	164	44.8%
どちらかと言えば 当てはまらない	195	25.5%	28.6%	93	30.1%	100	27.3%
当てはまらない	76	9.9%	11.1%	31	10.0%	44	12.0%
有効回答者数	682	89.3%	100.0%	309	100.0%	366	100.0%
無回答・不明	82	10.7%		34		47	
合計	764	100.0%		343		413	

4-2 QOL (生活の質) 得点と QOL カテゴリー

Q16 と Q17 の 14 項目を合算し、QOL (生活の質) に関する変数を作成した。具体的には、Q16-1「自分の生活に満足している」、Q16-2「今、幸せだと感じる」、Q16-3「今の生活環境に満足している」、Q16-4「日ごろの生活にゆとりを感じる」、Q16-5「日々落ち着いた気分で過ごせている」、Q16-6「孤独だと感じる」、Q16-8「総合的にみて人生に満足している」、Q16-9「生きていて良かったと思う」、Q16-10「将来に希望がある」、Q17-1「生きがいをもって生活している」、Q17-2「目的をもって毎日を過ごしている」、Q17-6「誰かの役に立っていると思う」、Q17-7「自分は役に立つ人間だと思う」、Q17-9「全体的に意欲が低下している」の 14 変数であり、それぞれの項目について、「当てはまる」に 4 点、「どちらかといえば当てはまる」に 3 点、「どちらかといえば当てはまらない」に 2 点、「当てはまらない」に 1 点を与えた。Q16-6「孤独だと感じる」、Q17-9「全体的に意欲が低下している」の 2 項目については、点数を逆転させ、「当てはまる」に 1 点、「どちらかといえば当てはまる」に 2 点、「どちらかといえば当てはまらない」に 3 点、「当てはまらない」に 4 点を与えた。この得点を合算したものを QOL 得点 (14~64 点) とする。14 項目のいずれかで無回答・不明があった場合は、QOL 得点自体を無回答・不明扱いとしている。この QOL 得点が高いほど QOL が高く、得点が低いほど QOL が低いものとして解釈していく。

表 4-27 QOL3 カテゴリー

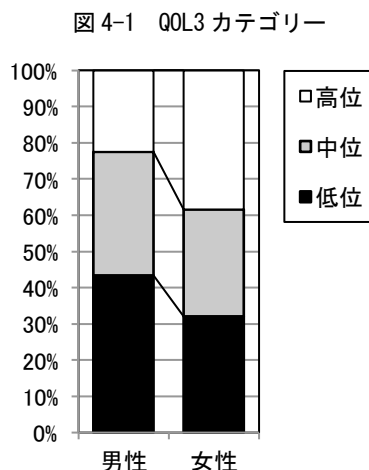
	最小値	最大値	人数	%
QOL 低位	17	39	217	37.2%
QOL 中位	40	44	185	31.7%
QOL 高位	45	56	181	31.0%
合計	17	56	583	100.0%

また、この QOL 得点が高い順に回答者を並び替え、3 等分に近くなるように分け、「QOL 低位」「QOL 中位」「QOL 高位」の 3 カテゴリーに分けたものを「QOL3 カテゴリー」と呼ぶことにする。それぞれのカテゴリーの範囲と人数等は表 4-27 の通りである。

表 4-28、図 4-1 は、性別と QOL3 カテゴリーの関係を表している。

表 4-28 QOL3 カテゴリー

	全体		男性		女性	
	人数	有効%	人数	有効%	人数	有効%
低位	217	37.2%	116	43.4%	100	32.1%
中位	185	31.7%	91	34.1%	92	29.5%
高位	181	31.0%	60	22.5%	120	38.5%
合計	583	100.0%	267	100.0%	312	100.0%



「QOL 低位」の割合は男性では 43.4%と、女性 32.1%に比べて 11 ポイント程度高くなっている。一方、「QOL 高位」の割合は男性では 22.5%と、女性 38.5%に比べて 16 ポイント低くなっている。QOL は男性より女性で高くなっている。また、QOL 得点の平均を見ても、男性 39.9 点に比べて女性では 41.8 点と女性で高くなっている。

表 4-29 は、年齢と QOL カテゴリーの関係を見たものである。65～74 歳という本調査対象者において、年齢と QOL カテゴリーとの間に有意な関係は見られなかった。また、年齢と QOL 得点の平均値との間にも有意な差は見られなかった。

表 4-29 年齢別、QOL3 カテゴリー

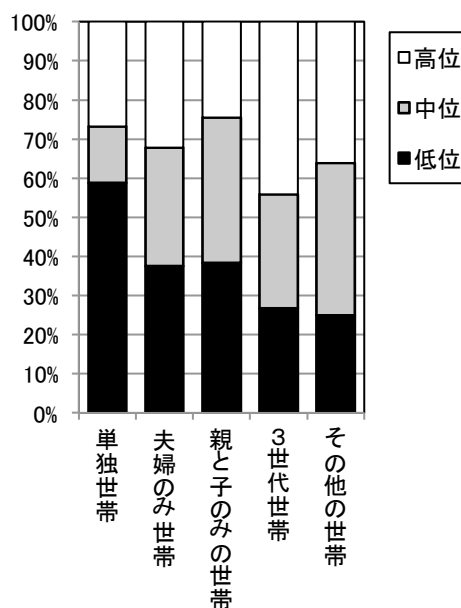
		低位	中位	高位	合計
男性	65・66 歳	41.9%	39.5%	18.6%	43
	67・68 歳	35.7%	32.1%	32.1%	56
	69・70 歳	42.2%	39.1%	18.8%	64
	71・72 歳	49.1%	26.3%	24.6%	57
	73・74 歳	46.7%	35.6%	17.8%	45
	合計	43.0%	34.3%	22.6%	265
女性	65・66 歳	33.3%	27.1%	39.6%	48
	67・68 歳	38.2%	19.7%	42.1%	76
	69・70 歳	27.4%	39.3%	33.3%	84
	71・72 歳	32.8%	31.3%	35.9%	64
	73・74 歳	26.3%	26.3%	47.4%	38
	合計	31.9%	29.4%	38.7%	310
合計	65・66 歳	37.4%	33.0%	29.7%	91
	67・68 歳	37.1%	25.0%	37.9%	132
	69・70 歳	33.8%	39.2%	27.0%	148
	71・72 歳	40.5%	28.9%	30.6%	121
	73・74 歳	37.3%	31.3%	31.3%	83
	合計	37.0%	31.7%	31.3%	575

表 4-30、図 4-2 は、世帯構造と QOL3 カテゴリーとの関係を表している。

表 4-30 世帯構造と QOL3 カテゴリー

	低位	中位	高位	合計
単独世帯	33 58.9%	8 14.3%	15 26.8%	56 100.0%
夫婦のみ世帯	77 37.6%	62 30.2%	66 32.2%	205 100.0%
親と子のみの世帯	72 38.3%	70 37.2%	46 24.5%	188 100.0%
3 世代世帯	23 26.7%	25 29.1%	38 44.2%	86 100.0%
その他の世帯	9 25.0%	14 38.9%	13 36.1%	36 100.0%
合計	214 37.5%	179 31.3%	178 31.2%	571 100.0%

図 4-2 世帯構造と QOL3 カテゴリー



「QOL 低位」の割合は、「単独世帯」が 58.9%と最も高く、「親と子のみの世帯」38.3%、「夫婦のみ世帯」37.6%が 4 割弱となっている。「3 世代世帯」26.7%、「その他の世帯」25.0%が 3 割を下回っており、他の世帯構造に比べると低くなっている。一方、「QOL 高位」の割合は、「3 世代世帯」が 44.2%と最も高く、「その他の世帯」36.1%、「夫婦のみ世帯」32.2%、「単独世帯」26.8%、「親と子のみの世帯」24.5%となっている。

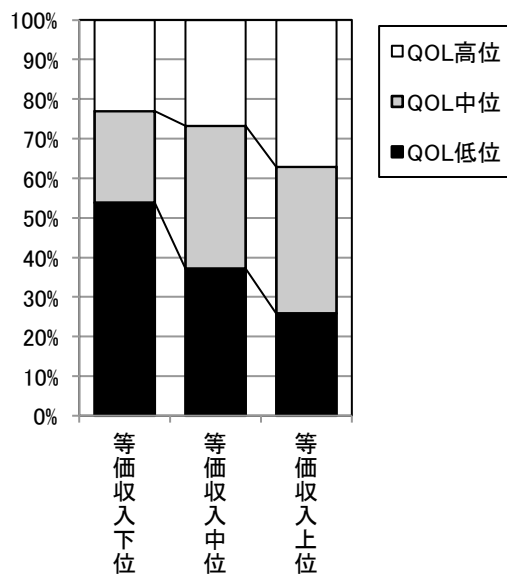
QOL 得点の平均値を見ると、「3 世代世帯」43.0 点、「その他の世帯」42.6 点、「夫婦のみ世帯」41.1 点、「親と子のみの世帯」40.3 点、「単独世帯」37.6 点となっており、「3 世代世帯」において QOL が高く、「単独世帯」において QOL が低くなっていることが分かる。

表 4-31、図 4-3 は、等価収入と QOL3 カテゴリーとの関係を表している。

表 4-31 等価収入と QOL3 カテゴリー

	QOL 低位	QOL 中位	QOL 高位	合計
等価収入下位	79 53.7%	34 23.1%	34 23.1%	147 100.0%
等価収入中位	68 37.2%	66 36.1%	49 26.8%	183 100.0%
等価収入上位	48 25.8%	69 37.1%	69 37.1%	186 100.0%
合計	195 37.8%	169 32.8%	152 29.5%	516 100.0%

図 4-3 等価収入と QOL3 カテゴリー



「QOL 低位」の割合は、「等価収入下位」53.7%、「等価収入中位」37.2%、「等価収入上位」25.8%と、等価収入が高いほど低くなっている。一方、「QOL 高位」の割合は、「等価収入下位」23.1%、「等価収入中位」26.8%、「等価収入上位」37.1%となっており、等価収入が上位である層で高くなっている。

QOL 得点の平均値を求めると、「等価収入下位」38.2点、「等価収入中位」40.7点、「等価収入上位」42.8点と、等価収入が高い層ほど QOL 得点は高くなっている。等価収入の高さは QOL の高さと、等価収入の低さは QOL の低さと結びついている。

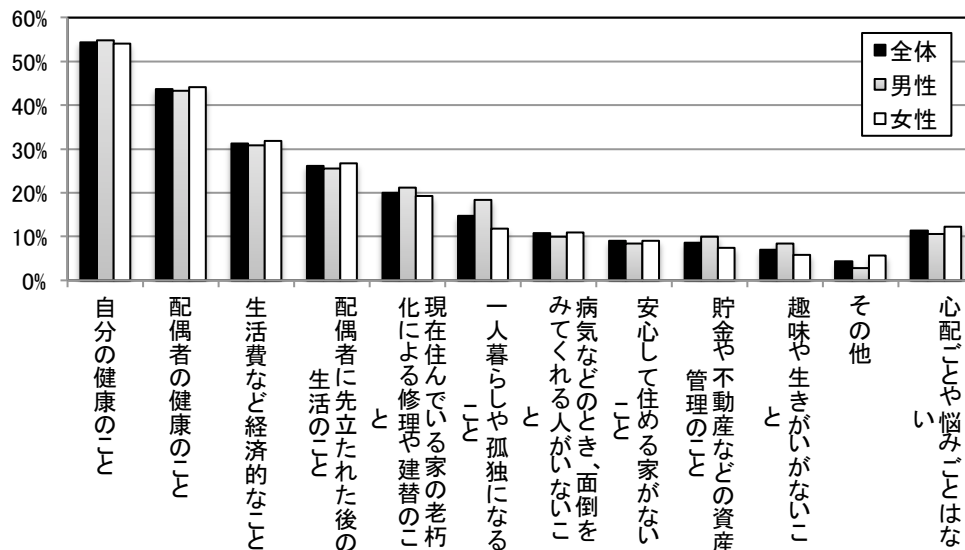
4-3 心配や悩みごと

表 4-32、図 4-4 は、調査対象者 764 人に、現在の心配や悩みごとについて複数選択で尋ねた結果を表している。

表 4-32 心配や悩みごと

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
自分の健康のこと	619	81.0%	88.6%	287	89.4%	328	87.7%
自分の健康のこと	380	49.7%	54.4%	176	54.8%	202	54.0%
配偶者の健康のこと	305	39.9%	43.6%	139	43.3%	165	44.1%
生活費など経済的なこと	219	28.7%	31.3%	99	30.8%	119	31.8%
配偶者に先立たれた後の生活のこと	183	24.0%	26.2%	82	25.5%	100	26.7%
現在住んでいる家の老朽化による修理や建替のこと	140	18.3%	20.0%	68	21.2%	72	19.3%
一人暮らしや孤独になること	103	13.5%	14.7%	59	18.4%	44	11.8%
病気などのとき、面倒をみってくれる人がいないこと	75	9.8%	10.7%	32	10.0%	41	11.0%
安心して住める家がないこと	63	8.2%	9.0%	27	8.4%	34	9.1%
貯金や不動産などの資産管理のこと	60	7.9%	8.6%	32	10.0%	28	7.5%
趣味や生きがいがないこと	49	6.4%	7.0%	27	8.4%	22	5.9%
その他	30	3.9%	4.3%	9	2.8%	21	5.6%
心配ごとや悩みごとはない	80	10.5%	11.4%	34	10.6%	46	12.3%
有効回答者数	699	91.5%	100.0%	321	100.0%	374	100.0%
無回答・不明	65	8.5%		22		39	
合計	764	100.0%		343		413	

図 4-4 心配や悩みごと



全体についてみると、何らかの「心配ごとや悩みごとがある」割合は 88.6%であり、「心配ごとや悩みごとはない」は 11.4%であった。心配ごとや悩みごとの内訳を見ると、「自分の健康のこと」が 54.4%と最も高い割合だった。以下、「配偶者の健康のこと」43.6%、「生活費など経済的なこと」31.3%、「配偶者に先立たれた後の生活のこと」26.2%、「現在住んでいる家の老朽化による修理や建替のこと」20.0%、「一人暮らしや孤独になること」14.7%、「病気などのとき、面倒をみってくれる人がいないこと」10.7%、「安心して住める家がない

こと」9.0%、「貯金や不動産などの資産管理のこと」8.6%、「趣味や生きがいがないこと」7.0%となっている。また、「その他」も4.3%あった。

表4-33は、等価年収と心配や悩みごととの関係を表している。図4-5～4-8は、繁雑さを避けるために、項目を分けて図として表したものである。

表4-33 等価年収と心配や悩みごと

	心配ごとや悩みごとがある	自分の健康のこと	配偶者の健康のこと	病気などのとき、面倒をみてくれる人がいないこと	一人暮らしや孤独になること	配偶者に先立たれた後の生活のこと	生活費など経済的なこと	貯金や不動産などの資産管理のこと	安心して住める家がないこと	現在住んでいる家の老朽化による修理や建替のこと	趣味や生きがいがないこと	その他	心配ごとや悩みごとはない	合計
下位	93.8%	60.3%	45.0%	19.6%	21.1%	26.8%	49.8%	4.8%	17.7%	27.8%	8.6%	6.2%	6.2%	209
中位	89.6%	53.0%	52.0%	8.4%	16.3%	32.2%	29.7%	8.9%	5.4%	20.8%	8.4%	2.5%	10.4%	202
上位	83.2%	48.0%	36.1%	4.0%	7.9%	18.3%	14.9%	11.4%	4.5%	14.9%	5.4%	5.4%	16.8%	202
合計	88.9%	53.8%	44.4%	10.8%	15.2%	25.8%	31.6%	8.3%	9.3%	21.2%	7.5%	4.7%	11.1%	613

まず、「心配ごとや悩みごとがある」割合を見ると（図4-28）、等価年収「下位」93.8%＞「中位」89.6%、「上位」83.2%となっており、年収が低い層ほど悩みごとがある割合が高くなっている。心配ごとや悩みごとの中身との関係を見ると、「趣味や生きがいがないこと」では有意な差は見られず、「貯金や不動産などの資産管理のこと」では年収が高い層ほど割合が高くなる傾向が見られたが、それ以外の心配ごとや悩みごとでは、概ね年収が低い層ほど割合が高くなる傾向が見られた。

図4-5 等価年収と心配や悩みごと（1）

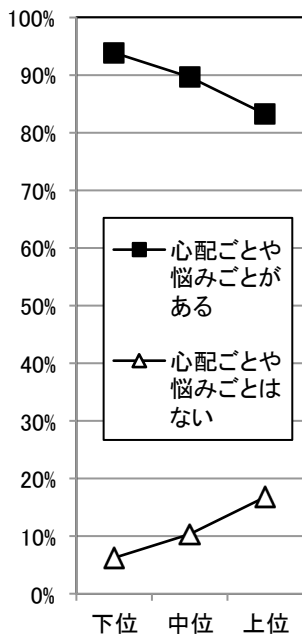


図4-6 等価年収と心配や悩みごと（2）

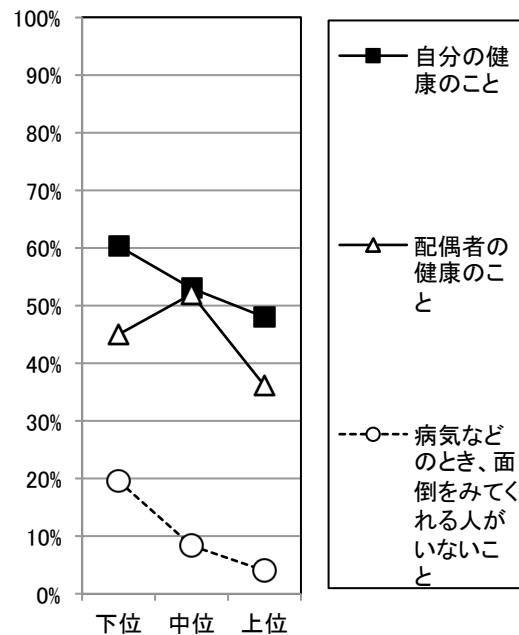


図 4-7 等価年収と心配や悩みごと (3)

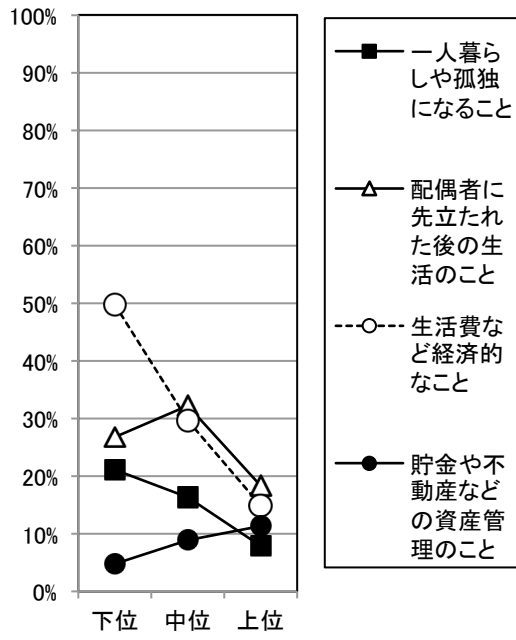
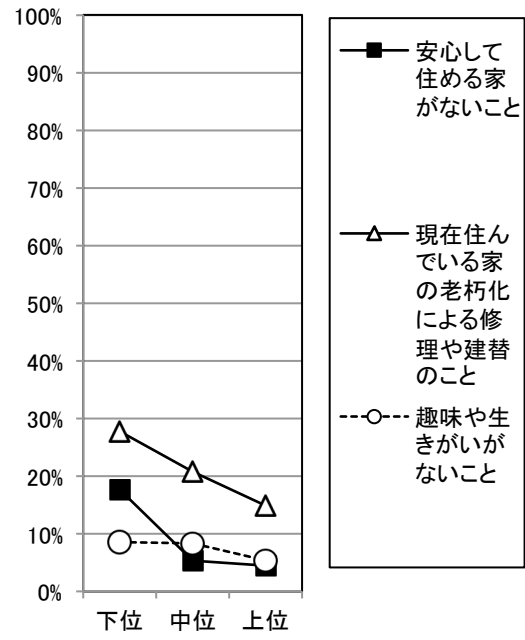


図 4-8 等価年収と心配や悩みごと (4)



5 自主活動

5-1 この1年間の自主活動への参加状況

表5-1～5-10は、調査対象者764人に、この1年間に、グループや団体で自主的に行われている活動に参加したことがあるか尋ねた結果を表している。

表5-1 活動参加状況：趣味（俳句、詩吟、陶芸など）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
参加した	130	17.0%	19.5%	42	13.9%	87	24.3%
参加していない	537	70.3%	80.5%	260	86.1%	271	75.7%
有効回答者数	667	87.3%	100.0%	302	100.0%	358	100.0%
無回答・不明	97	12.7%		41		55	
合計	764	100.0%		343		413	

表5-2 活動参加状況：健康・スポーツ（体操、歩こう会、ゲートボールなど）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
参加した	247	32.3%	36.1%	95	30.6%	152	41.4%
参加していない	437	57.2%	63.9%	215	69.4%	215	58.6%
有効回答者数	684	89.5%	100.0%	310	100.0%	367	100.0%
無回答・不明	80	10.5%		33		46	
合計	764	100.0%		343		413	

表5-3 活動参加状況：生産・就業（園芸・飼育、シルバー人材センターなど）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
参加した	89	11.6%	13.7%	48	16.0%	41	11.8%
参加していない	563	73.7%	86.3%	252	84.0%	306	88.2%
有効回答者数	652	85.3%	100.0%	300	100.0%	347	100.0%
無回答・不明	112	14.7%		43		66	
合計	764	100.0%		343		413	

表5-4 活動参加状況：教育関連・文化啓発活動（学習会、子ども会の育成、郷土芸能の伝承など）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
参加した	58	7.6%	8.9%	26	8.7%	31	8.9%
参加していない	595	77.9%	91.1%	273	91.3%	317	91.1%
有効回答者数	653	85.5%	100.0%	299	100.0%	348	100.0%
無回答・不明	111	14.5%		44		65	
合計	764	100.0%		343		413	

表5-5 活動参加状況：生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくりなど）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
参加した	98	12.8%	14.8%	44	14.5%	53	15.0%
参加していない	564	73.8%	85.2%	260	85.5%	300	85.0%
有効回答者数	662	86.6%	100.0%	304	100.0%	353	100.0%
無回答・不明	102	13.4%		39		60	
合計	764	100.0%		343		413	

表 5-6 活動参加状況：安全管理（交通安全、防犯・防災など）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
参加した	131	17.1%	19.8%	77	25.2%	53	15.2%
参加していない	529	69.2%	80.2%	229	74.8%	295	84.8%
有効回答者数	660	86.4%	100.0%	306	100.0%	348	100.0%
無回答・不明	104	13.6%		37		65	
合計	764	100.0%		343		413	

表 5-7 活動参加状況：高齢者の支援（家事援助、移送など）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
参加した	38	5.0%	5.8%	14	4.7%	22	6.3%
参加していない	615	80.5%	94.2%	285	95.3%	327	93.7%
有効回答者数	653	85.5%	100.0%	299	100.0%	349	100.0%
無回答・不明	111	14.5%		44		64	
合計	764	100.0%		343		413	

表 5-8 活動参加状況：子育て支援（保育への手伝いなど）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
参加した	47	6.2%	7.3%	8	2.7%	39	11.2%
参加していない	600	78.5%	92.7%	286	97.3%	309	88.8%
有効回答者数	647	84.7%	100.0%	294	100.0%	348	100.0%
無回答・不明	117	15.3%		49		65	
合計	764	100.0%		343		413	

表 5-9 活動参加状況：地域行事（祭りなどの地域の催しの世話など）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
参加した	143	18.7%	21.7%	76	25.2%	66	18.8%
参加していない	516	67.5%	78.3%	226	74.8%	285	81.2%
有効回答者数	659	86.3%	100.0%	302	100.0%	351	100.0%
無回答・不明	105	13.7%		41		62	
合計	764	100.0%		343		413	

表 5-10 活動参加状況：その他

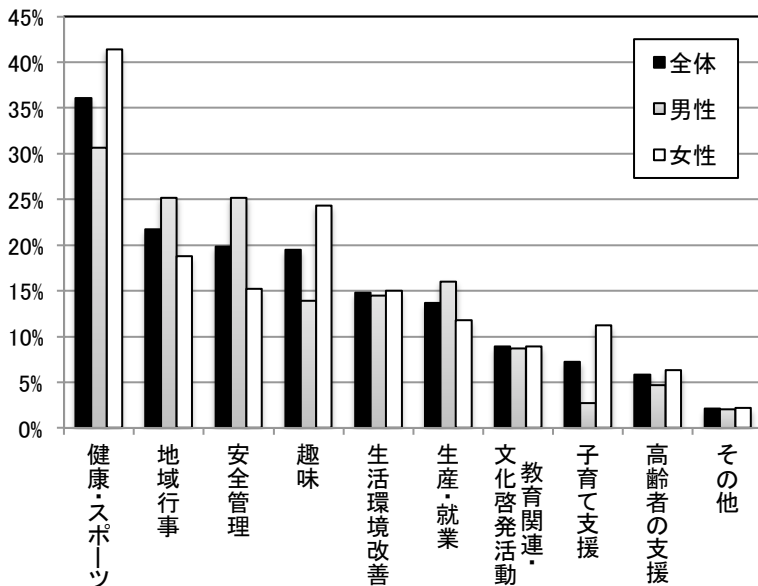
	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
参加した	16	2.1%	2.1%	7	2.0%	9	2.2%
参加していない	748	97.9%	97.9%	336	98.0%	404	97.8%
有効回答者数	764	100.0%	100.0%	343	100.0%	413	100.0%
無回答・不明	0	0.0%		0		0	
合計	764	100.0%		343		413	

表 5-1～5-10 を個別に見ていくと繁雑になるので、各活動に参加している割合のみをまとめた表 5-11 を見ていくことにする。表 5-11、図 5-1 は、回答者全体で参加割合が高い活動から順に並べている。

表 5-11 自主活動への参加割合

	全体		男性		女性	
	人数	有効%	人数	有効%	人数	有効%
健康・スポーツ	247	36.1%	95	30.6%	152	41.4%
有効回答者数	684	100.0%	310	100.0%	367	100.0%
地域行事	143	21.7%	76	25.2%	66	18.8%
有効回答者数	659	100.0%	302	100.0%	351	100.0%
安全管理	131	19.8%	77	25.2%	53	15.2%
有効回答者数	660	100.0%	306	100.0%	348	100.0%
趣味	130	19.5%	42	13.9%	87	24.3%
有効回答者数	667	100.0%	302	100.0%	358	100.0%
生活環境改善	98	14.8%	44	14.5%	53	15.0%
有効回答者数	662	100.0%	304	100.0%	353	100.0%
生産・就業	89	13.7%	48	16.0%	41	11.8%
有効回答者数	652	100.0%	300	100.0%	347	100.0%
教育関連・文化啓発活動	58	8.9%	26	8.7%	31	8.9%
有効回答者数	653	100.0%	299	100.0%	348	100.0%
子育て支援	47	7.3%	8	2.7%	39	11.2%
有効回答者数	647	100.0%	294	100.0%	348	100.0%
高齢者の支援	38	5.8%	14	4.7%	22	6.3%
有効回答者数	653	100.0%	299	100.0%	349	100.0%
その他	16	2.1%	7	2.0%	9	2.2%
有効回答者数	764	100.0%	343	100.0%	413	100.0%

図 5-1 自主活動への参加割合



全体を見ると、最も参加割合が高いのは「趣味（俳句、詩吟、陶芸など）」の36.1%であり、「健康・スポーツ（体操、歩こう会、ゲートボールなど）」21.7%、「生産・就業（園芸・飼育、シルバー人材センターなど）」19.8%、「教育関連・文化啓発活動（学習会、子ども会の育成、郷土芸能の伝承など）」19.5%は2割前後の参加率となっている。以下、「生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくりなど）」14.8%、「安全管理（交通安全、防犯・防災など）」13.7%、「高齢者の支援（家事援助、移送など）」8.9%、「子育て支援（保育への手伝いなど）」7.3%、「地域行事（祭りなどの地域の催しの世話など）」5.8%と続く。「その他」も2.1%あった。

男女別に見ると、「生産・就業」への参加率は、男性では25.2%と女性15.2%に比べて10ポイント程度高くなっている。「健康・スポーツ」への参加率も、男性では25.2%と女性18.8%に比べて6ポイント程度高くなっている。一方、「健康・スポーツ」への参加率は、男性30.6%に比べて女性では41.4%と、女性で11ポイント程度高くなっている。「趣味」への参加率（男性13.9%、女性24.3%）、「子育て支援」への参加率（男性2.7%、女性11.2%）もそれぞれ9～10ポイント程度女性の方が高くなっている。

5-2 最も力を入れた自主活動

表 5-12 は、この 1 年間に何らかのグループや団体で自主的に行われている活動に参加した 390 人に、参加した活動の中で最も力を入れたものが何かと尋ねた結果を表している。

表 5-12 最も力を入れた自主活動 (Q19-1)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
健康・スポーツ	122	31.3%	40.5%	47	35.1%	75	45.5%
趣味	62	15.9%	20.6%	24	17.9%	38	23.0%
生産・就業	28	7.2%	9.3%	18	13.4%	10	6.1%
安全管理	25	6.4%	8.3%	18	13.4%	7	4.2%
地域行事	23	5.9%	7.6%	18	13.4%	4	2.4%
生活環境改善	15	3.8%	5.0%	3	2.2%	12	7.3%
教育関連・文化啓発活動	9	2.3%	3.0%	2	1.5%	6	3.6%
子育て支援	6	1.5%	2.0%	0	0.0%	6	3.6%
高齢者の支援	4	1.0%	1.3%	1	0.7%	3	1.8%
その他	7	1.8%	2.3%	3	2.2%	4	2.4%
有効回答者数	301	77.2%	100.0%	134	100.0%	165	100.0%
無回答・不明	89	22.8%		30		57	
合計	390	100.0%		164		222	

全体について見ると、最も力を入れた自主活動として一番高い割合を占めているのは、「健康・スポーツ」の 40.5%であり、以下、「趣味」20.6%、「生産・就業」9.3%、「安全管理」8.3%、「地域行事」7.6%、「生活環境改善」5.0%、「教育関連・文化啓発活動」3.0%、「子育て支援」2.0%、「高齢者の支援」1.3%と続いている。

男女別に見ると、「地域行事」の割合は男性では 13.4%と女性 2.4%と比べて 11 ポイント高くなっている。「安全管理」も男性では 13.4%と女性 4.2%と比べて 9 ポイント程度高くなっている。「生産・就業」も男性では 13.4%と女性 6.1%と比べて 7 ポイント程度高くなっている。一方、「健康・スポーツ」は男性 35.1%に対して女性では 45.5%と 10 ポイント程度高くなっている。「趣味」（男性 17.9%、女性 23.0%）、「生活環境改善」（2.2%、女性 7.3%）も女性の方がそれぞれ 5 ポイント程度高くなっている。

表 5-13 は、この 1 年間に何らかのグループや団体で自主的に行われている活動に参加した 390 人に、最も力を入れている活動を始めたきっかけについて複数選択可で尋ねた結果を表している。

表 5-13 最も力を入れた自主活動を始めたきっかけ (Q19-2)

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
友人、仲間のすすめ	136	34.9%	39.1%	54	36.7%	82	41.4%
自治会、町内会の誘い	89	22.8%	25.6%	46	31.3%	41	20.7%
個人の意思で(問題意識や解決したい課題をもって)	86	22.1%	24.7%	30	20.4%	56	28.3%
市の広報誌やホームページなどをみて	65	16.7%	18.7%	22	15.0%	42	21.2%
活動団体からの呼びかけ	44	11.3%	12.6%	21	14.3%	23	11.6%
家族のすすめ	24	6.2%	6.9%	21	14.3%	3	1.5%
その他	19	4.9%	5.5%	4	2.7%	15	7.6%
特にきっかけはない	17	4.4%	4.9%	10	6.8%	6	3.0%
有効回答者数	348	89.2%	100.0%	147	100.0%	198	100.0%
無回答・不明	42	10.8%		17		24	
合計	390	100.0%		164		222	

全体について見ると、最も力を入れた自主活動を始めたきっかけとして最も高い割合を占めているのは、「友人、仲間のすすめ」の 39.1%であり、以下、「自治会、町内会の誘い」25.6%、「個人の意思で(問題意識や解

決したい課題をもって)」24.7%、「市の広報誌やホームページなどをみて」18.7%、「活動団体からの呼びかけ」12.6%、「家族のすすめ」6.9%と続いている。「その他」は5.5%、「特にきっかけはない」も4.9%いた。

男女別に見ると、「家族のすすめ」がきっかけである割合は、男性では14.3%と女性1.5%と比べて13ポイント程度高くなっている。「自治会、町内会の誘い」の割合も、男性では31.3%と女性20.7%と比べて11ポイント程度高くなっている。一方、「個人の意思で（問題意識や解決したい課題をもって）」がきっかけである割合は、男性20.4%に比べて女性では28.3%と8ポイント程度高くなっている。「市の広報誌やホームページなどをみて」の割合は、男性15.0%と比べて女性では21.2%と6ポイント程度高くなっている。

男性は家族や町内会・自治会といった周囲からの働きかけをきっかけに活動を始めている割合が高いが、女性の場合は、個人の意志や自ら情報を収集することで活動を始めているところに特徴がある。

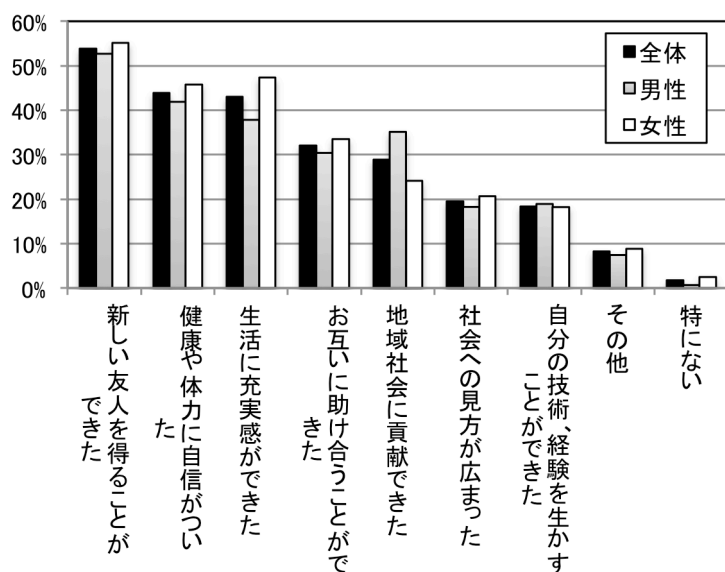
5-3 活動に参加して良かったこと

表5-14、図5-2は、この1年間に何らかのグループや団体で自主的に行われている活動に参加した390人に、この1年間に参加した活動全体を通じて、参加して良かったと思うことについて複数選択可で尋ねた結果を表している。

表5-14 自主活動に参加して良かったこと

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
新しい友人を得ることができた	190	48.7%	53.8%	78	52.7%	112	55.2%
健康や体力に自信がついた	155	39.7%	43.9%	62	41.9%	93	45.8%
生活に充実感ができた	152	39.0%	43.1%	56	37.8%	96	47.3%
お互いに助け合うことができた	113	29.0%	32.0%	45	30.4%	68	33.5%
地域社会に貢献できた	102	26.2%	28.9%	52	35.1%	49	24.1%
社会への見方が広まった	69	17.7%	19.5%	27	18.2%	42	20.7%
自分の技術、経験を生かすことができた	65	16.7%	18.4%	28	18.9%	37	18.2%
その他	6	1.5%	1.7%	1	0.7%	5	2.5%
特にない	29	7.4%	8.2%	11	7.4%	18	8.9%
有効回答者数	353	90.5%	100.0%	148	100.0%	203	100.0%
無回答・不明	37	9.5%		15		19	
合計	390	100.0%		163		222	

図5-2 自主活動に参加して良かったこと



全体についてみると、「新しい友人を得ることができた」が53.8%と最も高く、以下、「健康や体力に自信がついた」43.9%、「生活に充実感ができた」43.1%、「お互いに助け合うことができた」32.0%、「地域社会に貢献できた」28.9%、「社会への見方が広まった」19.5%、「自分の技術、経験を生かすことができた」18.4%と続いている。また、「その他」が1.7%、「特にない」も8.2%いた。

男女別に見ると、「新しい友人を得ることができた」の割合は、男性では35.1%と女性24.1%よりも11ポイント程度高くなっている。一方、「特にない」の割合は、男性37.8%に対して女性では47.3%と10ポイント程度高くなっている。

5-4 自主活動への参加と QOL

表 5-15 は、等価年収の上中下 3 カテゴリーの別に、自主活動への参加数と QOL3 カテゴリーとの関係を表している。図 5-3、5-4、5-5 は、それを図として表したものである。

表 5-15 等価年収別、自主活動参加数と QOL

			QOL 低	QOL 中	QOL 高	合計
等 価 年 収	下 位	参加なし	60.9%	20.3%	18.8%	69
		参加数 1~2	41.0%	38.5%	20.5%	39
		参加数 3 以上	65.0%	5.0%	30.0%	20
		合計	55.5%	23.4%	21.1%	128
	中 位	参加なし	50.0%	36.3%	13.8%	80
		参加数 1~2	35.4%	33.3%	31.3%	48
		参加数 3 以上	24.1%	34.5%	41.4%	29
		合計	40.8%	35.0%	24.2%	157
	上 位	参加なし	27.7%	29.2%	43.1%	65
		参加数 1~2	31.0%	34.5%	34.5%	58
		参加数 3 以上	22.4%	46.9%	30.6%	49
		合計	27.3%	36.0%	36.6%	172
合 計	参加なし	46.7%	29.0%	24.3%	214	
	参加数 1~2	35.2%	35.2%	29.7%	145	
	参加数 3 以上	31.6%	34.7%	33.7%	98	
	合計	39.8%	32.2%	28.0%	457	

図 5-3 [等価年収下位]
自主活動参加数と QOL

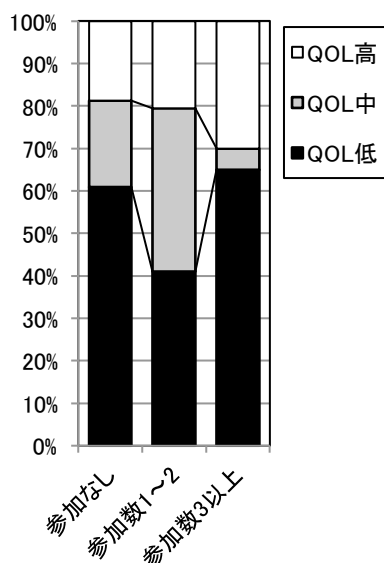


図 5-4 [等価年収中位]
自主活動参加数と QOL

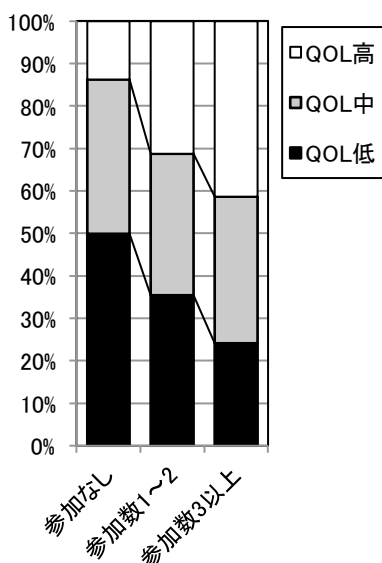
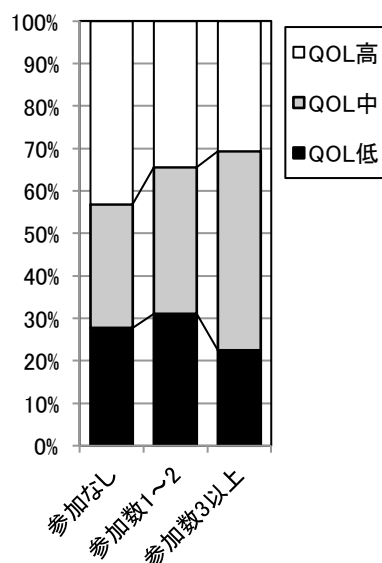


図 5-5 [等価年収上位]
自主活動参加数と QOL



等価年収下位のみを取り出し、自主活動参加数と QOL3 カテゴリーとの関係を見ると (図 5-13)、「QOL 高」の割合は「参加なし」18.8%・「参加数 1~2」20.5% < 「参加数 3 以上」30.0%と自主活動参加数が多いと、「QOL 高」の割合が高い傾向が見られる。しかし、「QOL 低」の割合を見ると、「参加なし」60.9%、「参加数 1~2」41.0%、「参加数 3 以上」65.0%となっており、自主活動参加数との間に一貫した傾向は見られない。

等価年収中位のみを取り出し、自主活動参加数と QOL3 カテゴリーとの関係を見ると (図 5-14)、「QOL 低」の割合は、「参加なし」50.0% > 「参加数 1~2」35.4% > 「参加数 3 以上」24.1%と、参加数が多いと低くなっている。一方で、「QOL 高」の割合は、「参加なし」13.8% < 「参加数 1~2」31.3%、「参加数 3 以上」41.4%と、参加数が多いほど高くなっている。

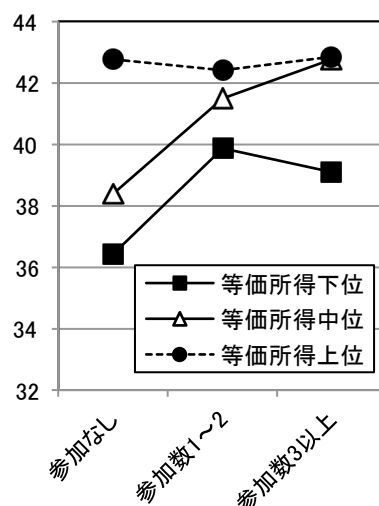
等価収入上位のみを取り出し、自主活動参加数と QOL3 カテゴリーとの関係を見ると（図 5-15）、「QOL 高」の割合は「参加なし」43.1% > 「参加数 1～2」34.5% > 「参加数 3 以上」30.6%と、参加数が多いと低くなる傾向が見られる。

表 5-16、図 5-6 は、等価年収別に自主活動参加数と QOL 得点の平均値の関係を表している。

表 5-16 等価年収別、自主活動参加数と QOL 得点の平均

	等価収入下位		等価収入中位		等価収入上位	
	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数
参加なし	36.4	69	38.4	80	42.8	65
参加数 1～2	39.9	39	41.5	48	42.4	58
参加数 3 以上	39.1	20	42.8	29	42.8	49
合計	37.9	128	40.1	157	42.7	172

図 5-6 等価年収別、自主活動参加数と QOL 得点の平均



「等価年収下位」のみを取り出し、QOL 得点の平均を求めると、自主活動への「参加なし」36.4 < 「参加数 1～2」39.9 < 「参加数 3 以上」39.1 と、自主活動への参加と QOL 得点の高さが結びついている。「等価年収中位」のみを取り出して QOL 得点の平均を求めると、「参加なし」38.4 < 「参加数 1～2」41.5 < 「参加数 3 以上」42.8 と、自主活動への参加数が多いほど QOL 得点が高くなっている。一方で、「等価年収上位」では、QOL 得点の平均は、「参加なし」42.8、「参加数 1～2」42.4、「参加数 3 以上」42.8 となっており、自主活動への参加と QOL 得点の間に有意な差は見られなかった。

QOL 得点の平均値を見る限り、等価年収が下位・中位の層においては、自主活動への参加が QOL の高さと結びついている。

既に見てきたように、経済的に余裕のある層は、困った時に相談したり、世話を頼むことができる人間関係も豊かであり、生活満足度 (QOL) も高く、経済的な困難さを抱えている層ではそうした人間関係も希薄であり、QOL も低いという現実がある。しかし、等価年収と QOL、そして自主活動への参加という 3 つの変数の関係からは、限定的であったり、それほど一貫した傾向ではないとしても、様々な市民活動を含めた自主活動への参加が経済状況とは相対的に独立に QOL を高める可能性が見出されるのである。高齢者が抱える経済的困難や生活問題そのものの解決に向けた取り組みが重要であることは言うまでもないが、様々な市民活動を含めた自主活動が活性化し、多くの高齢者を巻き込んでいくことも、それらとは異なる道筋で高齢者の QOL を高める可能性を持っている。

5-4 今後の自主活動への参加希望

表 5-17～5-26 は、グループや団体で自主的に行われている活動のタイプ別に、現在参加していない人に、今後、に参加したいかどうかについて尋ねた結果を表している。

表 5-17 今後の自主活動への参加意向：趣味（俳句、詩吟、陶芸など）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
今後は参加したい	106	19.7%	23.6%	47	21.8%	58	25.2%
今後も参加したいとは思わない	343	63.8%	76.4%	169	78.2%	172	74.8%
有効回答者数	449	83.5%	100.0%	216	100.0%	230	100.0%
無回答・不明	89	16.5%		45		41	
合計	538	100.0%		261		271	

表 5-18 今後の自主活動への参加意向：健康・スポーツ（体操、歩こう会、ゲートボールなど）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
今後は参加したい	152	34.8%	40.6%	81	44.0%	69	37.1%
今後も参加したいとは思わない	222	50.8%	59.4%	103	56.0%	117	62.9%
有効回答者数	374	85.6%	100.0%	184	100.0%	186	100.0%
無回答・不明	63	14.4%		31		29	
合計	437	100.0%		215		215	

表 5-19 今後の自主活動への参加意向：生産・就業（園芸・飼育、シルバー人材センターなど）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
今後は参加したい	103	18.3%	22.3%	57	27.1%	45	18.2%
今後も参加したいとは思わない	358	63.7%	77.7%	153	72.9%	202	81.8%
有効回答者数	461	82.0%	100.0%	210	100.0%	247	100.0%
無回答・不明	101	18.0%		42		58	
合計	562	100.0%		252		305	

表 5-20 今後の自主活動への参加意向：教育関連・文化啓発活動（学習会、子ども会の育成、郷土芸能の伝承など）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
今後は参加したい	82	13.8%	17.0%	36	16.3%	46	17.8%
今後も参加したいとは思わない	400	67.3%	83.0%	185	83.7%	212	82.2%
有効回答者数	482	81.1%	100.0%	221	100.0%	258	100.0%
無回答・不明	112	18.9%		52		58	
合計	594	100.0%		273		316	

表 5-21 今後の自主活動への参加意向：生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくりなど）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
今後は参加したい	138	24.5%	29.4%	74	34.1%	63	25.3%
今後も参加したいとは思わない	331	58.8%	70.6%	143	65.9%	186	74.7%
有効回答者数	469	83.3%	100.0%	217	100.0%	249	100.0%
無回答・不明	94	16.7%		43		50	
合計	563	100.0%		260		299	

表 5-22 今後の自主活動への参加意向：安全管理（交通安全、防犯・防災など）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
今後は参加したい	118	22.4%	27.3%	57	29.8%	60	25.1%
今後も参加したいとは思わない	315	59.8%	72.7%	134	70.2%	179	74.9%
有効回答者数	433	82.2%	100.0%	191	100.0%	239	100.0%
無回答・不明	94	17.8%		38		54	
合計	527	100.0%		229		293	

表 5-23 今後の自主活動への参加意向：高齢者の支援（家事援助、移送など）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
今後は参加したい	113	18.4%	22.5%	56	23.9%	56	21.1%
今後も参加したいとは思わない	390	63.6%	77.5%	178	76.1%	210	78.9%
有効回答者数	503	82.1%	100.0%	234	100.0%	266	100.0%
無回答・不明	110	17.9%		51		59	
合計	613	100.0%		285		325	

表 5-24 今後の自主活動への参加意向：子育て支援（保育への手伝いなど）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
今後は参加したい	86	14.4%	17.6%	38	16.4%	47	18.4%
今後も参加したいとは思わない	404	67.4%	82.4%	194	83.6%	208	81.6%
有効回答者数	490	81.8%	100.0%	232	100.0%	255	100.0%
無回答・不明	109	18.2%		54		53	
合計	599	100.0%		286		308	

表 5-25 今後の自主活動への参加意向：地域行事（祭りなどの地域の催しの世話など）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
今後は参加したい	113	21.9%	26.3%	58	30.7%	54	22.7%
今後も参加したいとは思わない	317	61.6%	73.7%	131	69.3%	184	77.3%
有効回答者数	430	83.5%	100.0%	189	100.0%	238	100.0%
無回答・不明	85	16.5%		37		46	
合計	515	100.0%		226		284	

表 5-26 今後の自主活動への参加意向：その他

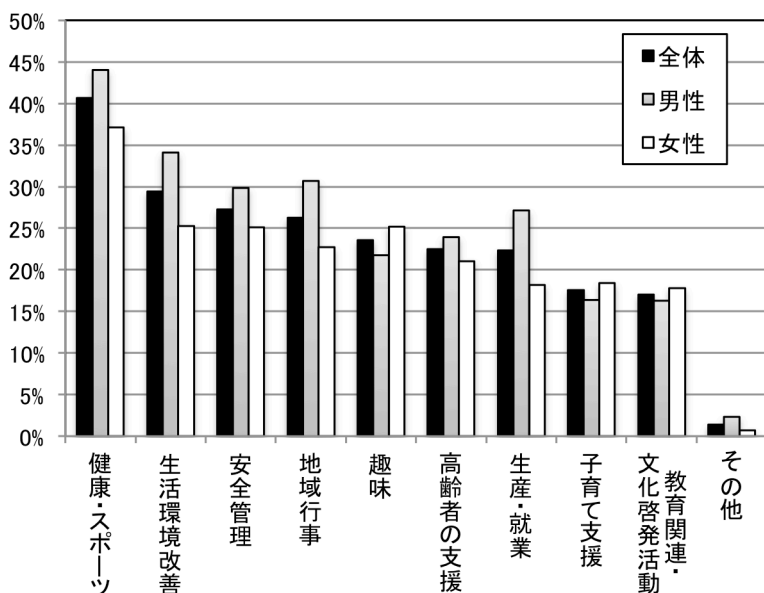
	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
今後は参加したい	11	1.4%	1.4%	8	2.3%	3	0.7%
今後も参加したいとは思わない	241	31.5%	31.5%	103	30.0%	136	32.9%
有効回答者数	764	100.0%	100.0%	343	100.0%	413	100.0%
無回答・不明	0	0.0%		0		0	
合計	764	100.0%		343		413	

表 5-17～5-26 を個別に見ていくと繁雑になるので、それぞれの活動に今後参加したいと回答した割合のみをまとめた表 5-27 を見ていくことにする。表 5-27 は、回答者全体で参加割合が高い活動から順に並べている。

表 5-27 今後の自主活動への参加意向（要約）

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
健康・スポーツ	152	34.8%	40.6%	81	44.0%	69	37.1%
有効回答者数	374	85.6%	100.0%	184	100.0%	186	100.0%
生活環境改善	138	24.5%	29.4%	74	34.1%	63	25.3%
有効回答者数	469	83.3%	100.0%	217	100.0%	249	100.0%
安全管理	118	22.4%	27.3%	57	29.8%	60	25.1%
有効回答者数	433	82.2%	100.0%	191	100.0%	239	100.0%
地域行事	113	21.9%	26.3%	58	30.7%	54	22.7%
有効回答者数	430	83.5%	100.0%	189	100.0%	238	100.0%
趣味	106	19.7%	23.6%	47	21.8%	58	25.2%
有効回答者数	449	83.5%	100.0%	216	100.0%	230	100.0%
高齢者の支援	113	18.4%	22.5%	56	23.9%	56	21.1%
有効回答者数	503	82.1%	100.0%	234	100.0%	266	100.0%
生産・就業	103	18.3%	22.3%	57	27.1%	45	18.2%
有効回答者数	461	82.0%	100.0%	210	100.0%	247	100.0%
子育て支援	86	14.4%	17.6%	38	16.4%	47	18.4%
有効回答者数	490	81.8%	100.0%	232	100.0%	255	100.0%
教育関連・文化啓発活動	82	13.8%	17.0%	36	16.3%	46	17.8%
有効回答者数	482	81.1%	100.0%	221	100.0%	258	100.0%
その他	11	1.4%	1.4%	8	2.3%	3	0.7%
有効回答者数	764	100.0%	100.0%	343	100.0%	413	100.0%

図 5-7 今後の自主活動への参加意向（要約）



全体を見ると、今後は参加したいという割合が最も高いのは、「健康・スポーツ」の40.6%であり、以下、「生活環境改善」29.4%、「安全管理」27.3%、「地域行事」26.3%、「趣味」23.6%、「高齢者の支援」22.5%、「生産・就業」22.3%、「子育て支援」17.6%、「教育関連・文化啓発活動」17.0%と続いている。「その他」も1.4%あった。

男女別に見ると、「生産・就業」（男性27.1%、女性18.2%）、「生活環境改善」（男性34.1%、女性25.3%）、「地域行事」（男性30.7%、女性22.7%）では、女性に比べて男性で8～9ポイント程度高くなっている。「健康・スポーツ」（男性44.0%、女性37.1%）も7ポイント程度、「安全管理」（男性29.8%、女性25.1%）も5ポイント程度男性が高くなっている。

6 戸田市において実施されているサービスの利用・認知状況

表 6-1～6-7 は、調査対象者 764 人に、戸田市が高齢者や高齢者のいる世帯を対象に行っているサービスの利用・認知状況について尋ねた結果を表している。

表 6-1 食事サービスの利用

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
利用している	2	0.3%	0.3%	1	0.3%	1	0.3%
利用していないが知っている	238	31.2%	32.9%	76	23.2%	162	41.6%
知らない	484	63.4%	66.9%	251	76.5%	226	58.1%
有効回答者数	724	94.8%	100.0%	328	100.0%	389	100.0%
無回答・不明	40	5.2%		15		24	
合計	764	100.0%		343		413	

※「食事サービス」……「買い物や調理などに支障をきたしている高齢者に、昼食（1食400円）の提供と安否確認を行い、在宅生活を支援します。」

「食事サービス」について「利用している」は0.3%であり、「利用していないが知っている」は32.9%、「知らない」が66.9%となっている。「利用していないが知っている」割合は、男性23.2%に比べて女性では41.6%と19ポイント程度高く、「知らない」割合は女性58.1%に対して男性では76.5%と19ポイント程度高くなっている。

表 6-2 日常生活用具給付の利用

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
利用している	3	0.4%	0.4%	0	0.0%	3	0.8%
利用していないが知っている	118	15.4%	16.5%	49	15.2%	68	17.8%
知らない	592	77.5%	83.0%	274	84.8%	311	81.4%
有効回答者数	713	93.3%	100.0%	323	100.0%	382	100.0%
無回答・不明	51	6.7%		20		31	
合計	764	100.0%		343		413	

※「日常生活用具給付」……「在宅で寝たきりやひとり暮らしになっている高齢者に、電磁調理器、火災警報器、自動消火器の日常生活用具を給付します。」

「日常生活用具給付」について「利用している」は0.4%であり、「利用していないが知っている」は16.5%、「知らない」は83.0%となっている。性別による顕著な違いは見られなかった。

表 6-3 緊急時連絡サービスの利用

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
利用している	2	0.3%	0.3%	0	0.0%	2	0.5%
利用していないが知っている	180	23.6%	25.1%	66	20.3%	113	29.4%
知らない	536	70.2%	74.7%	259	79.7%	270	70.1%
有効回答者数	718	94.0%	100.0%	325	100.0%	385	100.0%
無回答・不明	46	6.0%		18		28	
合計	764	100.0%		343		413	

※「緊急時連絡サービス」……「ひとり暮らしなどにより緊急時の連絡が不安な方に、緊急の時の発信ができる電話機と、ペンダント型発信機を貸与します。」

「緊急時連絡サービス」について「利用している」は0.3%、「利用していないが知っている」は25.1%、「知らない」は74.7%となっている。男女別に見ると、「利用していないが知っている」は、男性では20.3%にと女性29.4%と比べてと9ポイント程度低くなっており、「知らない」が男性では79.7%と女性70.1%に比べて10ポイント程度高くなっている。

表 6-4 生活援助活動員の派遣の利用

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
利用している	6	0.8%	0.8%	2	0.6%	4	1.0%
利用していないが知っている	228	29.8%	31.9%	85	26.5%	139	36.0%
知らない	481	63.0%	67.3%	234	72.9%	243	63.0%
有効回答者数	715	93.6%	100.0%	321	100.0%	386	100.0%
無回答・不明	49	6.4%		22		27	
合計	764	100.0%		343		413	

※「生活援助活動員の派遣」……「在宅で自立した生活を営むために、家事などの援助が必要な方で、介護保険制度の介護サービスが受けられない高齢者に対し、生活援助活動員を派遣します。」

「生活援助活動員の派遣」について「利用している」は0.8%、「利用していないが知っている」は31.9%、「知らない」は67.3%となっている。男女別に見ると、「利用していないが知っている」は、男性では26.5%にと女性36.0%と比べてと10ポイント程度低くなっており、「知らない」が男性では72.9%と女性63.0%に比べて10ポイント程度高くなっている。

表 6-5 高齢者世帯賃貸住宅家賃差額助成の利用

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
利用している	2	0.3%	0.3%	0	0.0%	2	0.5%
利用していないが知っている	82	10.7%	11.5%	37	11.6%	44	11.5%
知らない	628	82.2%	88.2%	283	88.4%	338	88.0%
有効回答者数	712	93.2%	100.0%	320	100.0%	384	100.0%
無回答・不明	52	6.8%		23		29	
合計	764	100.0%		343		413	

※「高齢者世帯賃貸住宅家賃差額助成の利用」……「民間の賃貸住宅に居住している高齢者の世帯が、居住を継続することが困難になったことにより別の住居に転居した場合、住み替えによって生じた家賃の差額を助成します。」

「高齢者世帯賃貸住宅家賃差額助成」について「利用している」は0.3%、「利用していないが知っている」は11.5%、「知らない」は88.2%となっている。性別による顕著な違いは見られなかった。

表 6-6 高齢者居室等整備資金融資の利用

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
利用している	3	0.4%	0.4%	3	0.9%	0	0.0%
利用していないが知っている	123	16.1%	17.3%	46	14.4%	76	19.9%
知らない	583	76.3%	82.2%	270	84.6%	306	80.1%
有効回答者数	709	92.8%	100.0%	319	100.0%	382	100.0%
無回答・不明	55	7.2%		24		31	
合計	764	100.0%		343		413	

※「高齢者居室等整備資金融資の利用」……「同居している高齢者の居室等の新築、改築、増築、改造、取得などを計画されている方に、資金を融資するとともに、利子補給も行います。」

「高齢者居室等整備資金融資」について「利用している」は0.4%、「利用していないが知っている」は17.3%、「知らない」は82.2%だった。「利用していないが知っている」は男性では14.4%と女性19.9%と比べると6

ポイント程度低くなっており、「知らない」は男性では84.6%と女性80.1%と男比べると性が5ポイント程度高くなっている。

表 6-7 民間賃貸住宅入居支援の利用

	全体			男性		女性	
	人数	%	有効%	人数	有効%	人数	有効%
利用している	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利用していないが知っている	94	12.3%	13.3%	44	13.8%	49	12.9%
知らない	612	80.1%	86.7%	274	86.2%	331	87.1%
有効回答者数	706	92.4%	100.0%	318	100.0%	380	100.0%
無回答・不明	58	7.6%		25		33	
合計	764	100.0%		343		413	

※「民間賃貸住宅入居支援の利用」……「連帯保証人がいないため民間の賃貸住宅に入居することが困難な高齢者に、民間の保障会社が債務保証し、入居が容易になるよう支援します。また、低所得者には債務保証料の一部を保障します。」

「民間賃貸住宅入居支援」について「利用している」は0.0%、「利用していないが知っている」は13.3%、「知らない」は86.7%となっている。性別による顕著な違いは見られなかった。

図 6-1 戸田市における高齢者サービスの認知度

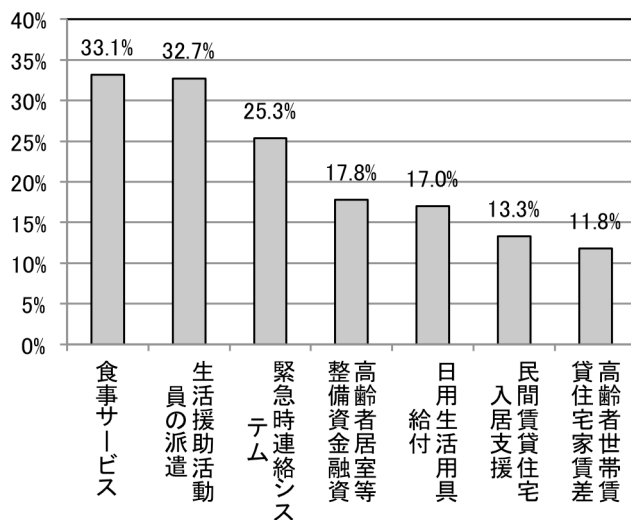


図 6-1 は、各サービスについて、「利用している」「利用していないが知っている」の割合を合わせて「認知度」として示したものである。

最も認知度が高いサービスは、「食事サービス」の33.1%であり、以下、「生活援助活動員の派遣」32.7%、「緊急時連絡システム」25.3%、「高齢者居室等整備資金融資」17.8%、「日常生活用具給付」17.0%、「民間賃貸住宅入居支援」13.3%、「高齢者世帯賃貸住宅家賃差額助成」11.8%となっている。

7 困りごと、心配ごと、意見（自由記述）

以下は、戸田市で暮らしていく上で、困っていることや心配ごと、意見について自由記述式で尋ねた結果について、居住地別にまとめたものである。

まとめるにあたって、「特になし」などのみの回答は省略した。個人が特定される可能性のある情報を伏せ字にするなどの処理、明らかな誤字の修正や句読点を適宜補うなど、読みやすくする処理は行っている。なお、〈内は、前後の文脈から言葉を補った箇所、□□は判読不能な文字を表している。

7-1 下戸田地区

下戸田地区・女性・60代後半

【1】夫の仕事がとても上手なのに仕事が全然ない。夫の年金月額約11万円+私の年金月額約2万円ではとても生活できない。住宅ローン9万/毎月。夫に仕事を紹介していただきたいと思います。宜しくお願いいたします。助けてください!!! (下戸田・女性・60代後半)

【2】地震等で荒川の反乱とか心配。救急の時、受け入れてくれる病院の少ないこと。(下戸田・女性・60代後半)

【3】年金生活なので、各種税金が上がらないようにお願いします。(下戸田・女性・60代後半)

【4】戸田市に住んで9年になります。前は***(隣接市)に住んでいましたので、お友達は***の方が多く、戸田市の情報も少なく、広報からの情報を楽しみにしています。(下戸田・女性・60代後半)

【5】私が住んでいる近くの家は、私と同じひとり暮らしです。ひとつちがうのはその方は生活保護です。りっぱな息子さんやお孫さんがよく来ています。車やオートバイ、いい車に乗っているのに、5日の日になると、息子さん孫さんが来ます。私は大変ながら生活しているのに悔しく思います。(下戸田・女性・60代後半)

【6】現在は困っていませんが将来的には心配があります。病気になり、身体が動かなくなったら、手持ちのマンション、貯金年金を利用し、公的なケア付住宅を望んでいます。これと同様、しっかり生きて行きたい。最後の生活(病気等)は役所をお願いすることになるかも知れない。(下戸田・女性・60代後半)

【7】今のところは特になし。小さなことだが、越してきた時より空気が悪くなってきた? 窓ガラスの汚れ(土ぼこり)が多くなった気がする! 車道沿いに緑樹を増やしてほしい。たっぷり! (下戸田・女性・60代後半)

【8】1人暮らしですが、娘の家族がすぐ近くに住んでいるので、お互い助け合って暮らしています。戸田市は東京にも近く便利で住み安いと感じていますが、防犯について不安を感じています。(下戸田・女性・60代後半)

【9】首都圏に隣接し、交通の便も良く住みやすいし、若い世代が多く、65才以上が人口の1割と聞き、大変驚き、うれしく思います。将来が安心できるし、良い市であると思います。只、介護や特養ホームに入居できるか等、不安材料はあります。(下戸田・女性・60代後半)

【10】介護を受けられる公的特別養護老人ホームなどの施設を増設してほしい。入りたくても中々入れない状態だと聞いているので。(下戸田・女性・60代後半)

【11】町会(自治体)の活動が、地区によってさまざま、**町会は、マンネリ化していて進歩がない。新しい風が入るべき。隣の町会が、うらやましく思う。(下戸田・女性・60代後半)

【12】様々な活動に主人がほとんど参加して協力しています(町会役員、壮年会役員)。家のことは殆ど私一人でこなしています。今は動けますが、息子は仕事が忙しく、殆ど頼れません。昔のように主人のサラリーマンの頃のように昇給(一般会社)があれば良いのですが。今の息子の会社のようなでしたら、家の改築も望めません。夫が先に倒れたり、亡くなれば私一人では固定資産税も払っていかれない状態になると思います。(下戸田・女性・60代後半)

【13】全く収入がなくなった時、生活が心配。健康を害した時。(下戸田・女性・60代後半)

【14】特にありません。配偶者が亡くなり、一人暮らしになったら、また返答が変わりますけど...。今は満足した毎日です。(下戸田・女性・60代後半)

【15】現在70才ひとり暮らし。国民年金、パート収入で生活していますが、いつまで続けられるのか心配です。(下戸田・女性・60代後半)

【16】戸田市は住みやすい整備されたきれいな町だと思います。(下戸田・女性・60代後半)

【17】 戸田市の情報が少ない（誰も教えてくれない）。（下戸田・女性・60代後半）
【18】 戸田市はのんびりして住みやすい。交通の便も良いので今のところ満足しています（下戸田・女性・60代後半）
【19】 いつもお世話様になります。現在主人は療養病院に5年程入院しています。今後の事、施設など、介護課に相談しても「自分で探してください」と言われがっかりします。話を聞いてくださるだけでもうれしいのです。甘えでしょうか。（下戸田・女性・60代後半）
【20】 子供は2人共遠くに住み（1人は海外）、1人生活が困難になったとき入居できる、能力に見合った入居施設（グループホーム等）が足りないと思う。何人かが集まると死後の墓のことが話題となる。「〇〇家の先祖代々の墓」はあと継ぎがない等、時代がついていかないと思われる。公共の墓地等があったらいいなと思う。下戸田地区は荒川に近く、土手が決壊しそうになったらどこにも逃げ道がない。高齢者は死ぬしかない?...。地盤の低い土地なので、公共の防災拠点がないため、不安です。（下戸田・女性・60代後半）
【21】 家賃が高いため不安である。介護方面の仕事の時、生活保護<を受けている人>の世話をしていましたが、本人は「生活は市がみてくれるから、月15万円位支援受けていると半年で50万貯め<ることができ>た」<と>私達介護人に得意になって言っている。何もかも24時間中TELがかかってきたり、我がままである。生活保護の方々は何を思っているのか。簡単に申請すればすぐもらえらると思っている。貯金を0にすればいろいろな方法があるとっています。（下戸田・女性・60代後半）
【22】 市役所まで出掛けるのにバスの便が、とても不便で困っています。直接行かれる様に手配をお願いします。（下戸田・女性・60代後半）
【23】 問36を私はすべて知りませんでした（私だけでしょうか）。今のところ、幸いなことに必要がないのですが、高齢者にとって知っていれば不必要に心配することも少なくなるのではないのでしょうか？（下戸田・女性・60代後半）
【24】 今は元気で生活出来ておりますが、今後の為にいろいろなサービス等を知り、勉強になり、ありがとうございました。（下戸田・女性・60代後半）
【25】 在宅看護生活の中で福祉の助けに感謝しつつ生活しております。ありがとうございます。（下戸田・女性・60代後半）

下戸田地区・女性・70代前半

【26】 運動をするスポーツセンターがない。憩い合う場がない。（下戸田・女性・70代前半）
【27】 親の面倒を見るのが、精神的、肉体的に、しんどいです。デイサービスを利用していますが（週3日）、たまに弁当等利用してくれるといいのですがイヤがります。ショートステイもおかずがマズイと言って、行ってくれません。わがままで気が強く、ホームヘルパーさんも困っています。私は何回も開腹手術してますので、これからの自分の人生も考えたいと思っています。このままの生活で、自分の人生の終りにこれでよかったと思えるか。どうしたらよいかわかりません。自分の心の持ち方、考え方次第だとは思いますが...。（下戸田・女性・70代前半）
【28】 **歳（90歳代）の母かかえ、全て介助。自分もクリニック通いで、その日の事で余計な事を考える余裕はありません。自分も老人です。痛いのも母の世話で自分の時間ないです。ゆっくり外出等、一切できません。生きてくのがやっとです。（下戸田・女性・70代前半）
【29】 私は**才（70歳代前半）です。生まれた時から**（関節の疾患）です。10代の時手術する。20代で結婚と同時に戸田で生活。公園に入居の時歩き方を見て、手帳持っていますかと聞かれ、持っていると言ったら便利ですよと教えてもらう。30代の時、戸田の福祉課で手帳もらい年金の話はしない。60代の時、2級になり、係の人が年金もらえますよと年金課に行く。でも年金課の人は脱白の人はもらえません。ひどくダメおわり。理由、64才過ぎ。最近になって近くの人に年金もらっているのと聞かれいいえ答えると、手帳をもらった時手続きしてくれるのが役所の人ですよと教えてくれました。教えてくれた人は、主人が障害年金をもらい、そのお金で生活していますよと申ししていました。手帳もらった時、全部役所人がやってくれたそうです。今の年金は月6万です。今、外出は車イス。家の中は歩けないのはっています。赤ちゃみたい。ハイハイです。（下戸田・女性・70代前半）

<p>【30】現在アパートに住んでいますが、体の不自由のためとても、部屋が使いづらいため、バリアフリーで、戸田市の県営、市営住宅に入りたいと思っています。（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【31】トコバスについて、一方通行だけですが反対まわりも運行してもらいたい。（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【32】とにかく高齢者が安心して生活できる環境と、低価格で安心して介護を受けられるような制度が必要ではないでしょうか。介護入所費用がとても高額だということを聞いておりますが心配でなりません。（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【33】津波などで水害が起きた場合、戸田市内は高台がない為、どこに避難したら良いか決らないのと、学校の体育館では低いし安心な場所を作してほしい。（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【34】戸田に生まれ育ち現在に到っています。この町から一步も外へ住んだことはありません。人口がやたらに増えて暑苦しさを感じています。自然と感じられるものがなくなりました。寂しい限りです。（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【35】主人、祖母を10数年前に亡くし、その後これからどう生きてゆこうかと思った。ボランティアセミナーを知り、いろいろなことを知り、いろんなことをさせて頂きました。が、、、3年位前に難病を宣告され、今は訪問リハビリを受けながらの生活となり、とてもつらい思いをしています。病気一つせず元気だけがとりえでした。生きてゆかってとても大変で悲しいです。ただ二世帯住宅での生活ですが、車イスの生活にはなりたくないと、毎日ガンバッテできるだけ自分のことは自分でするようにしています。（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【36】これからもよろしく願います。（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【37】市の養老院のような施設があれば、老後が安心して暮らせると思います。一人で生活していると不安で、どうして市に養老院がないのでしょうか？ 今後、誰でもたやすく入居できるように検討してほしいです。私立の施設ではどうも高いため入居できません。（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【38】はっきりとした病名もなく、体力の衰えで自立生活ができなくなった時、公的介護施設は数の面でとても頼れそうもなく、民営は予算のことで無理。（二人で一人前）考えただけで長生きが怖いです。問36があったということは、知りませんでした。このサービスを充実させ、周知に力を入れてください。（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【39】共同住宅の1階部分に居住しております。大型マンション（約500世帯）なれど、水害のことが気になります。あいにく近くに住む息子宅、娘宅もすべてマンションで、1～2F住まいで戸田市の地面対策がとても気になります。近くに数百人が水害を逃れる位の設備があったらと思います。1～3日間市民全体の人々が水害の難を防げるような設備を急いで考えてほしいと願っております。今後の新曽地区、市役所などを考えてほしい。そして公民館、私の近くに社協等の建物に設備附加を考えてほしいです。**近くに大きな設備をと今お願いしていると耳にしておりますがどうなのでしょう？（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【40】膝関節を痛めており、バスを利用することが多いです。トコバスや国際興業の割引券があると嬉しいです。（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【41】高齢者が入居出来る施設を（希望する方達が）。（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【42】17号道路の側で空気は汚いし、消防署が近くうるさいので、一時引越すことを考えましたが、郵便局、銀行、スーパー、病院、公民館が徒歩数分以内の便利さは手放せません。消防署の音も慣れ、今後耳が遠くなると増々気にならなくなるでしょう。住み始めて35年の間に緑も多くなり、都心への足も便利になって色々住みやすくなりました。100歳前の母を引き取り老老介護の日々ですがデイサービス等を利用し助かっています。今後自分達も何とかなると、余りくよくよ思わないことにしています。ご苦労さまです。ありがとうございます。よろしく願ひ致します。（下戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【43】戸田市は歩道も綺麗になりましたが、同じ所をまたかと思うほどボーリングをしていました。それなら電柱を地下に思うことがあります。歩道に電柱があるので、幅が狭くなります。もし、その考えで予定しているのであれば、こんな意見ごめんなさい。他市よりより戸田市役所職員の皆さんは、ずーと若いので、戸田市はこれをやるぞーと、そんな活気を出してください。敬老会のことですが、行っても面白くないという意見が多く、コインを2枚から3枚の方がずーと嬉しい。本音です。（下戸田・女性・70代前半）</p>

下戸田地区・男性・60代後半

- 【44】国民年金の払込み期間が、70ヶ月足りず、今後失職したら収入もなくなり生活できません。そうなったら死ぬしかないと思います。間もなくその時を迎えそうです。(下戸田・男性・60代後半)
- 【45】金銭的なこともあり、今のマンションから、できれば市営住宅に入りたいが、相談する所が分かりません。(下戸田・男性・60代後半)
- 【46】収入が減って、税金や国保、介護保険税など支払いできなくなってしまった時、税の低減ができなく、行政が財産の差し押さえをしたりしている。現状を聞くと不安がいっぱいです。(下戸田・男性・60代後半)
- 【47】戸田市での暮らしには満足しています。(下戸田・男性・60代後半)
- 【48】戸田市でないが、将来の日本について。将来の希望はなく、危機感だけである。私は年金暮らしですが生活するには足りない。現在の日本の政府はアメリカの傀儡による財界指導下の官僚独裁政治。一般民衆は生活費を得るための職場はなく、貧困の状況下に置かれている。一方大企業には金融緩和で多額の公的資金が流れている。金融機関は莫大な資金でマネーゲームを行い、製造業は工場を海外に移している。海外に於いて損益が出た場合、貿易保険等で手厚く(財界に対して)保護されている。◎官僚独裁政治。原発推進、オスプレイ日本国に配備(日本側に全て維持、管理費用を出してアメリカの軍事費の削減を行う)。日本国民に負担を負わす。(増税を行い、官僚自身の保身を計り福利厚生に充てる。)日本は世界の借金国、日本の製品が売れない中で...日本の国益を考える政治家はない。(下戸田・男性・60代後半)
- 【49】経済的や健康にも恵まれ、家族も皆やさしく協力して下さり、今何か用事があって出掛けようとしても車の運転もできますし、**会員にてよく旅行も行けるし、幸せな毎日で困っていることは何一つありません。娘が良く言っていることの中に、子供手当、無条件に早く手をうってほしいと言っています。隣の蕨市に見習ってほしいそうです。病院に行っても手続きが面倒だそうです。以上。(下戸田・男性・60代後半)
- 【50】市内循環バスを現在の1時間2本から、せめて3本に増やして欲しい。(下戸田・男性・60代後半)
- 【51】問36 戸田市において実施されるサービスについて、現在はサービスを受けていないが将来受ける時が来るかもしれません。「そういうことが必要になるかも」と思う時、心強いです。(下戸田・男性・60代後半)
- 【52】現在のところ住み良い町と思います。公的介護施設がもっとあればと希望します。(下戸田・男性・60代後半)
- 【53】保険、税金。(下戸田・男性・60代後半)
- 【54】私は**から戸田公園駅まで自転車通勤をしておりますが、道路が狭い上に自動車量が多く、何時も危険と隣り合わせになっております。現在の自動車の制限速度を40kmから30kmに制限してほしい。歩道に歩行者がいけない場合、歩道を通ることにしておりますが、車道と歩道に段差がありスムーズに入出入りすることができません。自転車の出入りをスムーズに行う為に自転車の出入可能な間隔幅を作り、段差を無くしてほしい。(下戸田・男性・60代後半)
- 【55】現在、痴呆症の義母と生活しています。冠婚葬祭、または旅行など一時的に預かって下さる設備施設が近くに、簡単に入所出来ること。(下戸田・男性・60代後半)
- 【56】底地のため水害(浸水)に弱い所。(下戸田・男性・60代後半)
- 【57】今3階なので、高くてもいいから1階の所に住みたいです。(下戸田・男性・60代後半)

下戸田地区・男性・70代前半

- 【58】この頃いやに心配なことは、菖蒲川の水位がやたらと気になる(体のことより)。最近やたらとあちこちでゲリラ豪雨があり、氾濫のニュースを耳にするたび、自分の家も水没するのではと心配が耐えません。戸田市全体が地盤が沈下したのではと思いがちになります。(下戸田・男性・70代前半)
- 【59】下戸田で仕事をしているが、人間関係(上司)で悩んでいる。胃潰瘍〜うつ病で**病院に数年通院している。全てにおいて人間差別がある。□□者、ストレスがたまりすぎ。生きているのがとてもつらい。(下戸田・男性・70代前半)
- 【60】バスの便は悪いが、住みやすい。市役所は頼りになってくれるし、今後も信頼している。(下戸田・男性・70代前半)

【61】今のところ心配ごとなし。あと何年したら？ 不安。（下戸田・男性・70代前半）
【62】防災戸田放送は大変ありがたいが音声？ 拡声器？ どちらかわからないが非常に聞き取りにくい。一考願いたい。（下戸田・男性・70代前半）
【63】市営住宅に入居をやすくして下さい。（下戸田・男性・70代前半）
【64】私は今70代前半ですが生活一般は自分でやっておりますが、数年後には何かに不自由な面も出てくるかと思えます。その時の心構えとして色々なサービスのあり方、或は高齢者への生活指導、心のケアなどが充実してほしいと思っております。（下戸田・男性・70代前半）
【65】9月のリズム体操の発表会が文化会館でありました。行きはタクシーにて会場へ。帰りが困った。北戸田発→西川口行きが1時間に1本。丁度バスが出た後で次はトコバスと思ったが、バス停が今度は見つからず、とても暑い日だったので困った。結局は下前行きで途中から歩いて帰ってきました。遠い遠い文化会館でした。今度は新年会があるけど欠席です。トコバスも1時間1本でいいので以前のルートに戻して下さい。（下戸田・男性・70代前半）
【66】交通網の整備（特にバス路線）。戸田公園、戸田、北戸田駅へスムーズに行けるよう。現在はぐるぐる回らないと行けない。（下戸田・男性・70代前半）

下戸田地区・男性・年齢無回答

【67】市の介護老人保健施設が少ない。市営の墓地はあるのでしょうか。（下戸田・男性・無回答）
--

7-2 笹目地区

笹目地区・女性・60代後半

【68】市営の団地に入居する方をもっとしっかり調べて。もっと大変な方がいるのに。見ている限り、入居するほど大変でない方が入っているように見えます。収入が多くなると子供等を外に追い出して、自分達だけで生活して大変そうに装っている方もみうけられます。（笹目・女性・60代後半）
【69】身体が動けなくなった場合（家ででの生活が無理）、老人ホームが足りないため100人～200人待っているとの話しを聞くので、将来がすごく不安です。そのことが悩みです。（笹目・女性・60代後半）
【70】介護が必要になった時、公的な施設が少なく、利用できない状態になると経済的に大変。子供には介護を頼めないから。友達も家庭があり年々老いている状態で、以前より頼みづらくなっている。若者の雇用、生活など元気になるような方になってほしい。消費税が上がった時に年金生活者にはどのような対策になるのか、今一番知りたいです。経済的に相当つらくなると思うので。（笹目・女性・60代後半）
【71】現在の所在地は台風、大雨等の時期は水がすぐ床下や床上まで上がるので心配事が絶えません。一日も早く排水路の強化を進め、心配のない日常が過ごせることを願うだけです。（笹目・女性・60代後半）
【72】今の所差し迫ったこともないので、病院に掛ってないので、緊急時に受け入れて貰える所があるか心配です。（笹目・女性・60代後半）
【73】市営住宅をもっと建てて欲しいです。65歳以上の人を優先的に入れるようにして欲しいです。（笹目・女性・60代後半）
【74】笹目地区に住んでいますが、市役所からの連絡（公園についているスピーカー）が何を言っているのか聞きとりにくいです。駅に出るのにバスが少ない。（笹目・女性・60代後半）
【75】戸田市は介護保険料が高額すぎる。年金から引かれることにも腹が立つ。年金から引かれることについて、10月から住民税も引かれることにも腹が立つ。年寄りには早く死ぬということか。年金で生活している。市議会議員の人数を減らせ。高齢者からしぼり取りたいのか。不安ではない。（笹目・女性・60代後半）
【76】生まれた土地に住んでいる安心感、友人・同級生・知人も多く幸せを感じています。今はまだ心配はしていませんが、体の具合が悪くなったとき、入院費用や介護のお金になります。昨年、90代の母を送りましたが、なんといいってもお金次第で、2人のきょうだいと私で金銭的に大変でした。安く、面倒をみってくれる所がないですね。私は年金7万円ちょっと。保険料も引かれると2ヶ月で7万円弱です。生きて行かれるか気になっている。（笹目・女性・60代後半）

- 【77】下笹目折り返しバス停から北大通り、市役所や文化会館、循環バスを通してほしい。コミュニティバス、反時計回りのコースも必要。バイパス以西にコミュニティ広場（飯食のできる）がほしい。（笹目・女性・60代後半）
- 【78】どちらかが亡くなった時、暮地を持っていないのでどうしたらいいのか心配です。（笹目・女性・60代後半）
- 【79】*****〈ほほえみの郷に〉行く時はトコバスの西循環で目の前で降りれますが帰りに戸田駅から芦や西川口に行く時、駅まで歩いていかないそうです。又、福祉センターに赤ちゃんを連れて戸田公園から乗る方が、帰りに戸田駅まで歩いて電車で戸田公園へ行くので大変と聞きました。戸田駅前までは無理でしょうが近くの道路で下車させて頂くトコのバス停をぜひひび望みます。（笹目・女性・60代後半）
- 【80】近隣の事業所の騒音（駐車中のエンジン音、ホークリフトの音等）。（笹目・女性・60代後半）
- 【81】今、息子夫婦、孫達と住んでいて家事をしておりますので、あまり考えたことはありません。でも戸田市を信用しています。（笹目・女性・60代後半）
- 【82】中央総合病院は何時いっても時間がかかり、駐車料金がかりとっても行きにくい。駐車場のある市民病院をぜひ作ってほしい。コミュニティバスですが、バイパスの西側は不便な地域なので、1時間に2〜3本運行してほしい。又、朝夕をもう少し早い運行、晩はもう少し遅くまで走ってほしい。（笹目・女性・60代後半）
- 【83】笹目地区ですが、駅まで行くトコバスが1時間に1本必ずありますが、帰りの谷口行きのバスを1時間に1本出してください。とても不便です。（笹目・女性・60代後半）

笹目地区・女性・70代前半

- 【84】自宅に引きこもることのないよう外出を心掛けていますが、交通費がかかることです。東京や大阪などにはシルバーバスがありますが、埼玉県戸田市には無いのが不満です。今は**（民営）のバスで年間4万円くらい工面するのが大変です。（笹目・女性・70代前半）
- 【85】東京と橋一つ隔てたところなので交通量が多く、自転車もまだまだ交通規則を守らない人がいて、危険が一杯です。歩道の整備の充実をお願いします。（笹目・女性・70代前半）
- 【86】現在のところ、質問に答えた通りで、特に困っていることもなく、夫婦2人どうにか生活しております。この先もできるだけ自力で頑張りたいと思っております。でも、いずれいろいろな面で、お世話になる時が来ると思います。よろしくお願い致します。（笹目・女性・70代前半）
- 【87】この先自分はどうなってゆくのか？先の展望が描けない非常に不安だ。もっと積極的に同年代の友達と交流出来たらと思うが、価値観が共有できなければかえってストレスを積み重ねるだけではないかと思うと、二の足を踏んでしまう。人間はつくづく孤独だと思う。（笹目・女性・70代前半）
- 【88】トコバスですが反対回りは無理でしょうか。医療センターですがもう少し「科」がほしいですね（耳・皮・眼科など）。医療センターで患者が先生に怒られてることがありました。*****いつ病気になるかわかりませんし、これからは自然災害もありますので、皆さんで支えあっていきたいと思えます。戸田市が今以上に住よい町になりますように（笹目・女性・70代前半）
- 【89】特別養護老人ホームをもっと作ってください。体が不自由になった時、困ります。交通の便がよくありません。せめてトコバスの逆周りをお願いします。（笹目・女性・70代前半）
- 【90】返答おそくなりました。戸田市が大好きです。年齢を問わずみんなに親切的な街だと思います。いろいろ不便なところもありますが、戸田市に引っ越してきて良かったと思っています。（笹目・女性・70代前半）
- 【91】バスで病院に通っていますが、回数券（割引）など、70才以上の市民に実施して頂くと助かります。（笹目・女性・70代前半）
- 【92】二人とも老齢になり、子供もなく、貯金も少なくなる一方。市営住宅に入りたいと思い、応募しているが落選ばかり。主人の仕事も少なく、私はシルバーセンターに入っていますが、仕事を貰えたことはありません。（笹目・女性・70代前半）
- 【93】心配事はたくさんありますが、一つ一つ解決する以外ないと考えています。（笹目・女性・70代前半）
- 【94】現在は原付で用事や買い物はやっていますが、これからは老いてくるので心配です。（笹目・女性・70代前半）

【95】今は徒歩、自転車での移動が出来ているからいいけど、できなくなっても家族にお願いできると思うので不安はない。でも、いざできなくなったらと思うことがある。孫も大きくなって来て、当てにできるとは思っている。(笹目・女性・70代前半)

【96】これから先、1人になった時、年金では生活できず戸田市の施設に入居できるか心配です。(笹目・女性・70代前半)

【97】トコバスの回数が少なすぎる(笹目・女性・70代前半)

笹目地区・男性・60代後半

【98】税金が高い。(笹目・男性・60代後半)

【99】たばこのポイステ。道の犬猫のふんに困っている。ごみのポイステ。(笹目・男性・60代後半)

【100】交通が不便で、東京など諸用で出かける時、バスの便が悪く本数が少ないので困る。バス停まで遠い。緊急放送がよく聞き取れない。「ごみ0」や「防災訓練」の時は家の外に出ても良く分からない。本当の災害の時は役立たない。以前から言っている。(笹目・男性・60代後半)

【101】現在同居していますが、年金のみの収入になった時に安い住宅に入居しなければならない。その時の市営住居等の心配。(笹目・男性・60代後半)

【102】税金が高い、健康保険等。(笹目・男性・60代後半)

【103】老人世帯になった時、固定資産税などの税金が払えなくなるような気がします。年金の減額、物価の値上げなどによるが、節約にも限度があるような気がします。あくまでも5年や10年先の話です。(笹目・男性・60代後半)

【104】今の収入(仕送り)が途絶えた時。(笹目・男性・60代後半)

【105】災害避難場所について。(1)荒川(左岸南部)水循環センター上部、水栓蓋などの強度はいかなる災害に対応出来る構築物ですか。(2)外環上部、大宮バイパス上部高速道を緊急避難場所に出来ませんか。(笹目・男性・60代後半)

笹目地区・男性・70代前半

【106】駅、バス停、日常の買い物のお店が近くにない。もっと高齢になり、足、腰が弱ったとき不安。(笹目・男性・70代前半)

【107】戸田市には市営住宅が少ないと思う(笹目・男性・70代前半)

【108】隣の家にガラスを割って泥棒が入った。怖くて眠れない。(笹目・男性・70代前半)

【109】道路上に自動車の駐車が多く、道幅が狭く(特にトラック)、又、車道と歩道の区別がありませんので、道を歩いているとき車とのすれちがいに危険を感じることがあります。路上駐車に対して取り締りをしていただければ助かります。(笹目・男性・70代前半)

【110】神保市長さん。住宅地の公道の速度制限30km、厳しくして下さい。又、貨物自動車の時間制限...戸田市より国政に提案して下さい。笹目2丁目道路より。市議員さんはあてにならない。(笹目・男性・70代前半)

7-3 上戸田地区

上戸田地区・女性・60代後半

【111】今住んでいる所は家賃が高いので、市営住宅に家族4人で住みたいです。主人は年金もないし、働く所もないので今生活が大変です。(上戸田・女性・60代後半)

【112】自転車の取り締まりは良いことですが、道路の整備を市役所の周辺だけではなく、他の所も考えてほしいです(特に古い道路)。(上戸田・女性・60代後半)

<p>【113】東京都から戸田市に転入したのですが、利便性と環境の良さ、市民を大切にしている行政を行っているので、住み易いと思っています。食事、体調管理に気を付けて、人の心を分かってあげられるような生き方をしようと思います。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【115】あらゆる面で便利で生活しやすいので満足しています。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【116】今は歩いて市役所なども行けますが、遠出が出来なくなった時に、行きはトコバスで助かりますが、帰りなどはやはりバスがあったら良いと思います。また、図書館なども不便に感じます。〈調査について〉それから収入の金額は聞いているが返済金額の有無を聞かないのはなぜですか？ローンなどが残っている人もいます。その他の人もいます。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【117】戸田市は住みよい市ですので、自分が、健康で少しでも人の役に立ち、自分の楽しみがあるということに有難いと思います。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【118】戸田市は暮らしやすいところだと思います。我が家は自営業で仕事が厳しく今は大変ですが、経済の問題以外は心配はありません。景気が良くなることを望むのみです。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【119】現在は健康で趣味、ボランティア、体操とかを活動しています。今後自分の心身がどのように変化していくのか心配していますが、もし自分のことができなくなった場合、とても施設には入れません。なぜかという利用料金が高額です。低所得者、年金生活者には手が届きません。安い料金で入所できるような施設ができればよいと思います。是非考えてください。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【120】買物、外出等には必ずトコバスを利用しています。トコバスとってもありがたいのですが、高齢の人々は腰、ひざ等悪い為、バスのステップが高くて仕方ないです。ベンチもほしいです。困っています（アンケートには関係ないですが！！）。一応調査の答は記しました。ご苦労様です。宜しくお願いします。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【121】戸田市に住んで長いので、このまま住み続けて行きたいので、高齢者が安心していられる住宅を作って欲しい。今現在の生活で、毎日が終わってしまう。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【122】介護保険料が高すぎる！（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【123】今現在、公的特別養護老人ホームの数が不足している。待っている人多い。療養病床の廃止、削減されつつあっても現状において転換遅れ、医療体制が遅れている。要介護認定されてもデイケア、ヘルパーの使用回数を決められてしまい、その人に必要な介護が受けられるか、希望しても受けられるのか不安です。利用しやすい制度を希望します。老人が多くなりもっと充実して欲しいものです。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【124】国民年金で入れる老人ホームを作って下さい。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【125】私の夫は定年後ガンを患っています。今、**ガンが進行中ですが、体力がない為手術が出来ません。表面は元気にデイケアに通所しておりますが、いつ寝込んでもおかしくない状況です。このまま治療を続けていけば、お墓を買うために預金したお金もなくなるでしょう。戸田市にはたくさんのお寺がありますが、公共の霊園はないのでしょうか。公共の墓地等を作って欲しいです。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【126】市民病院ができたらいと思う。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【127】戸田駅周辺の舗道が狭く、人のすれ違いも気をつけないとぶつかり、危険を感じる。無灯火、黒い車体、黒い服装の自転車が夜、道路を横切り、車に乗っていてドキっとすることが多い。もっと、取り締まりをして欲しい。（上戸田・女性・60代後半）</p>
<p>【128】戸田市の高齢者に対するサービスについて（最後のページ）色々なサービスを受け入れられることを知りませんでした。これから何かで利用させて頂く機会もあるかもわからないので覚えておくべきだと思いました。（上戸田・女性・60代後半）</p>

上戸田地区・女性・70代前半

<p>【129】地震や風水害が多発している最近、荒川土手の決壊と広報にも載っていた。戸田市全体が水びたしとなることへの対策は充分されているのか？ここを「終のすみか」にしたいと思っているので（上戸田・女性・70代前半）</p>
<p>【130】賃貸マンションに入居しているのですが、近所付き合いがほとんどなく、色々心配はある。例えば地震の時などとても怖い思いをしました。（上戸田・女性・70代前半）</p>

【131】今のところ健康なので経済的にも困ってないが、介護が必要になった時、経済面に心配。介護が受けられる公的な特別老人ホームなどの施設が多数あって、入居できるように希望します（低額料金で!）。（上戸田・女性・70代前半）

【132】水害に弱いこと（雨が降る度にヒヤヒヤ、ドキドキ）。人が自然に集まる様な大きな公園がほしい（木々の木陰）。（上戸田・女性・70代前半）

【133】問36のサービスについて何も知りませんでした。どうしてでしょう？（上戸田・女性・70代前半）

【134】今の現在は空き家が多い。周りの掃除。草取りして欲しい。（上戸田・女性・70代前半）

【135】今は健康だがこの先のことは分かりません。病気になったらとか、車椅子の生活になったらとか心配するようになりました。いつかは介護を受けることになったら、ホームに入らず自分の家でと思っていますが。（上戸田・女性・70代前半）

【136】よく散歩をしますが、道路、歩道、水路とても汚い!! 整備を進め、美しい町にしていきたいと願っています。（上戸田・女性・70代前半）

上戸田地区・男性・60代後半

【137】役所が発信する放送が、家の中にいると聞こえない。公園が小さく緑が少ない地域がある。公園でキャッチボールやサッカーボールを蹴る場所がなく、子供とのふれあいが少なくなった。（上戸田・男性・60代後半）

【138】戸田公園駅東口の駅前を早く整備し、イメージを明るくしてもらいたい。（上戸田・男性・60代後半）

【139】生活保護支援で現状検査が甘いのでは。市営住宅入居で市議会議員の圧力で入居している人がいるときいた。本当か。（上戸田・男性・60代後半）

【140】収入がなくなってからの家賃が払えるか不安。（上戸田・男性・60代後半）

【141】戸田公園北側駅前の整備化。南側と比べ、バス停駅前公園化が遅れているのではないか。（上戸田・男性・60代後半）

【142】景気が悪いです（上戸田・男性・60代後半）

【143】住み易い町であると感じていますが、行ってみよう～と言う場所がない。活気が少ないと感じている。（上戸田・男性・60代後半）

上戸田地区・男性・70代前半

【144】周りが倉庫で、朝、道路に自動車が多く止まる為歩きにくい。（上戸田・男性・70代前半）

【145】戸田市には大変ありがとうございます。（上戸田・男性・70代前半）

【146】気配りいただき、ありがとうございます。（上戸田・男性・70代前半）

【147】現在の暮らしは大変苦しい毎日で、私は病気がちで仕事も今はすることもできず、毎日の生活費は**（親戚）の給料の残り、現在住宅ローン毎月15万円は**に支払ってもらっています。**の給料は毎月20万円前後ですが、会社からの借金もあり、返済した残りの分で生活しております。電気・水道<代>も絶えず遅れ、止められることも度々。市の税金も全く支払いもできず、大変ご迷惑をかけ心苦しく思います。年々、年老いて行くことを考えるとこの先思い悩みます。（上戸田・男性・70代前半）

【148】高齢者に対する情報が欲しいです。バリアフリー対策とは何か？ 問36について、項目の対象の高齢者にもう少し具体的な説明が欲しい（内容不足）。（上戸田・男性・70代前半）

【149】年金の切下げなどによる家のローン返済、生活費等。（上戸田・男性・70代前半）

【150】市内に高校が少ない！ 市立病院、消防署、警察署がなく生活が不安！ 税金の割に戸田市の核がない！ 通勤変更が不便（通勤快速が多い）（上戸田・男性・70代前半）

【151】現在まで会社勤務の為、諸行事等には参加していません。退職後は何か役〇事をしたいと思っていますが。（上戸田・男性・70代前半）

【152】東京都のように（小平）、樹林墓地があるといいと思います。ぜひ作って下さい。（上戸田・男性・70代前半）

7-4 新曽地区

新曽地区・女性・60代後半

- 【153】今はまだ元気で自分のこと、家族のことができ、好きなこともやっているので満足しています。ただ今後の老後を考えると病院医療費等不安があります。市の病院が欲しいですね。（新曽・女性・60代後半）
- 【154】戸田市も市立病院が有ると良いと思います。毎日歩く様にしていますが、所どころにイスがありますと助かります。早く区画整理が進んで住みやすくしてほしいです。毎日工事屋さんでうるさくて、ゆれてたまりません。（新曽・女性・60代後半）
- 【155】区画整理計画区域に住んでいます。区画整理が進まず、家に手を入れることができません。理想とする生活設計で（自分達の）進んできたのですが、この先どうすることもできません。せめて時期だけでも知りたいと思います。この先の年齢で建て替えができるのか、又、介護付老人ホームを選ぶのか。年齢が進めば進む程、難しい問題が出てきます。又、いろいろな面倒なことができなくなってくることも、困ることの1つです。こんなことが大きなストレスの原因にもなっています。（新曽・女性・60代後半）
- 【156】これからも、元気で過ごせるように頑張ります。この用紙の中で、答えようのないことも分かり、色々なことに目をむけたいと感じました。（新曽・女性・60代後半）
- 【157】道をはさんで10数階建てのマンションがあります。ビル風がものすごく、35cm以上の瀬戸物の鉢も風で飛ばされ、割れるほどです。玄関も風の強い時は、65才の頃でさえ引くのがせいっぱいです。もう少しすると私の力では支えきれないと思います。力ではよほどの男の人よりあると思います（中学生の頃より畑、田んぼ力仕事をさせられたものですから）。でももう何年かで無理になると思います。リビングに外からのカギをつける様になると思います。風の強い時は玄関のカギをあけて、足でドアを支えて中に入るという、これから北風が吹くようになると、人を見るとあの人あんなかっこうでバカじゃないのと思っているかもしれません。でも事実です。これにはほんとうに困っています。（新曽・女性・60代後半）
- 【158】区画整理区域内に入っているのので、改築・改造等全く考えておりません。（新曽・女性・60代後半）
- 【159】住んでいて、今のところ問題ないです。返信おくれ、申し訳ありませんでした。（新曽・女性・60代後半）
- 【160】毎月2～3回病院に通院していますが、診察料や薬品代が高額で年金では足りなく位なので、その支援をしてもらえると安心して通院できるのですが、それはできないものでしょうか？（新曽・女性・60代後半）
- 【161】障害者のために市営住宅があればいいなと思います。毎年、私はハガキを出していますが、当たらない。お願いします。（新曽・女性・60代後半）
- 【162】家の築年数が古く、又高齢な為に早く区画整理を行っていただきたい。（新曽・女性・60代後半）
- 【163】現在、年金で生活しています。それも毎年金額が少なくなり、大変です。が、子供二人いるのにもかかわらず生活保護をもらっている方がおります。よく調べて下さい。（新曽・女性・60代後半）
- 【164】心配事が出来ましたら願にまいますので、その時はよろしく願い致します。（新曽・女性・60代後半）
- 【165】他人が借りている賃貸マンションの一室を借りておりますが、孫たちも大きくなり自分（1人）が低所得故、引越すこともできず、残り少ない人生とは思いますが、少し自由に暮せる家が（部屋）があるといいと願っておりますが、自助努力次第で考えて行きたいと思います。（新曽・女性・60代後半）
- 【166】高齢者の今後の生活の為、骨折予防の為や脳の活性化の為、楽しくできる軽い運動を教えてくれる人を町会に派遣して頂けたらと思います。（新曽・女性・60代後半）
- 【167】戸田市は暮らしやすいと思います。（新曽・女性・60代後半）

新曽地区・女性・70代前半

- 【168】特にありません。土に親しむ広場をお借りして菜園を楽しんでいます。元気で生きている間、お借り出来るといいなあ...と思いますながら、毎日幸せを感じております。ありがとうございます。（新曽・女性・70代前半）

【169】アンケート結果は印刷物としても出口に置いてほしい。独居老人の安否確認をアウトリーチする仕組みを提案したい。区画整理事業で北側家屋は日照が遠のいている。老人、子ども世帯もあり、健康面で心配です。老人、乳幼児、障害者も集える場（フリースペース）を学校区毎に設置してほしい（新曽・女性・70代前半）

【170】年金が少ない所に介護保険が高いのが、とても気になります。（新曽・女性・70代前半）

【171】自転車に乗らなくなったので、ジャスコやスポーツセンターへ泳ぎに行きたいけれど、タクシーで行くのも大変です。ジャスコ行きのバスを金、土、日運行していましたが、北大通りのバス停に止まって欲しいと思います。（新曽・女性・70代前半）

【172】自転車にも交通ルールをしっかりと守ってほしいです。自転車の右側通行。携帯電話かけながら右側通行が多いです。日傘をさして右側通行が多いですね。（新曽・女性・70代前半）

新曽地区・男性・60代前半

【173】住宅マンションで、周りは工場が多く、町内の人と交流したいが機会がありません。（新曽・男性・60代後半）

【174】〈調査について〉預貯金の金額などなんで必要なのか（新曽・男性・60代後半）

【175】障害者だから。（新曽・男性・60代後半）

【176】道路にミニ公園（コミュニティコーナー）を多数設置してほしい。現在幾つがあるが、大通りに面しているので使えない。住宅地の中に多数設置していただければ、立話し等に便利です。（新曽・男性・60代後半）

【177】トコバスの反対回りががあると便利です。（新曽・男性・60代後半）

【178】年金暮らしなので住宅が心配（新曽・男性・60代後半）

【179】区画整理の説明会に都合により出席できなかったのが不安がある。たとえば家（マンション）の周りの道路とか一軒家の立ち退きなど？ 送付されてくるプリントは非常にわかりにくいです。戸田駅前の梅林が売却されたようですが、跡地はマンション建設なのかどうか気になっています。（新曽・男性・60代後半）

【180】病気がなかなかおらない。（新曽・男性・60代後半）

【181】自立してアパート暮らしがしたいと思う。自分は家事等、身のまわりのことは何でもできるので、1人で市内であれば一日も早く自立したいと思います。（新曽・男性・60代後半）

【182】市内の道路区分状況が悪い。特に歩行者、自転車、通行帯がよくない。横断歩道が少ない。信号が歩行者優先になってない。通学路の整備がひん弱。（新曽・男性・60代後半）

新曽地区・男性・70代後半

【183】国民年金のみですので生活のやりくりがもう大変です。助けて。（新曽・男性・70代前半）

【184】介護施設があるが利用することができない。老人介護施設をもっと増やしてほしい。又、戸田市民を優先的に入所できるようにしてほしい。（新曽・男性・70代前半）

【185】最後まで自力で生きて生きたいが、できなくなった時。老人ホームだと思うが公共施設は数が少なく、有料ホームは高く、入居できるのかどうか心配です。（新曽・男性・70代前半）

【186】ボケ防止などのため囲碁のサークルに入りたいが方法がわからない。碁会所も市内にはないようだ（電話番号冊子には載っていない）。（新曽・男性・70代前半）

【187】老人を対象とした体を動かすクラブが、女性中心のものは公私にわたり沢山あるようであるが（ヨガ、太極拳、踊り、リズム体操、ウォーキングetc）、男性用のものが少ない。もっと運動をやりたいと願っているのにチャンスが少ない。（新曽・男性・70代前半）

【188】下水道の設備（くみ取りが多すぎる）。夏場虫の発生がひどい。駅前の整備より先に。（新曽・男性・70代前半）

【189】戸田市には大変ありがとうございます。今後とも宜しく願い申し上げます。（新曽・男性・70代前半）

【190】より良くするためのアンケートだと思い感謝します。（美女木・女性・60代後半）

7-5 美女木地区

美女木地区・女性・60代後半

【191】母子家庭で暮らしていますが、もう少し利用することが優先的に特典があると良いと思っています。(美女木・女性・60代後半)

【193】笹目地区、美女木地区の方に市民病院が欲しい(美女木・女性・60代後半)

【194】人と接すること不得手です。この地区は地元意識が強すぎて悔しい思いは時々します。でも、仲間はずれになることもありません。自分の気をパッパッと切り替えて、楽しい嬉しい気持と感謝の気持を忘れないでこの場所で生きていきたいと思えます。良い人達も大勢いらっしゃいますもの。みなさんよろしくお願ひしますね。(美女木・女性・60代後半)

【195】個人情報に抵触するということが頭にきているから、隣に人が越してきても仲良くなれない。(美女木・女性・60代後半)

【196】郵便局が近くにないことです。スーパーもです。自転車が乗れなくなったらと思うと心配です。(美女木・女性・60代後半)

美女木地区・女性・70代前半

【197】地震や水害の時荒川低堤防が決壊しないか心配です。(美女木・女性・70代前半)

【198】民生委員のことが、全国的に話題になったりしているが、どんな活動をしているのか見えない。いるかないのかも不明である。名前だけの民生委員なら早急に交代してほしいと思う。全く何をやっているのか分かりません。(美女木・女性・70代前半)

【199】現在娘の家族と生活させてもらっていますが、何かと大変なことも多いですが、充実した生活をさせてもらっています。*****戸田市に移って数年になりますが、なかなか親しく声をかけられる方に、お目にかかれ残念です。(美女木・女性・70代前半)

【200】美女木に住んでいますが、以前(ここに住み始めた時)は戸田車庫から武蔵浦和行バスが通っていて利用していましたが、今は日中は全然なくなり、不便しています。***今も、武蔵浦和に行くときがあります。晴れているときは自転車でいきますが、数年前からひざが悪くなり、タクシーを使うことが増えてきました。以前のようにバスで通えるようお願いしたいと思っています。宜しくお願ひ致します。最近この地域にマンションも増え、人口も随分多くなって参りましたので。(美女木・女性・70代前半)

美女木地区・女性・年齢無回答

【201】近所つき合いなど、前から生活している人達との関係が密でない(排他的である)。(美女木・女性・無回答歳)

美女木地区・男性・60代後半

【202】40年間年金を納めても、生活保護者の方が収入が多いのは納得できません。持家を維持しているが、それまでいろいろな税金は納めてきました。生活保護者、今まで何を社会的貢献をしてきたのでしょうか。権利だけ主張して、まさにこれこそ不公平ではないでしょうか。国民年金で細々生活している者の身になって市政を運営してください。(美女木・男性・60代後半)

【203】他の市町村より戸田市は優遇されていて助かります。(美女木・男性・60代後半)

【204】仕事をして収入があった時は何かと生活ができましたが、失業後は雇用保険で生活です。雇用保険が切れた後の生活を考えると不安で一杯です。死ぬことも頭をよぎります。(美女木・男性・60代後半)

【205】すべてにおいて不便です。交通、お店がほとんどありません。(美女木・男性・60代後半)

【206】アンケート、高齢者には細かすぎてわかりにくい。(美女木・男性・60代後半)

美女木地区・男性・70代前半

【207】高齢者として身体の具合が悪くなったとき、介護を受けられる公的な特別養護老人ホームへの入居を希望する。だが現時点では、施設が足りないと見ているので、速やかに入居できるよう、新設または増設をお願い致します。美女木地区は市内でも諸整備が遅れているので、今後は重点的に取り組んで頂きたいと強く希望致します。（美女木・男性・70代前半）

【208】以前は彩湖道満公園に行き、健康のために散歩したり、人とお話をしたりしていたのですが、駐車場が有料になり車で行けません。家から公園まで自転車や歩いて行くことができません。あの素晴らしい公園に行けなくなりました。とても寂しいです。65歳以上の戸田市民に駐車場の無料化は出来ないのですか？健康のために歩きなさい、人とお話みなさいと言いながら高齢者の楽しみを奪っているのではないのでしょうか？以前の様にお弁当を持って、行き交う人と挨拶したりお話ししたりしながら歩いていた頃になればいいのにと、いつも思っています。（美女木・男性・70代前半）

7-6 居住地区不明

【209】夫が私にドナリます。ストレスの解消の女ですね。眠れなくもなります。夫が電気で動くものやいろんなものを壊して困っています。毎日探し物、今までもずーとですが（カギのついているタンスも）。どうしたらよいか。**県に帰りたいけど、そうもいかず我慢していますが、私ふんざりがつきません。私がしっかりしていれば良いですが、よろしく願います。（無回答・女性・60代後半）

【210】戸田公園の駅周辺の開発が遅れている。もっとショッピングモールを作ってもらいたい。パソコンの活用をもっと利用してもらいたい。（無回答・無回答・無回答歳）

【211】老人に生きる意欲と生き甲斐、そして生きる希望を与える市政上の未来設計をお願いしたい。（無回答・無回答・無回答歳）

調査票

戸田市政策研究所
「戸田市における高齢者の生活と意識」調査
2012年9月

バリアフリーについて

問1 あなたのご自宅では、現在、以下のようなバリアフリー対策をしていますか？

(当てはまる番号すべてに○)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ① 手すりを設置している | ② すべり止めを設置している |
| ③ 段差がない・スロープがある | ④ 車椅子が通れる |
| ⑤ 流しや洗面台が使いやすいものになっている | ⑥ 浴槽は入りやすいものになっている |
| ⑦ 和式便器ではなく洋式便器である | ⑧ 台所のコンロは安全で使いやすいものである |
| ⑨ 緊急通報システムを設置している | ⑩ 寝室とトイレの位置など間取りは使いやすい |
| ⑪ その他（具体的に：_____） | |
| ⑫ バリアフリー対策はしていない | |

問2 今後、あなたのご自宅に、バリアフリー対策が必要だと思いますか？（○はひとつ）

- | | |
|------------------|---------------------|
| ① 必要だと思い、準備をしている | ② 必要だと思うが、まだ何もしていない |
| ③ 不要（→問3へ） | ④ まだ考えていない（→問3へ） |

(問2で必要(①、②)と答えた方にお聞きします)

問2-1 今後どのようなバリアフリー対策が必要だと思いますか？（当てはまる番号すべてに○）

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ① 手すりの設置 | ② すべり止めの設置 |
| ③ 段差をなくす・スロープにする | ④ 車椅子が通れるようにする |
| ⑤ 流しや洗面台を使いやすいものに取り替える | ⑥ 浴槽を入りやすいものに取り替える |
| ⑦ 和式便器を洋式便器に取り替える | ⑧ 台所のコンロを安全で使いやすいものにする |
| ⑨ 緊急通報システムの設置 | ⑩ 寝室とトイレの位置など間取りを変更する |
| ⑪ その他（具体的に：_____） | |

問2-2 バリアフリー対策にどの程度まで費用をかけることができますか？（○はひとつ）

- | | |
|-----------------|---------------|
| ① 0円（余裕はない） | ② 10万円未満 |
| ③ 10～50万円未満 | ④ 50～100万円未満 |
| ⑤ 100～250万円未満 | ⑥ 250～500万円未満 |
| ⑦ 500～1,000万円未満 | ⑧ 1,000万円以上 |

住まいと地域について

問3 あなたがお住まいの住宅は、次のどれにあたりますか？（○はひとつ）

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ① 一戸建て（持ち家） | ② 一戸建て（借家） |
| ③ 分譲マンション | ④ 賃貸マンション・アパート（民間） |
| ⑤ 公営住宅 | ⑥ 都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅 |
| ⑦ 社宅・公務員住宅などの給与住宅 | ⑧ その他（具体的に：_____） |

問4 今の住宅に満足していますか？（○はひとつ）

- | | | | |
|------|-------------|-------------|------|
| ① 満足 | ② どちらかという満足 | ③ どちらかという不満 | ④ 不満 |
|------|-------------|-------------|------|

問4-1 問4で今の住宅に「④不満」「③どちらかという不満」と回答された方におたずねします。

それはどのような不満ですか？あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

- ① 住宅が狭い
- ② 家族や知り合いと同居しているが、専用の部屋がない
- ③ 住宅が広すぎて管理が大変
- ④ 家賃、税金、住宅維持費等の経済的負担が重い
- ⑤ 住宅の構造や設備が使いにくい
- ⑥ 住宅が古くなったりいたんだりしている
- ⑦ 庭の手入れが大変
- ⑧ 住宅の環境が良くない(日照、騒音など)
- ⑨ その他(具体的に：_____)

問5 今後も現在の住宅に住み続けたいと思いますか？(○はひとつ)

- ① ぜひいつまでも住みたい
- ② なるべく住んでいたい
- ③ できれば移りたい
- ④ すぐにでも移りたい

問6 身体の具合が悪くなったとき、あなたはどのような暮らしを望みますか？(○はひとつ)

- ① 現在の住宅にそのまま住み続ける
- ② 現在の住宅を改造し住みやすくする
- ③ 子どもの家に移り世話をしてもらう
- ④ 子どもの家以外の住みやすい家に引っ越す
- ⑤ 公的なケア付き住宅に入居する
- ⑥ 民間のケア付き住宅に入居する
- ⑦ 介護を受けられる公的な特別養護老人ホームなどの施設に入居する
- ⑧ 介護を受けられる民間の有料老人ホームなどの施設に入居する
- ⑨ その他(具体的に：_____)

問7 今、住んでいる地域(小学校区ぐらい)について、あなたが日頃感じていることをお聞きします。

それぞれの質問について、当てはまる番号ひとつに○をつけて下さい。

	当てはまる	当てはまる どちらかと言え ば	当てはまらない どちらかと言え ば	当てはまらない
① 事情が許せば、ずっとこの地域に住みたいと思う	1	2	3	4
② 町内や校区の行事(寄付・清掃など)に参加する方だと思う	1	2	3	4
③ この地域のリーダー(町内会やPTAの役員)はよくやっていると思う	1	2	3	4
④ この地域のたいていの人は信頼できる	1	2	3	4
⑤ この地域のためになることをして、何か役に立ちたいと思う	1	2	3	4
⑥ 色々なことを総合して、この地域の住み心地は良い方だと思う	1	2	3	4

外出やつきあいについて

問8 あなたはどれくらいの割合で外出しますか？(○はひとつ)

- ① ほぼ毎日
- ② 週に4~5日
- ③ 週に2~3日
- ④ 週に1日程度
- ⑤ 月に1日程度
- ⑥ 月に1日より少ない

問9 ひとりで1km以内の場所に行く時、どういう方法で行きますか？(当てはまる番号すべてに○)

- ① 徒歩(杖を使わずに)
- ② 徒歩(杖を使って)
- ③ 手押しカート
- ④ 自転車
- ⑤ 電動三輪車(シニアカー)
- ⑥ 車椅子
- ⑦ 自家用車
- ⑧ タクシー
- ⑨ バス
- ⑩ その他の方法(具体的に：_____)
- ⑪ 外出しない

問 10 住んでいる地域で不便に思ったり、気になったりすることはありますか？（当てはまる番号すべてに○）

- ① 日常の買い物に不便
- ② 医院や病院への通院に不便
- ③ 図書館や集会施設などの公共施設が不足
- ④ 集会施設、市役所、商店など公共的建物が高齢者には使いにくい
- ⑤ 交通機関が高齢者には使いにくい、または整備されていない
- ⑥ 近隣の道路が整備されていない
- ⑦ その他（具体的に：_____）
- ⑧ 不便に思ったり、気になったりすることはない

問 11 家族や友人知人への連絡などに次のような機器を使うことがありますか？（当てはまる番号すべてに○）

- ① 固定電話 ② 携帯電話・PHS ③ ファックス ④ パソコン ⑤ 左記①～④は使わない

問 12 同居していない親族とは、どのくらいの頻度で会ったり、電話等で連絡をとっていますか？

（○はひとつ）

- ① ほとんど毎日 ② 週に3～4回 ③ 週に1～2回 ④ 月に1～2回
- ⑤ 年に数回 ⑥ ほとんどない ⑦ 同居していない親族はいない

問 13 近所の人と、どれくらいの頻度で一緒に出かけたり、お互いの家を訪ねたり、電話で連絡を取り合いますか？（○はひとつ）

- ① ほとんど毎日 ② 週に3～4回 ③ 週に1～2回 ④ 月に1～2回
- ⑤ 年に数回 ⑥ ほとんどない

問 14 あなたは、困ったことや悩みごとがあったときに、相談できる人が何人ぐらいいますか？
人数をお書き下さい。

（_____）人 （→0人の場合は問 15 へ）

問 14-1 それは、どのような方ですか？ 当てはまる番号すべてに○をつけて下さい。

- ① 親 ② 配偶者 ③ きょうだい
- ④ 子ども ⑤ 子どもの配偶者 ⑥ 孫
- ⑦ その他の家族・親族 ⑧ 学生時代の友だち ⑨ 働いていた時の友人・知人
- ⑩ 現在の仕事上の知り合い ⑪ 趣味・同好の仲間 ⑫ 地域の友人・知人
- ⑬ 町内会・自治会の役員 ⑭ 市のワーカーや相談員 ⑮ ヘルパーやケアマネージャー
- ⑯ その他（具体的に：_____）

問 15 病気などで寝込んだときに、世話を頼める人が何人ぐらいいますか？ 人数をお書き下さい。

（_____）人 （→0人の場合は問 16 へ）

問 15-1 それは、どのような方ですか？ 当てはまる番号すべてに○をつけて下さい。

- ① 親 ② 配偶者 ③ きょうだい
- ④ 子ども ⑤ 子どもの配偶者 ⑥ 孫
- ⑦ その他の家族・親族 ⑧ 学生時代の友だち ⑨ 働いていた時の友人・知人
- ⑩ 現在の仕事上の知り合い ⑪ 趣味・同好の仲間 ⑫ 地域の友人・知人
- ⑬ 町内会・自治会の役員 ⑭ 市のワーカーや相談員 ⑮ ヘルパーやケアマネージャー
- ⑯ その他（具体的に：_____）

現在の生活についての考え

問 16 生活の満足度についてお聞きします。

以下のそれぞれの項目について、最も当てはまる番号をひとつ選び、○をつけてください。

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない
① 自分の生活に満足している	1	2	3	4
② 今、幸せだと感じる	1	2	3	4
③ 今の生活環境に満足している	1	2	3	4
④ 日ごろの生活にゆとりを感じる	1	2	3	4
⑤ 日々落ち着いた気分で過ごしている	1	2	3	4
⑥ 孤独だと感じる	1	2	3	4
⑦ 現在の経済状況に満足している	1	2	3	4
⑧ 総合的にみて人生に満足している	1	2	3	4
⑨ 生きていて良かったと思う	1	2	3	4
⑩ 将来に希望がある	1	2	3	4

問 17 以下のそれぞれの項目について、最も当てはまる番号をひとつ選び、○をつけてください。

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない
① 生きがいをもって生活している	1	2	3	4
② 目的をもって毎日を過ごしている	1	2	3	4
③ 趣味などの楽しみをもっている	1	2	3	4
④ 家事をすることがある	1	2	3	4
⑤ 宗教活動や信仰しているものがある	1	2	3	4
⑥ 誰かの役に立っていると思う	1	2	3	4
⑦ 自分は役に立つ人間だと思う	1	2	3	4
⑧ ボランティア活動をしている	1	2	3	4
⑨ 全体的に意欲が低下している	1	2	3	4
⑩ 隣近所との人間関係は良好である	1	2	3	4
⑪ 気軽に付き合える友人がいる	1	2	3	4
⑫ グループ活動を楽しんでいる	1	2	3	4
⑬ 健康状態はよい	1	2	3	4
⑭ 家計にゆとりがある	1	2	3	4
⑮ 困り事があっても、ひとりで解決したい	1	2	3	4
⑯ 人の世話になるくらいなら、不便は我慢する	1	2	3	4

問 18 現在、次のような心配ごとや悩みごとがありますか？（当てはまる番号すべてに○）

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| ① 自分の健康のこと | ② 配偶者の健康のこと |
| ③ 病気などのとき、面倒をみってくれる人がいないこと | ④ 一人暮らしや孤独になること |
| ⑤ 配偶者に先立たれた後の生活のこと | ⑥ 生活費など経済的なこと |
| ⑦ 貯金や不動産などの資産管理のこと | ⑧ 安心して住める家がないこと |
| ⑨ 現在住んでいる家の老朽化による修理や建替のこと | ⑩ 趣味や生きがいがないこと |
| ⑪ その他（具体的に：_____） | |
| ⑫ 心配ごとや悩みごとはない | |

さまざまな活動について

問 19 (1) あなたはこの 1 年間に、グループや団体で自主的に行われている次のような活動に参加したことがありますか？ それぞれの項目について当てはまる番号に○をつけてください。
 (2) 参加していない活動については、今後、それらの活動に参加したいと思うかお答え下さい。

	(1)この 1 年間		※参加していない活動について今後の意向を右にお答え下さい	(2) 今後	
	参加した	参加していない		参加したい 今後は	参加したいとは思わない 今後も
① 趣味（俳句、詩吟、陶芸など）	1	2		1	2
② 健康・スポーツ（体操、歩こう会、ゲートボールなど）	1	2		1	2
③ 生産・就業（園芸・飼育、シルバー人材センターなど）	1	2		1	2
④ 教育関連・文化啓発活動（学習会、子ども会の育成、郷土芸能の伝承など）	1	2		1	2
⑤ 生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくりなど）	1	2		1	2
⑥ 安全管理（交通安全、防犯・防災など）	1	2		1	2
⑦ 高齢者の支援（家事援助、移送など）	1	2		1	2
⑧ 子育て支援（保育への手伝いなど）	1	2		1	2
⑨ 地域行事（祭りなどの地域の催しの世話など）	1	2		1	2
⑩ その他（具体的に：_____）	1	2		1	2

※ この1年間にひとつでも参加した活動がある方におたずねします。

問 19-1 上記の活動のうち最も力を入れたものはどれですか？
 上記①～⑩からひとつ選び、番号を記入してください。 (_____)

問 19-2 現在最も力を入れている活動を始めたきっかけは何ですか？（当てはまる番号すべてに○）

① 友人、仲間のすすめ	② 家族のすすめ	③ 自治会、町内会の誘い
④ 活動団体からの呼びかけ	⑤ 市の広報誌やホームページなどをみて	
⑥ 個人の意思で（問題意識や解決したい課題をもって）		
⑦ その他（具体的に：_____）		
⑧ 特にきっかけはない		

問 19-3 この1年間に参加した活動全体を通じて、参加して良かったと思うのはどのようなことですか？
(当てはまる番号すべて○)

- | | |
|------------------|----------------------|
| ① 生活に充実感ができた | ② 自分の技術、経験を生かすことができた |
| ③ 新しい友人を得ることができた | ④ 社会への見方が広まった |
| ⑤ 健康や体力に自信がついた | ⑥ お互いに助け合うことができた |
| ⑦ 地域社会に貢献できた | ⑧ その他（具体的に：_____） |
| ⑨ 特にない | |

あなた自身と世帯について

問 20 性別はどちらですか？（○はひとつ） ① 男性 ② 女性

問 21 現在おいくつですか？（_____歳）

問 22 結婚していますか？（○はひとつ）

- ① 結婚している ② 死別した ③ 離別した ④ 未婚

問 23 ご自身も含めて、同居されているご家族は全員で何人ですか？（計_____人）

問 24 現在、一緒にお住まいの方は次のうちどなたですか？ いわゆる二世帯住宅や同じ敷地内で別の棟に住んでいる場合も含めて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- ① ひとり暮らし ② 配偶者（夫または妻） ③ あなたの親、または配偶者の親
④ 息子 ⑤ 娘 ⑥ 子どもの配偶者
⑦ 孫 ⑧ あなたの兄弟姉妹 ⑨ その他の親族
⑩ 親族以外の者

問 25 同居されているご家族全員の過去1年間の収入の合計はどれくらいですか？

税込みでお答えください。（○はひとつ）

- | | | |
|-----------------|-------------------|---------------|
| ① 50万円未満 | ② 50～100万円未満 | ③ 100～150万円未満 |
| ④ 150～200万円未満 | ⑤ 200～250万円未満 | ⑥ 250～300万円未満 |
| ⑦ 300～400万円未満 | ⑧ 400～500万円未満 | ⑨ 500～700万円未満 |
| ⑩ 700～1,000万円未満 | ⑪ 1,000～1,500万円未満 | ⑫ 1,500万円以上 |

問 26 あなたは要介護認定を受けていますか？（○はひとつ）

- ① 認定を申請していない ② 認定を申請中 ③ 認定申請したが、「自立」と認定された
④ 要支援1 ⑤ 要支援2
⑥ 要介護1 ⑦ 要介護2 ⑧ 要介護3
⑨ 要介護4 ⑩ 要介護5 ⑪ 認定されているが、要介護度はわからない

問 27 現在のあなたの収入源は何ですか？（当てはまるものすべてに○）

- ① 賃金・給料 ② 農業収入 ③ 農業以外の事業収入 ④ 内職収入
⑤ 家賃・地代 ⑥ 利子・配当 ⑦ 年金・恩給 ⑧ 雇用保険
⑨ 仕送り ⑩ 生活保護費 ⑪ その他（具体的に：_____）

問 28 あなたの過去1年間の収入の合計はどれくらいですか？ 税込みでお答えください。(○はひとつ)

- | | | |
|-----------------|-------------------|---------------|
| ① 50万円未満 | ② 50～100万円未満 | ③ 100～150万円未満 |
| ④ 150～200万円未満 | ⑤ 200～250万円未満 | ⑥ 250～300万円未満 |
| ⑦ 300～400万円未満 | ⑧ 400～500万円未満 | ⑨ 500～700万円未満 |
| ⑩ 700～1,000万円未満 | ⑪ 1,000～1,500万円未満 | ⑫ 1,500万円以上 |

問 29 現在、あなたは収入のある仕事をしていますか？(○はひとつ)

- | | | |
|----------------------|------------|---------------|
| ① 企業・団体の経営者・役員 | ② 正社員・正規職員 | ③ 契約・嘱託の社員・職員 |
| ④ パート、アルバイト、派遣 | ⑤ 自営業主 | ⑥ 自営業の家族従業者 |
| ⑦ その他の仕事(具体的に：_____) | | |
| ⑧ 専業主婦・主夫 | ⑨ 仕事はしていない | |

問 30 あなたがこれまで一番長く従事された仕事は何ですか？(○はひとつ)

- | | | |
|----------------------|------------|---------------|
| ① 企業・団体の経営者・役員 | ② 正社員・正規職員 | ③ 契約・嘱託の社員・職員 |
| ④ パート、アルバイト、派遣 | ⑤ 自営業主 | ⑥ 自営業の家族従業者 |
| ⑦ その他の仕事(具体的に：_____) | | |
| ⑧ 専業主婦・主夫 | ⑨ 仕事はしていない | |

問 31 あなたが最後に卒業した学校はどちらですか？(○はひとつ)

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| ① 小学校(旧制小学校を含む) | ② 中学校(旧制高等小学校・公立夜間中学校を含む) |
| ③ 高等学校(旧制中等学校を含む) | ④ 短大・高等専門学校(旧制高校・専門学校を含む) |
| ⑤ 大学・大学院 | |

問 32 お住まいの地区はどちらですか？(○はひとつ)

- | |
|--|
| ① 下戸田地区……喜沢1・2、喜沢南1・2、中町1・2、下戸田1・2、下前1・2、川岸1・2 |
| ② 上戸田地区……川岸3、本町1～5、南町、戸田公園、上戸田1～5、大字上戸田 |
| ③ 新曽地区……新曽南1～4、氷川町1～3、大字新曽 |
| ④ 笹目地区……笹目南町、笹目北町、早瀬1・2、笹目1～8、大字下笹目 |
| ⑤ 美女木地区……美女木1～8、美女木東1・2、大字美女木 |

問 33 あなたの戸田市での居住経験は次のどれですか？(○はひとつ)

- | |
|----------------------------|
| ① 生まれてからずっと戸田市に住んでいる |
| ② 戸田市生まれだが、戸田市以外で暮らしたことがある |
| ③ 戸田市以外で生まれて、戸田市にやってきた |

問 34 戸田市に何年お住まいですか？ 以前にも住んでいた年数も加えた通算居住年数を教えてください。

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| ① 1年未満 | ② 1～3年未満 | ③ 3～5年未満 | ④ 5～10年未満 |
| ⑤ 10～20年未満 | ⑥ 20～30年未満 | ⑦ 30～40年未満 | ⑧ 40～50年未満 |
| ⑨ 50～60年未満 | ⑩ 60年以上 | | |

問 35 あなた方ご夫婦(あなた)の貯蓄(預貯金、信託、債券、株式、保険など)の総額は、およそどれくらいになりますか？(○はひとつ)

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| ① 100万円未満 | ② 100～200万円未満 | ③ 200～300万円未満 |
| ④ 300～500万円未満 | ⑤ 500～700万円未満 | ⑥ 700～1,000万円未満 |
| ⑦ 1,000～2,000万円未満 | ⑧ 2,000～3,000万円未満 | ⑨ 3,000～5,000万円未満 |
| ⑩ 5,000万円以上 | ⑪ 貯蓄はない | |

戸田市において実施されているサービスについて

問 36 戸田市が高齢者や高齢者のいる世帯を対象に行っている次のようなサービスをご存知ですか？
 (それぞれの質問について、当てはまる番号ひとつに○)

	利用している	知っている 利用していないが、	知らない
① 食事サービス 買い物や調理などに支障をきたしている高齢者に、昼食(1食400円)の提供と安否確認を行い、在宅生活を支援します。	1	2	3
② 日常生活用具給付 在宅で寝たきりやひとり暮らしになっている高齢者に、電磁調理器、火災警報器、自動消火器の日常生活用具を給付します。	1	2	3
③ 緊急時連絡システム ひとり暮らしなどにより緊急時の連絡が不安な方に、緊急の時の発信ができる電話機と、ペンダント型発信機を貸与します。	1	2	3
④ 生活援助活動員の派遣 在宅で自立した生活を営むために、家事などの援助が必要な方で、介護保険制度の介護サービスが受けられない高齢者に対し、生活援助活動員を派遣します。	1	2	3
⑤ 高齢者世帯賃貸住宅家賃差額助成 民間の賃貸住宅に居住している高齢者の世帯が、居住を継続することが困難になったことにより別の住居に転居した場合、住み替えによって生じた家賃の差額を助成します。	1	2	3
⑥ 高齢者居室等整備資金融資 同居している高齢者の居室等の新築、改築、増築、改造、取得などを計画されている方に、資金を融資するとともに、利子補給も行います。	1	2	3
⑦ 民間賃貸住宅入居支援 連帯保証人がいないため民間の賃貸住宅に入居することが困難な高齢者に、民間の保障会社が債務保証し、入居が容易になるよう支援します。また、低所得者には債務保証料の一部を保障します。	1	2	3

問 37 最後に、戸田市で暮らしていく上で、困っていることや心配ごと、ご意見などがございましたら、ご自由にお書き下さい。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
 本アンケート用紙を返信用封筒に入れ、ご返送下さい(切手は不要です)。

「戸田市における高齢者の生活と意識」調査
報告書

2013年3月

発行 目白大学社会学部地域社会学科／戸田市政策研究所
連絡先 戸田市政策研究所（戸田市政策秘書室）
〒335-8588 戸田市上戸田1丁目18番1号
TEL 048-441-1800（内線）470
E-mail seisaku@city.toda.saitama.jp
